ＭＩＣＥの誘致拡大に向けた
ユニークベニュー活用促進事業

報告書

平成30年3月

観光庁

目次

1. 業務目的および業務内容 3

2. 業務内容

2－1「ユニークベニュー支援事業」事務局の管理・運営等 4

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等 6

2－3 採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査 23

2－4 先進事例調査 76

2－5 ユニークベニュー利活用に向けた実践的ガイドラインの作成 103

2－6 ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催 106

3. 総括 131

１．業務目的

■業務目的

MICEの誘致・開催の推進は、海外の人と知恵を日本国内に呼び込むという観点から重要である。誘致のためのツールの一つであるユニークベニューは、海外各都市でも施設利用促進および開発に取り組んでいるところであり、今後も積極的な展開が求められているが、日本においてはユニークベニューとして利用できる施設が大きく増えていない状況にある。

本事業は、ユニークベニュー利活用の有効性・有益性について理解を深め、今後のユニークベニューの積極的な開放・利用促進を図ること目的として、ユニークベニューを利活用した国際会議やミーティング、インセンティブ旅行の主催者に対する支援や、海外・国内の先進的な事例調査やセミナー等を行い、日本のMICE誘致の国際競争力や都市のブランド力向上につなげるものである。

■業務内容

①「ユニークベニュー支援事業」事務局の管理・運営等

②「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

③採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査

④先進事例調査

⑤ユニークベニュー利活用に向けた実践的ガイドラインの作成

⑥ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

⑦事業報告書の提出

２．業務内容

２－１　「ユニークベニュー支援事業」事務局の管理・運営等

観光庁の実施する、ユニークベニュー施設を活用したレセプションや会議等の開催にあたって開催費用を負担する「ユニークベニュー支援事業」について、主催者、PCO、旅行会社等の主催者に対して事業の告知、申請書等の確認や受取および結果通知、採択案件への支援・対応等を実施した。

（１）募集および告知

「ユニークベニュー支援事業」において、支援希望者を公募するために、以下の方法で募集および告知を行った。

・観光庁ホームページでの告知（平成29年6月16日付　報道発表）
・ユニークベニュー関係者（施設管理者、主催者、コンベンションビューロー、PCO、旅行会社等）への各業界団体等を通じた告知

（２）申請書等の確認および受取、結果通知

応募があった案件においては、提出された申請書類等を応募要件を基に適正を確認した。そして、選定委員会において、支援の可否が決定されたのちに、各応募案件に対して、結果通知を行った。

以下、本公募における応募受付期間および応募要件である。

■応募受付期間
平成29年6月16日（金）～平成29年9月11日（月）
（１）第1回応募締切日：平成29年7月11日（火）17：00必着
（２）第2回応募締切日：平成29年9月11日（月）17：00必着

■応募要件
・平成29年8月から平成30年2月までに日本国内で開催が決定している、国際会議、ミーティング、インセンティブ旅行の一環として実施する会議、セミナー、レセプション等の会場として、ユニークベニューを利活用すること。
・会議等が下記のいずれかの条件に当てはまる内容であること。
（１）国際会議については、参加者が50人以上（内、日本国外からの外国人参加者が2割以上）、参加国が日本を含む3カ国以上であること。
（２）ミーティングについては、参加者50人以上（内、日本国外からの外国人参加者が2割以上）、参加国が日本を含む2カ国以上であること。
（３）インセンティブ旅行（企業等が実施する報奨・研修・社員旅行等）については、参加者が50人以上（内、日本国外からの外国人参加者が7割以上）であること。

※対象者への告知書面並びに申請時に必要な関係書類については以下の通り。
・プレスリリース書面
・募集要項
・申請書（様式１）
・収支予算書（様式２）

2．業務内容

2－1　「ユニークベニュー支援事業」事務局の管理・運営等

（3）採択案件への支援および対応

「ユニークベニュー支援事業」選定委員会において採択された案件を対象に、以下の対応および支援を実施した。

①提出書類に関する連絡案内およびその回収

支援金の提供において、各採択案件には以下の書類等の提出を求めた。また、その回収後、各関係者に対してヒアリング・アンケートを実施した。

■提出書類
- 実施報告書
- 参加者アンケート
- 請求書、請求金額内訳書
- 画像データ利用許諾書
- イベント実施時の写真

②採択案件へのヒアリング

採択案件における各関係者へヒアリングを実施した。

※後述「2-3 採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査を実施」を参照。

③支援金額の支払

提出された請求書・請求金額内訳書を確認後、各採択案件へ支援金の送金を実施した。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

申請のあった案件を選定するため、「ユニークベニュー支援事業」選定委員会について、開催通知の発送・集約、会議資料の作成、各委員の委員会出席旅費当の支払い等を行った。また、「ユニークベニュー支援事業」における公募を2回に分けたため、本委員会は2回に渡り開催した。

（１）開催通知の発送・集約等

「ユニークベニュー支援事業」選定委員会開催に向けて、各委員へ開催通知およびその出欠について集約を行った。また、同時に、各委員に事前審査を依頼した。
事前審査内容については、以下の通りである。

■事前審査内容
〔審査条件〕
①施設自体が、日本らしさや地域らしさを生かして、参加者に対して特別感を与えられるものになっているか。
②イベントや演出の方法が、日本らしさや地域らしさを生かして、参加者に特別感を与えられるものになっているか。
③ユニークベニュー利活用にあたっての課題を解決するための具体的な対応策を講じているか。
課題例）時間外利用、施設・展示品保護、道路占有許可、受入環境整備、天候条件、飲食提供、音響設備、暖房設備
④ユニークベニュー関係者（施設管理者、コンベンションビューロー等）と実施に向けた体制が構築出来ているか。
⑤施設が今後も継続してユニークベニューとして利活用される需要が充分にあるか。
〔点数配分〕
審査項目毎に１０点満点で採点。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

（２）第1回「ユニークベニュー支援事業」選定委員会開催

①日時

平成29年8月3日（木）14時～16時

②会場

近畿日本ツーリスト株式会社　本社2階　第3会議室
東京都千代田区東神田1-7-9　ユニゾ東神田ビル

③出席者（敬称略）

委員長	矢ケ崎　紀子	東洋大学国際観光学部国際観光学科　准教授
委員	岩佐　英美子	一般社団法人日本ホテル協会　事務局長
	川崎　悦子	独立行政法人国際観光振興機構　コンベンション誘致部長
	山田　和夫	一般社団法人日本旅行業協会 国内・訪日旅行推進部訪日旅行推進グループ　副部長

④選定対象案件

第1回「ユニークベニュー支援事業」選定委員会においては、以下5案件の応募に対し、支援案件を選定した。

申請案件1　第4回マイクロ波テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議

申請案件２　IEEE音声認識理解国際会議2017

申請案件３　第41回日本眼科手術学会学術総会

申請案件４　第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学会学術大会

申請案件５　登別国際コンベンション協会設立記念インセンティブ旅行招致

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

⑤主な審査基準

【応募要件について】

（ア）申請時に必要な書類が揃っているか。
（イ）開催する会議等は、国際会議、ミーティング、インセンティブ旅行のいずれかに該当するか。
（ウ）利用する施設はユニークベニューに該当するか。
（エ）開催する会議等のイベント参加者が50名以上で、一定数以上の外国人参加者がいるか。
（オ）支援対象外の経費が支援金充当予定の支出に含まれていないか。

【応募案件の内容について】

（ア）施設自体が、日本らしさや地域らしさを生かして、参加者に対して特別感を与えられるようになっているか。
（イ）イベントや演出の方法が、日本らしさや地域らしさを生かして、参加者に特別感を与えられるものになっているか。
（ウ）ユニークベニュー利活用にあたっての課題を解決するための具体的な対応策を講じているか。
（エ）ユニークベニュー関係者（施設管理者、コンベンションビューロー等）と実施に向けた体制が構築されているか。
（オ）施設が今後も継続してユニークベニューとして利活用される需要が充分にあるか。

⑥当日の様子

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

〔申請案件　概要〕

■申請案件１　第4回マイクロ波テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議

（ア）会議等の概要
主催者　：第4回マイクロ波テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議組織委員会
開催期間：平成29年11月19日～23日（5日間）
開催目的：世界的に著名な研究者を招聘し、マイクロ波からテラヘルツ波にわたる電磁波の最新研究成果に関する情報交換。
参加者　：160名、内外国人参加者は90名（5割以上、18か国）

（イ）利用するユニークベニュー
施設名　：護國山　曹源寺（池泉回遊式庭園）
場所　　：岡山県
利用目的：国際会議における参加者の交流を目的としたバンケット

（ウ）ユニークベニューの基本情報
－臨済宗妙心寺派、岡山藩主池田家の菩提寺。
－外国人の受入を積極的に行っており、現在多数の外国人修行僧がいる。

（エ）ユニークベニューとしての利用方法
－本堂で外国人修行僧による禅・法話体験を行う。
－池泉回遊式庭園で、立食形式の飲食提供を行う。
－開催日は紅葉の最盛期であるため、庭の美しさを活かすために間接照明を配置。
－開催地の岡山市は雄町米発祥の地であり、数多くの酒蔵がある。この地域の特徴を紹介するために、地酒をバンケットで提供するとともに、アフターコンベンションとして酒蔵ツアーを提供。

（オ）募集要項に関する懸念事項等
特になし。

（カ）抱えている課題と対応策、その他工夫点
【課題】
曹源寺では、火気が使用できない。
【改善策】
飲食提供を依頼する岡山国際ホテルと交渉し、火気を使わない保温方法を利用。
【工夫点】
①立食であるため、参加者が休憩できる場所を用意。
②海外の参加者を考慮し、寺が洋式トイレを事前に増設。

（キ）ユニークベニュー関係者との連携体制
おかやま観光コンベンション協会も含めて、曹源寺側とは複数回打ち合わせを行うことで、協力体制を構築できた。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

■申請案件２　IEEE音声認識理解国際会議2017

（ア）会議等の概要
主催者：IEEE音声認識理解国際会議2017組織委員会
開催期間：平成29年12月16日～20日（5日間）
開催目的：自動音声認識・理解中心とした音声言語処理に関する学問分野における世界のリーダ研究者を一堂に集め、同分野の現状と将来方向を展望し、21世紀の学術応用を論ずる。
参加者　：200名、内外国人参加者は150名（7割以上、13か国以上）

（イ）利用するユニークベニュー
施設名　：ガンガラーの谷　ケイブカフェ
場所　　：沖縄県
利用目的：国際会議における参加者間での議論と人脈作りの提供を目的としたバンケット

（ウ）ユニークベニューの基本情報
－数十万年前までは鍾乳洞だった場所が崩れてできた亜熱帯の森。
－鍾乳洞内の発掘調査は現在も続いており、歴史的価値も高い遺跡である。

（エ）ユニークベニューとしての利用方法
－立食形式の飲食。
－開催地域の沖縄発祥のスポーツである空手の紹介、演武。

（オ）募集要項に関する懸念事項等
特になし。

（カ）抱えている課題と対応策、その他工夫点
【課題】
①雨天時の対策（鍾乳洞の外にも会場を設ける必要性があり、雨天時の対応が必須）
②会議場とバンケット会場に距離が離れている。
【改善策】
①鍾乳洞外にパワーテントを準備予定。施設側も了承済。
②参加者輸送のためのバスを手配。

（キ）ユニークベニュー関係者との連携体制
会場設営・飲食の手配については施設側と連携した。演目、演者の選定にあたり、沖縄コンベンションビューローと施設管理者の協力体制を構築できた。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

■申請案件３　第41回日本眼科手術学会学術総会

（ア）会議等の概要
主催者　：公益社団法人日本眼科手術学会
開催期間：平成30年1月25日～28日（3日間）
開催目的：眼科手術に関連した基礎的・臨床的研究の発展、ならびに、知識の普及を図り、学術の発展、医療の向上に寄与することを目的とし、その目的を達成するため。
参加者　：100～150名、内外国人参加者は20～30名（2割以上、3か国）

（イ）利用するユニークベニュー
施設名　：京都水族館
場所　　：京都府
利用目的：学術総会における参加者を対象としたパーティー

（ウ）ユニークベニューの基本情報
－2012年に開業した日本最大級の内陸型水族館

（エ）ユニークベニューとしての利用方法
－大水槽前の神秘的な空間でパーティ開催。
－イルカが乾杯と同時にはねる演出。

（オ）募集要項に関する懸念事項等
当案件の会議が国際会議ではないと想定される。また、外国人参加者が、昨年の参加人数8名を鑑みると、募集要項で記載されている2割以上の条件に満たない可能性ある。

（カ）抱えている課題と対応策、その他工夫点
【課題】
①学会会場とパーティ会場が離れている。
②イルカ演出上は屋外であるため、防寒対策が必要。
【改善策】
①シャトルバス乗降場への案内を充実させる。
②参加者に事前に防寒具着用の連絡・防寒具の手配を検討。

（キ）ユニークベニュー関係者との連携体制
施設運営会社および学会運営会社間で定期的に打ち合わせを行うことで、課題を共有し、開催までに様々な課題を解決することができた。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

■申請案件４　第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学会学術大会

（ア）会議等の概要
主催者　：第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学会
開催期間：平成29年9月17日～19日（3日間）
開催目的：アジア環太平洋地域における音声・言語・聴覚障害および摂食・嚥下障害に対する臨床ならびに基礎研究のさらなる発展に貢献するため。
参加者　：500名、内外国人参加者は200名（4割、15か国以上）

（イ）利用するユニークベニュー
施設名　：成田山書道美術館
場所　　：千葉県
利用目的：国際会議における参加者を対象としたコングレスディナー

（ウ）ユニークベニューの基本情報
書の総合専門美術館として、江戸時代から現代を中心とした作品の展示等を行っている。

（エ）ユニークベニューとしての利用方法
－日本文化を体験できるコングレスディナーの開催
－日本古来の書道作品に囲まれ、箏曲の演奏。

（オ）募集要項に関する懸念事項等
特になし。

（カ）抱えている課題と対応策、その他工夫点
【課題】
①時間外の利用制限
②会場へのアクセスが悪い。
③施設保護
【改善策】
①施設側と交渉し、21時まで利用可能に。
②参加者輸送のためのバスを手配予定。
③作品の傍では飲食を行わないよう方向で調整。

（キ）ユニークベニュー関係者との連携体制
駐車・飲食手配等について、施設側と調整を行うことで、協力体制を構築した。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

■申請案件５　登別国際コンベンション協会設立記念インセンティブ旅行招致

（ア）会議等の概要
主催者　：一般社団法人　登別観光協会
開催期間：平成29年9月30日～10月1日（2日間）
開催目的：登別国際観光コンベンション協会の設立に合わせ、市内のユニークベニューを利活用したインセンティブ旅行を招致し、MICE誘致の実績づくりと登別観光のブランド力向上を図る。
参加者　：115名、内外国人参加者は115名（台湾）

（イ）利用するユニークベニュー
施設名　：登別マリンパークニクス
場所　　：北海道
利用目的：インセンティブ旅行におけるイベント開催

（ウ）ユニークベニューの基本情報
－水族館や陸族館、遊園地等を有するテーマパーク

（エ）ユニークベニューとしての利用方法
－当施設を貸切り、ペンギンパレードやイルカ、アシカショーの開催。

（オ）募集要項に関する懸念事項等
特になし。

（カ）抱えている課題と対応策、その他工夫点
【工夫】
同市内の地獄谷で通常行っているイベント「鬼花火」をテーマパーク内で実施。

（キ）ユニークベニュー関係者との連携体制
施設管理者とは実施に向けた協力体制を構築した。

２．業務内容

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

〔各案件に対する委員の主なコメント〕

受付番号	会議等名	委員からの主なコメント
1	第4回マイクロ波/テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議	**◆評価点** ・地酒体験から酒蔵ツアーの発展性は地域への関心をさらに高める効果ありと考える。 ・ＣＢ等地域の公的機関が関与している。 ・外国人修行僧による禅体験は特によいと思う。 **◆指摘・改善点** ・バンケット前の本堂における禅体験が、外国人修行僧による、とあるが、法話を含め、責任ある日本人僧侶も加わり対応することで、よりベニューの特色が理解されるのではないか。 ・サンプルで添付されていた足元照明では、とても暗すぎるように見えるため、紅葉シーズンは魅力的だが、夜に紅葉を楽しめるライトアップ等の設備を充実させる必要がある。
2	IEEE音声認識理解国際会議2017	**◆評価点** ・施設が整っており、イベントのメニュー化ができていることから、継続性が期待できる。 ・ＣＢ等地域の公的機関が関与している。 **◆指摘・改善点** ・会議会場とベニューが離れている点について、ロジまわり・スケジュールの調整が必要と思われる。 ・空手演舞は沖縄らしいが、洞窟の歴史の説明等洞窟ならではの特別感については、演出に対する情報不足で判断がしづらい。 ・本件が本事業にふさわしい内容かについて検討が必要。
3	第41回日本眼科手術学会学術総会	**◆指摘・改善点** ・京都水族館大水槽前でのパーティは発想としてはユニークだと思うが、申請書上、参加者100～150名、内外国人参加者20～30であり、募集要項の条件を満たしていない。 ・ベニューとしてのユニークさは認めるが、日本らしさ・地域らしさという点ではさほどの魅力を感じない。 ・国際会館と会場の移動手段が、現状では地下鉄とシャトルバスという設定かと見受けられるが、参加者目線では魅力が希薄。 ・京都らしい魚類を集めた水族館は、地域的な特性を生かしている施設と考えるが、パーティーの内容とベニューの関連性に関する情報不足で判断が難しい。
4	第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学会学術大	**◆指摘・改善点** ・書の総合専門美術館という特殊性故、今後のユニークベニューとしての継続性に疑問 ・入口ホールがディナー会場なら理解できるが、研修室・会議室ではベニューのユニークさが失われるのではないか。 ・施設自体は、日本文化を感じさせるものであるが、吹き抜けの中央プラザなのか研修室なのか、会場としてどの場所を会場として活用するのか不明 ・申請ユニークベニューの活用方法が一通りの印象であり、もっと参加者に訴求する内容を検討するべきである。
5	登別国際コンベンション協会設立記念インセンティブ旅行招致	**◆評価点** ・実施体制は整備されていると思われる。 ・「実績作り」を目的とした試験的イベントのようであることから、今後も継続して活用予定と考えるが、「コンベンション協会設立記念プログラム」とあるため、今回だけの特別メニューと捕らえると、アシカの餌付け体験や花火等今後他のインセンティブ旅行から要望があった際に対応できるのか。 ・北海道は歴史的・文化的価値のある施設が少ないが、その中で、インセンティブツアーのベニューとして地域資源を活用しようという点は評価できる。水族館や花火は通常のプログラムを超えての対応ではある。 **◆指摘・改善点** ・（一社）登別観光協会が会員施設を利用しての実施であり、今後他からの申し込みに関して、同様のユニークベニューとして実施可能かどうか確認が必要。 ・対象施設の概要を見ると、実施予定日は通常では一般に公開されていると思われる。特に日曜日でもあり、今後、こうした使用法を継続するのであれば、貸切ることで生じる一般利用者への不都合への配慮も重要で、事前の周知等調整が必要。 ・時間外の開放に対する施設の人員配置や保険、対象者のみに限定した入場制限対策、広大な施設での参加者の導線案内、（今回は関係ないと思うが）予約時の手続き等、ユニークベニューとして活用する場合の特別手配に掛かる課題が存在すると思う。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

⑥選定結果

事前審査結果を基に選定委員会を実施し、下記の申請案件が支援対象として採択された。

【申請案件数】 5件
【採択案件】 4件（うち1件は条件付き採択）

申請案件１ 第4回マイクロ波テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議
⇒募集要項に合致しているため、採択。

申請案件２ IEEE音声認識理解国際会議2017
⇒ 募集要項に合致しているため、採択。

申請案件４ 第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学会学術大会
⇒募集要項に合致しているため、採択。

申請案件５ 登別国際コンベンション協会設立記念インセンティブ旅行招致
⇒募集要項に合致しているため、採択。
ただし、当案件に関しては、一般に対しても施設を活用するための方法をメニュー化するという条件付きの採択。

【不採択案件】 1件

申請案件３ 第41回日本眼科手術学会学術総会
⇒募集要項に合致していないため、不採択。
本案件は、国際会議ではない点と外国人参加者が2割以上にならない可能性が高く、募集要項の条件に合致しないため、不採択とした。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

（３）第2回「ユニークベニュー支援事業」選定委員会開催

①日時　平成29年10月2日（月）10時～12時

②会場　近畿日本ツーリスト株式会社　本社2階第2会議室
東京都千代田区東神田1-7-8　ユニゾ東神田ビル

③出席者（敬称略）

委員長	矢ケ崎　紀子	東洋大学国際観光学部国際観光学科　准教授
委員	岩佐　英美子	一般社団法人日本ホテル協会　事務局長
	川崎　悦子	独立行政法人国際観光振興機構　コンベンション誘致部長
	森岡　順子	公益財団法人日本観光振興協会　総合調査研究所　主任研究員
	山田　和夫	一般社団法人日本旅行業協会 国内・訪日旅行推進部訪日旅行推進グループ　副部長

④選定対象案件

第2回「ユニークベニュー支援事業」選定委員会においては、以下3案件の応募に対し、支援案件を選定した。

申請案件１　第23回世界神経学会議
申請案件２　国際イノベーション会議Hack Osaka 2018 前夜祭
申請案件３　次世代ULSIデバイスのための誘電体薄膜科学と技術に関する2017年国際ワークショップ

⑤主な審査基準

第1回と同様。

⑥当日の様子

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

〔申請案件　概要〕

■申請案件１　第23回世界神経学会議

（ア）会議等の概要
主催者　：第23回世界神経学会議
開催期間：平成29年9月16日～21日（6日間）
開催目的：神経内科学の研究、診療、教育における諸課題を検討し、神経内科学の向上を目指すとともに、国民の健康増進のため、神経疾患の治療と予防についても討議を行い、またこれを実践する神経内科専門医を育成することを目的とする。
参加者　：500名、内外国人参加者は250～300名（5割以上、参加国多数）

（イ）利用するユニークベニュー
施設名　：醍醐寺
場所　　：京都府
利用目的：国際会議参加者の交流を図るために行うレセプション

（ウ）ユニークベニューの基本情報
－世界遺産に認定されている真言宗醍醐派総本山。
－国宝五重塔をはじめ、数々の国宝・重要文化財を所持している。

（エ）ユニークベニューとしての利用方法
－レセプション開催前に、「三宝院*」の拝観を予定。
*歴代座主が居住する坊。現在の三宝院は、その建造物の大半が重文に指定されている。
－レセプションは「霊宝館*」の国宝「薬師三尊像」や重要文化財「木造五大明王像」が展示されているスペースでレセプションを開催。
*国宝や重要文化財等が7万5千点以上の寺宝を収蔵している建物。
－晴天時は、霊宝館の庭園等でウェルカムドリンクを振る舞う。
－アトラクションは、僧侶による声明と尺八の演奏を行う。
－醍醐寺の説明資料として、日・英・中（簡）・韓のパンフレットを参加者へ配布。

（オ）募集要項に関する懸念事項等
特になし。

2−2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

（カ）抱えている課題と対応策、その他工夫点

【課題】

会場の近くにある駐車場の京都市の公衆トイレが、全て和式であった。

【改善策】

京都市環境政策局に連絡し、催事前に洋式便器に変更可能か相談した。
催事に は間に合わないが、今後洋式便器に交換する方針となった。
今回は、醍醐寺と調整し、三宝院の奥にある観光シーズン中に臨時開放いている洋式トイレを特別に開放していただく。

（キ）ユニークベニュー関係者との連携体制

【コンベンションビューロー】京都文化交流コンベンションビューロー
レセプション会場として使用することについて、醍醐寺との初期交渉、予約を担当。

【会場指定業者】京都コネクト株式会社
ケータリング手配・会場設営、誘導看板・誘導員の配置等、主催者・PCOとの調整が必要な部分を全て担当。

【Local PCO】株式会社コングレ
主催者・PCO・会場指定業者との調整、レセプションの当日進行、参加者向け配布物の作成、旅行会社との調整を担当。

【PCO】Kenes International
本会議全体のPCO。レセプションの参加登録を担当。

【旅行会社等】JTB 西日本
学会会場（国立京都国際会館）からのレセプション参加者の送迎を担当。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

■申請案件２　国際イノベーション会議Hack Osaka 2018 前夜祭

（ア）会議等の概要
主催者　：国際イノベーション会議Hack Osaka 2018
開催期間：平成30年2月26日
開催目的：大阪に世界中の人材・情報・資金を誘引し、グローバルにイノベーション創出を目指す取組の一環として国際イノベーション会議を開催。
参加者　：約100名、内外国人参加者は60～70名（6割以上、5か国以上）

（イ）利用するユニークベニュー
施設名　：大阪市立美術館
場所　　：大阪府
利用目的：国際イノベーション会議Hack Osaka 2018の前夜祭として、ウェルカムパーティーを開催し、会議当日に向けて参加者・関係者間の交流・親睦を深めることを目的とする。

（ウ）ユニークベニューの基本情報
－日本で三番目に設立された天王寺公園内にある公立美術館。
－建物は、土蔵風の外観に大理石のインテリア、シャンデリアを併せ和洋折衷で、2015年に有形文化財に登録された。

（エ）ユニークベニューとしての利用方法
－ウェルカムパーティーを美術館吹き抜けの中央ホールで開催。
－参加者全員に展覧会チケットを配布し、日本美術展覧会を鑑賞していただく。
－鑑賞の途中で、2階の特別室から日本庭園・慶沢園も鑑賞できるようにする。
－豪華な日本の近代建築を活かすために、弦楽四重奏で参加者をもてなす。

（オ）募集要項に関する懸念事項等
特になし。

（カ）抱えている課題と対応策、その他工夫点
【課題】
①休館日に利用するため、監視員（警備員）が不在。
②美術品等が展示されているため、展示品の保護を行う必要がある。
③飲食を行うため、施設の保護を行う必要がある。
④当日の駐車場の確保を行う必要がある。
【改善策】
①監視員の臨時配置を依頼する予定。
②展示物観覧はパーティー開始までとする。
③床にパンチカーペットを敷き詰める予定である。
④公園事務局と調整を行い、駐車場を確保する予定。
【工夫】
大阪市立美術館は、今まで一般に施設を開放した経験がない。今回は、大阪市が主催している国際会議であったため、開放を行った。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

（キ）ユニークベニュー関係者との連携体制
【施設】大阪市立美術館
施設の利用方法や料金等に関して調整。
【コンベンションビューロー】大阪観光局
会場の選定、アトラクションの企画協力に関して連携を行っている。

■申請案件３　次世代ULSIデバイスのための誘電体薄膜科学と技術に関する2017年国際ワークショップ

（ア）会議等の概要
主催者　：IWDTF2017組織委員会
開催期間：平成29年11月20日～平成29年11月22日（3日間）
開催目的：次世代ULSIデバイスのための誘電体薄膜科学と技術に関する最先端の研究成果を世界から広く集め、関連する国内外の大学・産業界の技術者・研究者に議論ならびに情報交換する場を提供する。
参加者　：150名、内外国人参加者は40名（2.5割以上、5か国）

（イ）利用するユニークベニュー
施設名　：東大寺総合文化センター
場所　　：奈良県
利用目的：東大寺総合文化センターにて東北大学の遠津哲郎氏、國立交通大学（台湾）のEdward Yi Chang氏の基調講演をはじめとする口頭発表を行う。
また、20日には同内小ホールにてポスター発表行う。
21日夜には奈良国立博物館「カフェ葉風泰夢」にてバンケット開催。
バンケットでは、日本酒の利き酒を行い、日本文化を体験していただく予定。

（ウ）ユニークベニューの基本情報
－東大寺境内にあり、図書館、ミュージアム、収蔵所、寺史研究所、華厳学研究所、ホール、ショップ、カフェ等を備えた複合施設。

（エ）ユニークベニューとしての利用方法
－古都奈良の文化財として世界遺産になっている東大寺の境内にて国際会議を開催することで、参加者に日本の歴史を体感していただく。
－また、開催場所である東大寺の説明も会議前の挨拶で行う予定である。

（オ）募集要項に関する懸念事項等
利用する施設は、会議等を開催することを目的として造られているため、ユニークベニューに該当しない可能性があるが、施設全体では東大寺ということで特別性は高い。

2−2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

（カ）抱えている課題と対応策、その他工夫点

【課題】

①本来のセンターの営業時間より、会議の終了時刻が遅いため、時間外利用になってしまう。

②東大寺は観光客が多いため、会議参加者と観光客を分離させなければならない。

【改善策】

①施設と相談し、今回の会議に合わせて特別な措置を講じていただいた。

②一般の観光客が利用する箇所をあらかじめ確認し、運営に支障がないことを確認した。

（キ）ユニークベニュー関係者との連携体制

【コンベンションビューロー】奈良県ビジターズビューロー

会議を運営するためのノウハウを主催者に提供した。

〔各案件に対する委員からの主なコメント〕

受付番号	会議等名	委員からの主なコメント
1	第23回世界神経学会議	◆評価点 ・世界遺産、国宝保有というハードルの高い施設での開催・交渉を進めたことは評価が高い。事業促進の好事例である。 ・紅葉シーズンの夕刻から開催するレセプションは、施設の魅力向上につながる。 ・僧侶による声明と琴、尺八演奏等日本ならではの演出が行われ、演出に工夫がみられる。 ◆指摘・改善点 ・申請書に記載通り、トイレの設備については問題がある。今後の対応策を検討すべき。
2	国際イノベーション会議 Hack Osaka 2018 前夜祭	◆評価点 ・課題への対策に対する姿勢は評価できる。 ◆指摘・改善点 ・洋館と日本庭園、弦楽四重奏の組み合わせもよいが、演出内容にもう一工夫するとなお良い。
3	次世代ULSIディバイスのための誘電体薄膜科学と技術に関する2017年国際ワークショップ	◆指摘・改善点 ・東大寺総合文化センターは、ユニークベニューではなく既存の施設ではないか。 ・東大寺の入場券の配布だけでなく、それと連携したイベント等を行うとなお良い。

2－2 「ユニークベニュー支援事業」選定委員会の運営等

⑥選定結果

事前審査結果を基に選定委員会を実施し、下記の申請案件が支援対象として採択された。

【申請案件数】 3件
【採択案件】 2件

申請案件１　第23回世界神経学会議
⇒募集要項に合致しているため、採択。

申請案件２　国際イノベーション会議Hack Osaka 2018 前夜祭
⇒募集要項に合致しているため、採択。

【不採択案件】 1件

申請案件３　次世代ULSIデバイスのための誘電体薄膜科学と技術に関する2017年国際ワークショップ
⇒募集要項に合致していないため、不採択。
本案件は、申請された案件で利用する施設（東大寺総合文化センター）が、会議等の開催を目的とした施設であり、本事業において採択すべきユニークベニューとは言えないため。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

「ユニークベニュー支援事業」において採択された案件を対象に、施設管理者、主催者、コンベンションビューロー、PCO、旅行会社等の関係者へのアンケート・ヒアリング調査を行い、整理分析を行った。また、採択案件を対象に、会場において参加者にアンケート調査を実施し、参加者の満足度やニーズについて調査した。

（１）採択案件へのヒアリング調査

当事業において支援対象として採択された６案件に対し、以下の要領でアンケート･ヒアリング調査を実施した。

【採択案件】

	番号	会議等名	主団体	開催地域	開催施設	開催日
第1回	1	第4回マイクロ波/テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議	第4回マイクロ波/テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議委員会	岡山県	護國山 曹源寺	平成29年11月19日～23日
	2	IEEE音声認識理解国際会議2017	IEEE音声認識理解国際会議2017組織委員会	沖縄県	ガンガラーの谷 ケイブカフェ	平成29年12月16日～20日
	4	第10回アジア環太平洋音声言語聴覚会学術大会	アジア環太平洋音声言語聴覚学会	千葉県	成田山書道美術館	平成29年9月17日～19日
	5	登別国際コンベンション協会設立記念インセンティブ旅行招致	一般社団法人登別観光協会	北海道	登別マリンパークニクス	平成29年9月30日～10月1日
第2回	1	第23回世界神経学会議（XXIII World Congress of Neurology）	第23回世界神経学会議	京都府	醍醐寺	平成29年9月16日～21日
	2	国際イノベーション会議Hack Osaka 2018 前夜祭（Eve of Hack Osaka 2018）	国際イノベーション会議Hack Osaka 2018実行委員会事務局 都市活力研究所	大阪府	大阪市立美術館	平成30年2月26日～2月26日

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

【各案件調査対象】
・主催者
・施設管理者
・コンベンションビューロー
・PCOまたは旅行会社

【調査方法】
アンケートの事前送付、対面または電話でのヒアリング

【調査実施時期】
各案件のイベント終了後

【調査項目】
アンケート・ヒアリング調査では以下①～⑥の項目を念頭に設問を構築した。
①　開催にいたるまでのプロセス
②　ユニークベニュー関係者（施設管理者、主催者、コンベンションビューロー、PCO）の役割分担
③　施設利用料金・利用ルールの決め方
④　ユニークベニュー利活用の課題とその解決方法
⑤　ユニークベニュー利活用に向けた今後の対応方針
⑥　ユニークベニュー利活用の意向について

<u>主催者に対するアンケート・ヒアリング内容</u>
（ア）今回の会場を選定した理由は何か。
　　一般的なホテル等ではなくユニークベニューを利用しようとした理由は何か。
（イ）.会場の選定・決定に至った経緯は何か。
（ウ）今回ユニークベニューを利用した満足感はどうか。
（エ）今後も利用する機会があれば、ユニークベニューを利用したいと思うか。
　　すでに次回の利用を決定しているか。また、次回ユニークベニューを利用するのであれば、どのような演出・施設利用を行いたいか。
（オ）今回の開催地決定に、ユニークベニューの存在が要因の一つになったか。
　　また、開催地を決定するために、どのような点に焦点を置いているか。
（カ）「ユニークベニュー活用促進事業」への申請は、どのような経緯で知り、申請に至ったか。

<u>施設管理者に対するアンケート・ヒアリング内容</u>
（ア）施設をユニークベニューとして一般に開放した理由は何か。
（イ）今回の利用以外に、ユニークベニューとして施設の貸出を行った経験はあるか。
　　また、ある場合、どのようなイベントの利用が多いのか。ない場合、今回どの様に施設開放の判断を行ったのか。
（ウ）施設をイベントに貸出する上で、どのような課題があるか。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（エ）.施設貸出における、利用料金や利用方法はどのように決定したのか。
（施設独自の基準、コンベンションビューローと協議して決定した基準であるのか。貸出に関して記載したメニューはあるのか。また、利用料金について、施設側の利益はどのように策定されているのか）
（オ）.イベントの主催者や運営側から、施設利用について想定外のリクエストがあった場合、どの様な対応を行っているのか。（どのくらいのレベルで検討を行うか）

運営側（PCO・旅行会社）に対するアンケート・ヒアリング内容

（ア）.会場としてユニークベニューを提案する際に、ユニークベニューの存在を通常どの様に調査をしているか。（独自にデータベース等を有している、コンベンションビューローに都度確認している等）
（イ）.施設を利用するにあたって、施設管理者とどの様に（利用方法・料金等）調整したのか。
（ウ）.実際にイベントを運営し、どういった点が課題に挙げられたか（申請書で挙げている課題以外で）。また、挙げられた抽出された課題についてどのように対応された、対応していく予定か。
（エ）.参加者の実際の反応について、どのような所感であったか。

コンベンションビューローに対するアンケート・ヒアリング内容

（ア）.今回のイベント開催において、どの様な役割を担ったか。イベントや国際会議の誘致活動において「ユニークベニュー」の存在を武器として活用されたか。
（イ）.主催者から会場提案・連携業者の提案がある場合、決まったメニューがあるか。
（ウ）.過去に使用した経験のある施設以外での利用について、問い合わせが入った場合にどの様な対応をしている（してきた）のか。
（エ）.今回の支援が、ユニークベニューの開発・利活用の要因となったか。または、どの様な支援策であれば、ユニークベニューの開放・利活用促進への取組が行い易いか。（今回のような支援金の配布、開放に関するノウハウの提示、ユニークベニュー活用方法の例示等）

各採択案件において当日参加者に対し、満足度やニーズ把握のためにアンケート調査を行った。　調査結果については以降の通り。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

①採択案件１　第4回マイクロ波/テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議

【主催者】

（ア）会場探しの際に曹源寺へ下見に行った主催者が、曹源寺の日本的な魅力を気に入ったため、曹源寺に決定。普段はホテルで会議等を行うため、特別感を求めてユニークベニューの利用に至った。

（ウ）参加者の満足は非常に高かった。実際に、帰国された参加者が曹源寺で体験した「禅」の修行を帰国後も行っているという報告を受けた。禅の体験では、日本人の副住職が英語で説明され、多くの修行僧が外国人であることから、外国人の方の対応に非常に慣れていた。日本独特の文化を体験できたことが、ユニークベニューの魅力として挙げられる。

（エ）次回も機会があれば、ユニークベニューのような会場を利用したいと考えている。ユニークベニューは、個人では利用できないこともあり、会議・イベントへの集客が非常に高くなる。また、プログラム内に特別な体験を組み入れることで、そこを楽しみに参加する方が多くいる。そして、今回は岡山市長が挨拶にいらした点も非常に良かった。

【施設管理者】

（ア）一般に開放したのではなく、岡山市およびおかやま観光コンベンション協会からの依頼（岡山市の政策である国際会議開催件数の向上に寄与する）のみ、協議の上、解放を許可。目的としては、「禅」を海外の方々に周知できることと地域貢献に寄与することである。

（ウ）本施設は、あくまでも禅寺であり、懇親会場と勘違いされては困る。

（エ）料金の設定は特に行っていない。謝礼金として、主催者が決めた額を支払して頂いた。利用方法については、おかやま観光コンベンション協会を中心に協議した。

【運営側】

（エ）大変満足されてる様子だった。また、当日は生憎の雨であったが、「晴れの国岡山」と言われるほど晴れが多い岡山で雨が降ったこと、禅体験中の静けさの中に聞える雨音がより一層特別感を高めた。

【コンベンションビューロー】

（ア）岡山への誘致の段階から、主催者との連携を行っていた。ベニューの紹介から、ケータリング手配、当日設営の業者手配、各関係機関との調整等イベントの全てに関する総括を行っていた。懇親会会場としての曹源寺とそこで体験できる禅の組み合わせは、今回の誘致において決め手の要因になった。

（イ）ある。ただし、曹源寺のような会場に関しては、メニューには記載されておらず、おかやま観光コンベンション協会が必要に応じて主催者に紹介されている。今回利用した曹源寺は、今回ユニークベニューとして初めて利活用され、開放に至るまで3回ほど交渉を重ねた。

（エ）今までにないこと（禅体験等）が体験できることが、大きな要因であった。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

②採択案件２　IEEE音声認識理解国際会議2017

【主催者】

（イ）主催者が会場を知っていた。同会場でのイベント実施は非常に魅力的であるものの、計画初期段階では予算的に厳しい面もあった。ユニークベニュー活用促進施策からの支援が受けられることが分かったことも、会場決定に大きな影響を与えた。

（ウ）ユニークベニューでパーティーを行うことを事前周知していたこともあり、パーティ前に、参加者から「楽しみにしている」という声を数多くいただいた。また、一部の参加者は家族同伴でパーティーに参加するなど、ユニークベニューでのパーティー実施は、会議参加者の増加に、少なからず寄与した。

　また、ユニークベニューでイベントを行うことで、開催地の魅力を参加者に言外にも発信することができる。特別な場所でイベントを行うことで、参加者はもてなされていることを感じることができ、会議に対する満足度も上がる傾向にあるように感じる。

（カ）ユニークベニューを事前視察で訪問した際に、施設管理者の方に支援施策の有無について伺ったところ、本事業について教えていただいた。

　上記で回答した通り、ユニークベニューでのイベント実施は非常に魅力的であるものの、計画初期段階では予算的に厳しかった。本施策による支援が受けられることが分かったことは、ユニークベニューを活用するという決定に至る原動力になった。

（キ）MICE主催者（特に、潤沢な運営資金を持たない学術系会議等）が魅力的なベニューでイベントを行いたいと思った際に、本施策は非常に有用なものであった。是非、今後も情報発信を積極的に行い、本施策をMICE関係者に広く浸透させていってもらえればと思う。

【施設管理者】

（ア）沖縄にしかない自然・歴史・文化を「守るためにその価値を伝えること」が当社創業以来の使命であり、今回の会場であるガンガラーの谷ケイブカフェ（プラスガジュマル広場）も古代遺跡発掘中の天然の鍾乳洞ではあるが、その本物の場所の価値を世界中の方々に伝えることができる機会と考え開放しました。また継続的に守っていく観点で収益事業として行っている。

（エ）なるべくリクエストにお答えできるように対応している。受入当初は想定外だったことも、回数を重ねるごとに想定内になってきている場合が多く、以前に比べるとクライアントのリクエストに早く答えることができる。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

②採択案件２　IEEE音声認識理解国際会議2017

【運営側】

（イ）ガンガラーの谷とは既存契約がある為、料金・支払方法・利用方法等については原則タリフに則って対応を行い、個別の手配内容については施設のご担当者と直接詳細の調整を行っている。

（ウ）収容人数について、 ガンガラーの谷における鍾乳洞の収容人数が180人（立食ビュッフェ）であったことから、入口付近のオープンスペースに仮設テントを設営することで2会場運営を行い、最終的に260名のパーティーを実現。
会場運営では、①鍾乳洞、②仮設テントスペースのいずれかにパーティー出席者が偏ることが無いように双方の会場でそれぞれエンタメを入れることにより会場間の出席者を分散化。
クローク設置においては、従来の収容人数以上の受け入れにあたり、仮設クロークを設置。

（エ）バス駐車場からガイドツアーによる散策を経てケイブカフェに入った際、目の前に広がる鍾乳洞に圧倒されて声を上げる参加者が多くいらっしゃった。またパーティー中も上を見上げて写真撮影をするなど、各国の国際会議に毎回出席している海外経験豊かな出席者からも「これまでのベニューの中でベスト」のお声を頂戴した。

（オ）当日はあいにくの小雨であった為、準備段階で仮設テントスペースの地面が雨で緩み急遽砂でカバーするなど慌ただしい場面もあったが、主催者様およびガンガラーの谷のご協力によりパーティーが無事に完了し、参加者様にも満足頂くことができた。ガンガラーの谷の皆様には改めまして御礼申し上げたい。

【コンベンションビューロー】

（ア）開催地のコンベンションビューローとして、主催者からの問い合わせ対応（芸能アラクションの紹介、支援事業の紹介等）やガンガラーの谷でのパーティー懇親会が決まっていたので、会場への芸能アトラクション派遣について提案した。

（エ）ユニークベニューへの助成金事業は懇親会会場選定した大きく影響していると思う。各地コンベンションビューローやユニークベニュー事業者と連携し利活用促進を進めた方が良い。支援の内容や活用法を事業者に知っていただき、営業ツールとして活用した方が幅広く周知できる。事業者向けに支援内容を案内するセミナーを開いたり、実際に足を運んで説明しても良い。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

③採択案件３　第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学術大会

【主催者】
（ウ）好評であった、普通のホテルでは味わうことができない和のテイストを演出する事ができた。
（エ）利用したいと思う。
ホテルのバンケットでの開催は安心感があるがおもしろ味に欠ける。
日本開催の国際会議では「和風」が喜ばれると実感した。

【施設管理者】
（ア）ここ10年間、拝観入場者が頭打ちとなり減少傾向にある（年間2万人強）。新しい需要を創出し入場者数を増やしたいと考えていた。立地的に成田空港が近く、近隣のホテルでは外国人の宿泊も多くインバウンドの受入を模索していた。
ユニークベニューの受入は、入館者数増加のための契機になり得ると期待した。
（イ）パーティとしての貸出は今回が初めてである。これまで展覧会としての貸出はしていた。成田山新勝寺が美術館の所有者なので使用許可については比較的容易に得ることができた。特に問題はなかった。
（ウ）夜間、野外の照明施設が無く、歩道に沿って照明を設置する必要が有り、簡易的な照明を購入した。不足分はケータリング事業者の照明をレンタルした。
（エ）ユニークベニューとして貸し出す際の料金体系は確立していない。
展覧会以外開催時の貸出料金を基本に主催者と協議の上、料金を決めた。
現在、ユニークベニューとして貸出す際の設定料金を検討中。

【運営側】
（ア）社内にデータがストックされている。
ユニークベニュー紹介会社に確認。今回の場合は「書道美術館」を利用することが当初（見積提出の際）から決まっていた。コンベンションビューローから紹介された。
（イ）施設側から料金の提示があった。
展覧会仕様の貸出を想定している設定だったため、利用時間について合わなかったが、施設側のルールではなく、主催者の都合に沿った対応をしていただけた。
（エ）良かったと思う。特に茶室での「お茶」体験が好評であった。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

③採択案件３　第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学術大会

【コンベンションビューロー】

（ア）パーティー会場を主催者が選定する際、いくつかのユニークベニューを提案。その後、下見をセッティングし同行、決定に至る。
今回は国際会議誘致決定後にユニークベニューを選定したので、決定要因にはならなかった。ただし、国際会議誘致でエリア競合する場合にはユニークベニューは武器になり、プロモーションのパッケージ化の上で欠かせない要素である。

（イ）ユニークベニュー施設一覧はある。
実績があまりないので各施設管理者との関係性も深くなく、PCO、ケータリング会社との連携も構築されていない。ただし、コンベンションビューロー会員の事業者に仕事を紹介するケースはある。今回もユニークベニュー選定では主催者から一任され、主催者の意向を踏まえコンベンションビューローが企画コンペを主催した。

（エ）施設管理者にユニークベニュー活用のメリットを感じていただけた。
今後、前向きにユニークベニュー開催に取り組むとの事。国に望むことは、国立の施設における規制緩和。使用時間、飲食スペース等規制でがんじがらめになっており大きな障害となっている。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

④採択案件４　登別国際コンベンション協会設立記念インセンティブ旅行招致

【主催者】

（ア）会場を選定する背景として、北海道内には地域的に寺社仏閣などの歴史的建造物が無く、元々あるもので対応するにはという所が出発点であった。登別マリンパークニクスは、過去にもインセンティブ等で利用された際に評価が高かったため、会場に選定した。

（ウ）海外からはもちろん日本人も含め多くの参加者から、大変良かったと好評を頂いている。主催者としても個人的にもそれを実感出来た。販売したチケットは短期間で売切れてしまった。今後も機会があれば、ユニークベニューを利用したい。因みに今回のレセプションで利用した前庭はマリンパークニクスには帰属せず、市有施設であるため、今後は市との連携を更に深めたい。

（オ）国土交通省室蘭運輸支局とは従来から様々な意見交換等を行い、様々な情報支援等も受けている。今回もユニークベニュー活用促進事業の制度がある事を教えて頂いた。取組めるものは、全て試してみようという機運もあり申請に至った。

【施設管理者】

（ア）閉園後の時間を使ってのペンギンのパレード等を行うため、通常の入園料とは別建てとなるため一定の収入が見込める。また、今回の様に設立の式典等での利用は報道での露出もあり間接的に広報や集客への宣伝効果もある。

（ウ）（ア）でもある通り、閉園後の時間を活用するため従業員を稼働させなくてはならない。

（エ）閉園後のプログラム（イルカショー、ペンギンパレード）は従来展開している料金と同額。レセプションについては運営側とクライアントとの打合せで決定。

（オ）例えば、今回の前庭でのレセプション開催や鬼花火などもこれまで実施していないという点においては想定外ではあったと言える。この様なことを経験することにより、どのレベルまで対応するかという点で一定の基準を設定出来たと思っている。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

④採択案件４　登別国際コンベンション協会設立記念インセンティブ旅行招致

【運営側】

（ア）社内のデータベースとしてユニークなパーティーベニュー等の情報のストックはあるが、地域的に偏りがあったり、必ずしも最新の状態にアップデートされていない状況である。また、クライアントからの求めによりインセンティブ旅行の方面は変化するため、それにより各地のビューローの情報を活用している。

（ウ）申請書段階では課題無しとしたが、レセプション会場が屋外であることや夜間である事から、天候への対策を迫られた。

（エ）閉園後に通常開放しているプログラム（ペンギンパレード、イルカショー）を大変楽しんでいただけたことと、前庭で行ったレセプションもライトミールというにはかなりしっかりしたメニューで喜んで頂けた。レセプションにて登別市長、台中市輸出入協会理事長双方の挨拶があり、両市の今後の更なる交流に向けた機運醸成にふさわしい会場であったと言える。

【コンベンションビューロー】

（ウ）普段から会場候補となる施設については開発への新しい動きをしているが、過去に事例が無い所への問い合わせがあった場合は、それに応じて対応をしている。これまでの中でネイチャーセンターと連携し、自然と親しむイベントの企画や亀田記念公園での200名規模のバーベキューなどを開発している。

（エ）今回の観光庁による支援策が、同インセンティブ旅行にてユニークベニューの利活用の直接的な要因となったことは間違いない。今後の支援策についてであるが、例えば過去のハンドブック等の手引きの存在をそもそも知らず、今年度に出来上がるものは参考にしたい。今年度と同様な案件への直接の支援策が継続するのであれば是非お願いしたい。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

⑤採択案件５　第23回世界神経学会議

【主催者】

（ア）今回の会合の名称がSocial/cultural networking eventであり、海外からの参加者に文化を紹介し、交流を促進するという趣旨に適っていた。参加予定人数が500名であり、雨天で屋内開催となった場合に収容可能な広さであった。ご本尊等多くの宝物を含め、積極的に一般市民・外国人に紹介するという会場（醍醐寺）の姿勢。いくつか検討した寺院、二条城等と比較して使用料が低かった。

（イ）世界神経学会本部・PCOのサイトビジットを受け、何ヵ所か検討した結果、当初は参加者一人当たり60米ドル以下と予算が限られていることからも国立京都博物館を第一候補としていたが、国宝展の準備期間に当たり不可能となったため、再検討の中で、学会場から遠いと言うことで最初はリストに無かった醍醐寺が検討対象になった。実地調査の結果、日本側としてベストと考え本部との検討会議に提案した。海外からはもちろん日本人も含め多くの参加者から、大変良かったと好評をいただいている。

（ウ）ユニークベニューを使用するかどうかは、その会合の目的によると思う。国際会議では今回のように日本文化の紹介なども目的の一つであることが多く、利用される機会は多い。その時にはユニークベニュー側の姿勢が重要で、単に経済効果だけを狙ったようなものは逆効果の可能性があり、日本文化の紹介といったその施設の本来の姿を、合理的な経費で提供することが重要と思われる。

（エ）京都は世界遺産であり国宝も多くユニークベニューの集まりのようなところであり、当然ながら、海外参加者の関心の高いことを意識して決定した。

（カ）今回検討した多くのユニークベニューは使用料が非常に高額であり、説明を聞いて納得できる合理的な料金設定が必要と思われる。

【施設管理者】

（ア）宗教活動の観点から、祈りの空間として（医学の発展を祈願）醍醐寺を利用いただくことが広報活動となる。会議の趣旨が世界のドクターの医学的な発展を目的にしたもので、医を司る薬師様を奉る醍醐寺のスタンスと合致するため。営業目的の会議等では趣旨が異なるので使用は禁止している。

（イ）2年前から条件付きで開放している。ベニューの活用は全3～4回。企業のパーティではなく自治体の活動や学会等、公的要素が大きいイベントに許可している。

（ウ）儀式は神に対するお祈りであるが、海外からのお客さまにはショーとして映ってしまい、本来の目的と違う趣向になってしまう。

（エ）仕様書や手引きとなるものは存在しない。貸出すという感覚は全くなく、共にお祈りをする空間を共有するだけで営利的な活動ではない。寄付金として収受している。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

⑤採択案件５　第23回世界神経学会議

【運営側】

（イ）醍醐寺は京都コネクトが管理していて、今回の様なイベント開催に慣れていた。料金表は無かったが、計画を提示したあと京都コネクトより料金（寄付金）の提示があった。京都コネクトの対応がとても良かった。

（ウ）特に課題や障害となったことは無かった。利用ルールなどの規制も障害にはならなかった。国宝がある空間での開催は特別感があり、同時開催した他の会場と比較しても好評であった。

【コンベンションビューロー】

（ア）誘致の段階から主催者と一緒に活動した。学会の開催地が京都に確定した後、ユニークベニューの 選定を行った。そういった意味でユニークベニューが誘致の決定要因にはなっていないが、京都のシティプロモーションのパッケージとしてユニークベニューが京都の特徴を印象づけるアイテムとなっているのは間違いない。

（イ）決まったメニュー（条件書や料金表）は存在しない。京都コネクトとの話し合いで内容を詰めていく。醍醐寺を利用する際は、京都コネクトが窓口になるという決まりになっている。諸事慣れている京都コネクトの存在は大きい。

（エ）開発や利活用の要因にはなっていないが、支援いただけることはありがたいと感じている。国に要望することは特に思い浮かばない。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

⑥採択案件６　国際イノベーション会議Hack Osaka 2018 前夜祭

【主催者】
（ウ）一般的な会場とは異なり、そこならではの会場を利用することにより、会の特別感が増す。
（エ）来年度も同様、ユニークベニューの利用を行う予定。その場所ならではの施設を利用したい。
（オ）Hack Osaka 前夜祭では、もともと大阪での開催が決定している（毎年）。

【施設管理者】
（ア）管理運営を行っている大阪市博物館協会と大阪観光局が連携して、ユニークベニュー活用促進に取り組んでるため、その一貫として大阪市立美術館も今回を機にユニークベニューとしての施設貸出を行った。
（ウ）施設を貸出できる日が、休館日等になっており、休館日でもメンテナンスを行うこともあり、実施ユニークベニューとしての施設貸出が行える日にちが限られている。今後更に施設貸出の促進を行うためには、夜間会館等考えていかなければならない。
（エ）今回初めて料金設定を行う上で、従来の行政で規定されている内容で設定してしまうと低価格になってしまうため、ユニークベニューに知見をもっている専門家に査定していただき、料金設定を行った。

【運営側】
（イ）今回利用した大阪市立美術館は、ユニークベニューとして初めての貸出を行った。そのため、施設利用における料金設定等がなかったため、施設側が料金設定を行っていた。そのため、料金設定に時間を要した。
（ウ）床が大理石であったため、養生が必要であった。養生するための絨毯は全て持ち込みとなったため、費用がかかった。また、当日に工事が行われている箇所があると知らず、景観をそこなったのはもったいなかった。事前に知って入れば、会場を変えるなど対応できた。また、今回はユニークベニューとしての利用が初めてだったということもあり、様々な事項に対する決定が遅くなってしまった。
（エ）参加者については、特別な雰囲気を味わうことができ、多くの方が満足したと考えられる。
（オ）今後は、ユニークベニュー貸出時のノウハウが施設側に蓄積され、利用プランを作成してほしい。会場で何ができて、何ができないのか分かれば活用しやすい。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■ヒアリング結果（抜粋）

⑥採択案件６　国際イノベーション会議Hack Osaka 2018 前夜祭

【コンベンションビューロー】

（ア）大阪市立美術館はこれまでにユニークベニューとしての開放はされていなかったため、大阪博物館協会と連携し、施設開放を促した。主催者への会場紹介。

（エ）今回の支援は重要だったと言える。特に、床の養生のためにかなりの費用が掛かったため、支援金があったからこそ大阪市立美術館での開催が可能であった。

（オ）大阪観光局はこれまでに、ユニークベニュー活用促進を行うために、自ら会を設けることもあった。最近では、自然史博物館で他の施設管理者や行政関係者等を招待してイベントを行った。今回利用した大阪市立美術館は、ユニークベニューとしての貸出が初めてであったため、決め事が多くあった。特に、展示物の保護や料金設定があげられる。料金設定については、施設の貸出について一定の料金が行政で定められており、収入源としての料金設定ができなかた。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（２）採択案件における参加者へのアンケート調査

支援対象として採択された6案件における参加者に対して、アンケート調査を実施した。

【各案件調査対象】
イベント参加者

【調査方法】
アンケートの事前送付・配布

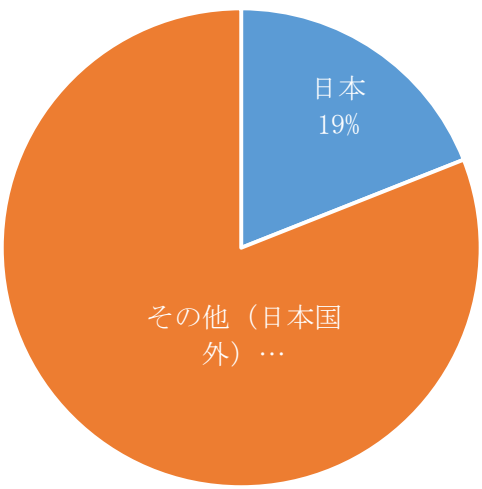
【調査実施時期】
各案件のイベント開催時

【調査項目】

（ア）国籍
　☐日本　　☐その他（日本国外）
（イ）今回の会場について、どのような印象だったか。
　☐良かった　☐やや良かった　☐変わらない　☐やや悪かった　☐悪かった
（ウ）今回の会場で行われた演出/プログラムはどのような印象だったか。
　☐良かった　☐やや良かった　☐変わらない　☐やや悪かった　☐悪かった
（エ）今回利用した施設をまた訪れたいか。
　☐はい　　☐いいえ
（オ）今回のイベントにおいて、不都合に感じた点は何か。（複数回答可）
　☐会場　☐演出/プログラム　☐受付の運営　☐会場内誘導　☐場内表示・掲示
　☐スタッフの接遇　☐会場の立地　☐周辺環境　☐会場の規模
　☐会場の設備（トイレ等）　☐他言語対応　☐その他
（カ）その他意見

【全体分析】

（ア）国籍

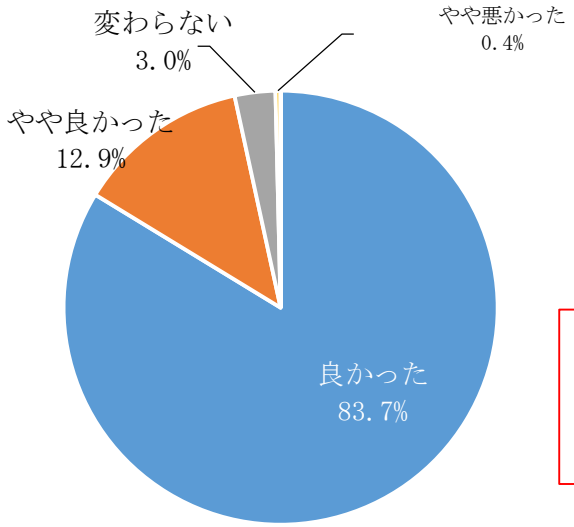


日本	50名
その他（日本国外）	215名

アンケートの回答者数は、合計で265名である。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（イ）今回の会場について、どのような印象だったか。



良かった	221
やや良かった	34
変わらない	8
やや悪かった	1
悪かった	0

「良かった」と「やや良かった」といったポジティブな意見は、264名中255名（約96.5%）と出席者に好評であった。※無回答は除く。

＜主な意見(抜粋)＞

■曹源寺（岡山県）

【理由／良かった】
・会場が良かった。
・残念ながら天気が悪かった。
・街が大き過ぎずとても綺麗。
・美しい庭園と塔、カンファレンスセンターが良かった。

【理由／やや良かった】
・大雨の為、室内で夕食をとらざるを得なかった。

■ガンガラーの谷（沖縄県）

【理由／良かった】
・会場に入った瞬間の洞窟のインパクトが素晴らしく、大変印象深い夕食となりました。
・会場の雰囲気、食事、アトラクション全て良かった。
・独特な雰囲気。
・素晴らしいパフォーマンスと食べ物とワインも良かった。
・雨でさえも素晴らしかった。

【理由／やや良かった】
・会場は良かったが雨が降ると問題。
・場所がかなり良かった。

【変わらない】
・洞窟の居心地が良くなかった。

■成田書道美術館（千葉県）

【理由／良かった】
・心のこもった接待を有難うございました。
・静でリラックス出来る環境。
・美しい場所だった。
・美しかった。綺麗で興味深い。素晴らしいアート。

■登別マリンパークニクス（北海道）

【理由／良かった】
・全て大変良かった。
・函館、登別全てとても良かった。
・飲食全て一流でした。

■醍醐寺（京都府）

【理由／良かった】
・スケジュールの関係で遅かったが食べ物が出た。
・今までこんな穏やかで綺麗な場所に訪れた事がない。
・中立的でとても穏やか(神聖）。
・手の行き届いた、穏やかで清潔な施設だった。
・歴史的で世界のどの場所とも異なった場所だった。
・ユニークな環境でホスピタリティがあった。

【理由／やや悪かった】
・説明が無い。ガイドがするべき。

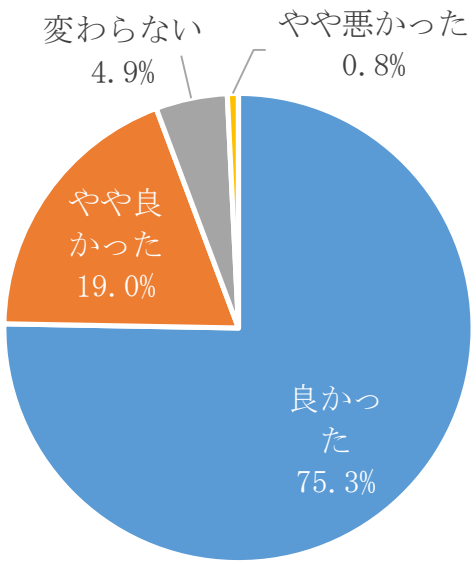
■大阪市立美術館（大阪府）

【理由／良かった】
・日本における日本文化、西洋文化を理解出来た。
・大阪で初めてユニークベニューとして利用でき雰囲気がとても良かった。
・厳かな雰囲気で特別感があった。天井も高く開放感がある。
・とても良かった。イスラエル他海外ゲストの方が良かった。
・会場、飲食物、音楽が素晴らしい。
・とても凝っていて印象的なエントランスホール。

【理由／やや良かった】
・広いオープンスペース。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（ウ）今回の会場で行われた演出/プログラムはどのような印象だったか。



良かった	198
やや良かった	50
変わらない	13
やや悪かった	2
悪かった	0

「良かった」と「やや良かった」といったポジティブな意見は、263名中248名（94.2%）と出席者に好評であった。
また、（イ）会場の印象に対する質問の「良かった」が221名であるのに対し、（ウ）の演出に対する「良かった」は198名と満足度がやや下がった。演出への改善・更なる工夫が見込める。

＜主な意見(抜粋)＞

■曹源寺（岡山県）

【理由／良かった】
・禅のアイディア。
・寺が美しい。

■ガンガラーの谷（沖縄県）

【理由／良かった】
・沖縄発祥の空手演出は迫力があり、良い選択だったと思う。
・空手演武が日本の文化の紹介としてすばらしかった。
・プログラムは良かったが参加者がかたまっていたのは少し不愉快だった。

■成田書道美術館（千葉県）

【理由／良かった】
・素晴らしい書画展と音楽コンサートを2回もしていただき感感した。
・環境に合ってとても良かった。
・良く組織されていた。
・美しい音楽、エレガント、食べ物が美味しい。

■登別マリンパークニクス（北海道）

【理由／良かった】
・鬼火が良かった。
・ペンギンが可愛かった。
・ペンギン、果樹園が良かった。

■醍醐寺（京都）

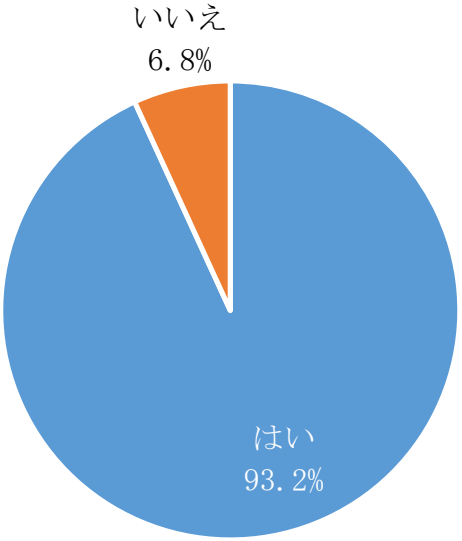
【理由／良かった】
・日本の音楽は良く知らないが素晴らしかった。
【理由／やや良かった】
・席が足りなかった。
・日本風の慣習を体験した。
・プログラム内容が明確だった。
・待ち時間が少し長かった。
【理由／やや悪かった】
・説明が必要。

■大阪市立美術館（大阪府）

【理由／良かった】
・クラシックが良かった。
・大阪フィルハーモニーの演奏が良かった。
・素晴らしい。格調、格式がある。
・今までにない新しい取組みで良い。
・独創的。
・飲み物が良かった。ヴァイオリン演奏が特に気に入った。
・音楽と料理が気に行った。
【理由／やや良かった】
・生演奏など非日常感。
・会場は適しているが、外国人ゲストには伝統的な日本の音楽や踊りの方がもっと記憶に残った。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（エ）今回利用した施設をまた訪れたいか。



はい	245
いいえ	18

会場の印象を確認する設問。再来訪したくなりたいほど「好印象」であった方は、全体の93.2%であった。

＜主な意見(抜粋)＞

■曹源寺（岡山県）

【理由／はい】

・今回は夜だったので次回は昼に訪れたい。

・アクセスがとても良い。スピーカーが整えられていた。

■ガンガラーの谷（沖縄県）

【理由／はい】

・今まで参加した国際会議のバンケットの中で1～2番目に良かった。

・機会があればまた訪れたい。

・違うイベントでも利用検討します。

・特別なところに来たという感覚が持てるから。

【理由／いいえ】

・一度見れば十分。

■成田書道美術館（千葉県）

【理由／良かった】

・画書店をゆっくり静かに観賞するために、より多くの時間を費やしたい。

・とても美しい会場だった。

・初めて訪れたが博物館と庭が素晴らしい。この事を紹介出来る事が嬉しい。

■登別マリンパークニクス（北海道）

【理由／はい】

・果樹園が大変良かった。

・屋外レストランが良かった。

【理由／いいえ】

・体験できる所が良い。

■醍醐寺（京都）

【理由／はい】

・日中に訪れたいが難しい。

・文化的で良いイベントだった。

・文化や歴史が良かった。

・来る計画を立てている。

【理由／いいえ】

・遅い時間に到着したため、庭が見れなかった。

■大阪市立美術館

【理由／はい】

・普段できない場所なので。

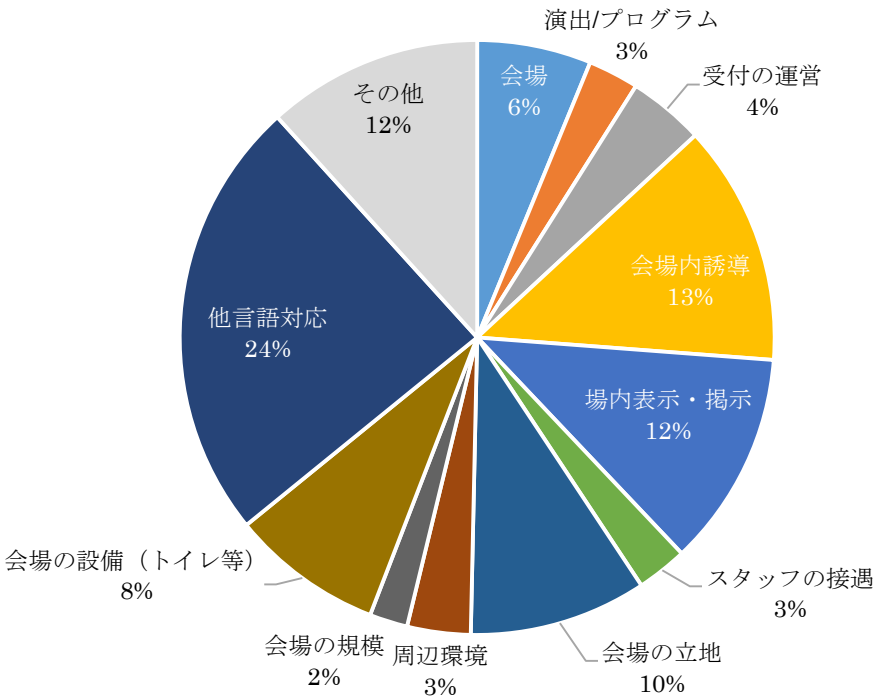
・絵画を鑑賞しましたが、魅力的な物が多いと思う。

・絵画や展示物を見れたこと。

・海外に行く時は美術館に行く事を楽しんでいる。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（オ）今回のイベントにおいて、不都合に感じた点は何か（複数回答可）



会場	9
演出/プログラム	4
受付の運営	6
会場内誘導	19
場内表示・掲示	17
スタッフの接遇	4
会場の立地	14
周辺環境	5
会場の規模	3
会場の設備　（トイレ等）	12
他言語対応	35
その他	17

不都合に感じた点は圧倒的に「多言語対応」で、次に「会場内誘導」が多かった。
「会場の立地」を含め誘導の分野で不都合を感じる出席者が多かったが、この部分では、ユニークベニュー特有の負の側面が露呈した結果となった。

＜主な意見(抜粋)＞

■曹源寺(岡山県)

【その他】

・天気が良ければいうこと無し。
・プロジェクターの明るさ。
・天気が悪かった。
・翻訳のクオリティがもう少し改善されるとなお良い。
・プログラムのスケジュールが良くなかった。

■ガンガラーの谷（沖縄県）

【その他】

・トレッキング入口付近は照明がなく足元が暗い印象がありました。
・クロークが無かった。
・洞窟の説明など会場の紹介があれば良かったかと思う
・いくつかのパフォーマンスに英語訳が無かった。
・ショーの時間を知らなかったので見逃してしまった。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■醍醐寺（京都府）

【その他】

・更に英語の標示や説明があればより良い。
・ポスターを張っている期間が短かった。
・主催者手配の為、近くの観光スポットが分からない。
・目的や意味についてより詳細な説明があれば一層便利になる。
・英語表記を増やして欲しい。

■成田書道美術館（千葉県）

【その他】

・人が多過ぎて室内が少し暑かった。
・画書店に関しても、何かコメントして下さる方がいたら良かったと思う。しかし、見てるだけで感動した。ありがとうございました。

■登別マリンパークニクス

【その他】

・Wi-Fiが無い。
・ちょっと寒い。
・時間が足りなかった。
・寒い。

■大阪市立美術館（大阪府）

【その他】

・着席できれば良かった。
・音響関連。
・名札などある方が、誰がどなたであるか分かって良いと思う。

（カ）その他ご意見・ご要望

■曹源寺（岡山県）

・天気は残念だったがプログラムは良かった。
・素晴らしい経験。
・素晴らしい場所と美しい庭園。
・素晴らしい場所と素晴らしい構成。

■ガンガラーの谷（沖縄県）

・ガンガラーの谷のスタッフの対応も良く、大成功のディナーであったと思う。
・とても興味深い場所。
・イベントは素晴らしかったが椅子があると良かった。

■成田書道美術館（千葉県）

・会場がとても良かった。交通アクセス、トイレ等の設備、全て良かった。
・良く組織されたクリエイティブな大会だった。また訪れたい。
・他の会議や集会にこの会場を絶対に薦めたい。

■登別マリンパークニクス（北海道）

・おもてなしに大変満足した。皆さんにとても感謝している。

■醍醐寺（京都府）

・スタッフはフレンドリーで英語も上手。
・情報が少なかったが、施設とプログラムは大変よかった。
・ポスターを一日中貼っておくべき。ただ、全体的に良かった。
・笛と琴の演奏者が大変素晴らしかった。
・ゴミ箱がもう少し必要。
・訪問できて良かった。

■大阪市立美術館

・良い会場でした。食事もほとんどがハラールだった。
・美術館の開館時間を長くして欲しい。
・エンターテイメント（ヴァイオリニスト）が素敵だった。
・このような場所で活用するアイディアに賛辞を送りたい。
・レセプションの場所が素晴らしかった。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

【総評】

◆主催者へのヒアリング

支援した6案件とも主催者のユニークベニューに対する評価は大変高いものであった。ユニークベニューの活用は通常の会場では味わうことのできない「特別感」を生み出し、特に日本の文化に触れられる体験が参加者に人気が高いことが主催者へのヒアリングからも読み取れた。

採択された6案件の内、5案件は国際学会のレセプションであったが、学会出席の「関心」は、開催国の文化や風土に触れることであり、その点で日本の文化や風土に直接触れることができるユニークベニューは学会出席者の満足度を高める効果があった。

本事業で、ユニークベニューの活用が学会誘致の決定要因になっている案件は無かった。（学会誘致確定後、開催地の選定ではなくレセプション会場の選定において、決定要因となった案件はあった。）誘致段階ではまだレセプションの会場は確定しておらず、誘致が確定した後に会場選定が進められる順番になってることが、学会誘致の決定要因となっていない主な理由である。ただし、会議出席者の満足度向上のポイントとしてユニークベニューの活用が有効であることは主催者の間で一致している。曹源寺の「禅」体験、ガンガラーの谷での「琉球空手」、登別マリンパークニクスでの「鬼花火」、醍醐寺での「声明」など、その土地でしか見ることができない演出への評価が特に高かった。

本支援事業を知った経緯についてはコンベンションビューローが主な情報源であり、学会等の主催者にとってコンベンションビューローの存在が重要であることが分かった。

◆施設管理者へのヒアリング

施設管理者のヒアリングでは、今後積極的に取組む意向の施設と限定的な条件のもとで限られた場合のみ開放する施設とに、開放に向けた方針が二分された。入場者数の増加を目指す美術館・博物館や水族館などが比較的積極的で、神社仏閣などの文化財に指定されている施設では開放のための条件が限定的な傾向にあった。

ユニークベニューの先進事例としてこれまでも取りあげられているガンガラーの谷は、開催のための様々な受け入れ態勢が整備されている。雨天時の対応なども確立されており、ユニークベニューの施設としてはインセンティブパーティーでの活用も多い。活用頻度の高さが様々な状況に対応できる受入体制の構築に繋がっている。

ユニークベニューの開放を目的別に分類すると、以下の3つに整理された。

①収入源としての利活用

成田書道博物館と登別マリンパークニクスは入場者数の増加をユニークベニュー利活用の目的としている。そのため、主催者の意向に柔軟に対応する姿勢が見られスムーズなレセプションの運営に結び付いていた。

②地域貢献のためにユニークベニューとしての利活用

大阪市立美術館は地域貢献の一環としてユニークベニューの実施に取り組んだ。美術館としてのメリットではなく、街の活性化のために協力をした形である。

2－3 採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

③宗教的見地からユニークベニューの利活用

曹源寺と醍醐寺では、イベントの主旨がそれぞれの宗教的世界観に適合するかどうかを検証した上でユニークベニューとしての開放に至っている。今後も通常的に開放する意思は無く、限られた条件のもとで都度検討するという立場をとっている。

一般的に収入を目的とした施設は積極的であり、主催者の要求に比較的柔軟に対応している。文化的な価値が高い施設では魅力度が高い一方で条件や規制が厳しいとされている。

ユニークベニューの活用では、施設側のことを良く知っている仲介者の存在が重要で、コンベンションビューローがその仲介役の担い手の中心となっているケースが多い。そのような中で、醍醐寺を管理する京都ネクストでは、施設管理者と運営側の仲介となり両者にストレスを与えることなくレセプションの企画・運営を支援し、施設側からは信頼を、運営側からは高い評価を得ている。今後、ユニークベニューの数が増えてくることが予想されるため、コンベンションビューロー以外の民間企業が仲介役として機能することが求められているが、その先進的な事例として京都コネクトがあげられる。

◆運営側へのヒアリング

「運営側」とはPCOや旅行会社で、主催者へ企画全体の計画を提示する立場にあり、ユニークベニューを提案に入れるかどうか判断することもある。また、それぞれのレセプション開催における課題解決の中心的な役割が運営側に求められている。本事業では曹源寺（岡山）での開催のようにコンベンションビューローが直接運営に携わったケースもあった。

各申請者から事前に挙げられた課題としては、移動、天候（雨天、防寒）、トイレ、警備、養生、利用時間、火気規制等ユニークベニュー活用時の代表的な項目が並んでいた。それぞれの課題において運営側は適宜対応策を施し問題なく運営を推進した。

後述する参加者へのアンケートでも、「不都合を感じた点は何か」という質問で、上記の課題を問題視した回答はほとんどなかった。一方で多くの出席者が不都合に感じた「言語対応」に対する課題感は事前には意識されておらず、この点において、運営側の抽出した課題と出席者が感じた不都合の間に多少の意識の差があることが明らかになった。

学会の開催計画立案の中でユニークベニューの活用は、コンベンションビューローと主催者との間で決められることが多く、運営側はベニューの選定には関与しないケースがほとんどであった。学会開催におけるコンベンションビューローの存在感が高いことも、あらためて本事業で浮き彫りとなった。

◆コンベンションビューローへのヒアリング

「学会誘致におけるユニークベニューの存在は大変重要である」ことはコンベンションビューローの共通認識である。学会誘致決定の要因は「会議会場」、「アクセス」、「宿泊施設」、「食事」、「周辺の観光地」、「安全面」など開催地の

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

条件やコストなど総合的な評価によると捉えられているが、ユニークベニューの存在は「地域の魅力」をアピールする際の重要なポイントとして位置づけられている。

世界で開催される様々な学会を日本に誘致する上で、コンベンションビューローの役割が大きいことは本事業の支援案件の誘致でも当てはまる。本事業におけるユニークベニューの活用事例では全案件においてコンベンションビューローが深く関与しており主催者と運営側との仲介役として機能を存分に発揮している。

本事業では曹源寺（岡山県）、成田山書道美術館（千葉県）、大阪市立美術館（大阪府）がレセプション会場としては初めての開放であったが、コンベンションビューローと二人三脚で開催に向けた準備を進めており、ユニークベニュー開発の面でもコンベンションビューローが大きく機能していた。

条件や規制が厳しい曹源寺や醍醐寺では、コンベンションビューローが長い年月をかけて交渉を積み重ね開放にこぎつけた経緯もあり、施設とのコミニケーションは大変慎重に進められている。

学会では開催が確定してから実施に至るまで数年の年月があるため、準備に十分な時間を費やすことが可能であることが、ユニークベニューの開放に繋がっている。

ヒアリングの設問である「新しい施設の利用について、問い合わせがあった場合どのように対応しているか」では、「調査する時間的な余裕がないので難しい」との回答が多く、対応が困難である一面が浮き彫りとなった。

本事業では6案件中5案件が学会で、残りの一つも観光協会が主催したものであり、民間企業が主催するMICEが含まれていない。ヒアリングを通してもコンベンションビューローが対象とする主なターゲットが学会（Convention）であることがわかる。今後の取組の中では、Convention以外の誘致への取組をどのように展開してゆくか検証する必要性があると考える。

◆参加者アンケートについて

会場の評価では、「良い」、「やや良かった」で96.3%の参加者から好評をいただき、ユニークベニューに対する印象が非常に良いことが明らかとなった。

着目点は、（ア）「今回の会場について、どのような印象だったか」および（イ）「今回の会場で行われた演出/プログラムはどのような印象だったか」の回答にある。（ア）が会場そのものの印象を質問したのに対し、（イ）は演出に対する質問であった。「大変良かった」と回答した参加者数を比較してみると（ア）は83.7%、（イ）では75.3%であった。演出の「大変良かった」が相対的に少なかったことから、演出における工夫の余地があることが窺える。ユニークベニューの魅力をより効果的に印象づけるために演出が今後のキーポイントとになると考える。

2－3 採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

さらに（エ）の「今回のイベントにおいて、不都合に感じた点は何か」という問いに対して、多くの参加者が「多言語対応」と回答している。ユニークベニューの魅力を伝えるためには、ただ施設を見せるだけでなくその歴史的背景や価値を説明することが重要である。説明表示の多言語対応だけでなく、例えば移動のバス車中やレセプション会場での進行係がわかりやすく解説する等が必要がある。イベントのコンセプト、芸能等のアトラクション、料理、展示物等、その価値を説明することでユニークベニューの魅力がさらに引き立つと考える。

◆まとめ

採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査では、ユニークベニューの活用が、参加者、主催者の双方で大変高い満足度と評価を得ていることがわかった。また学会誘致においてもユニークベニューの存在が大変有効であるとの認識で（主催者、コンベンションビューロー間で）一致した。ただし、学会誘致における要因ではユニークベニューの活用が決め手になっているケースは本事業では無く、そのアピール方法が確立されていない現状も窺い知る結果となった。

支援案件で撮影された写真からは出席者の満足している様子が見て取れ、改めて写真の発信力の高さを証明する結果となった。

現在、各地のコンベンションビューローが準備しているユニークベニューのPRツールでは誰もいない会場の風景写真が使われているケースが多い。実際のレセプションの様子を撮影した写真を加えることで臨場感が加味されインパクトが高い資料を作成することが可能であると考える。MICE誘致の際のセールスキッドとして実際のレセプション風景（画像、映像）を準備することは今後の展開で重要なポイントであると考える。

それぞれの施設管理者にとってユニークベニュー開放の目的は異なる。収入を目的とした取組では、時間設定等の点で柔軟な対応が展開されていた。一方で、収入を事業の目的にするためには、それなりの料金設定が必要であるが、行政の規制があり料金設定を制限している事例もあった。また、施設側のレセプションの運営に対する理解不足もあり、予定していた会場の一部が工事中であったなど、通常的にベニューとしての開放をしていない「不慣れ」から発生する行き違いもあった。

ユニークベニューを円滑に運営するためには、施設の事情と主催者のニーズの両方を把握する仲介者の存在が重要であることが明確になった。

現在、ユニークベニューの活用は、学会等のMICEの一分野に限られている傾向にある。今後、MICEの様々な分野でユニークベニューの活用を展開するためには、主催者のニーズに的確に応えられる対応力の強化と対応を担う事業者の育成が必要になってくると想定される。施設管理者と連携できる地域のケータリング会社やイベント会社等に、現在コンベンションビューローが担っている仲介の役割をアウトソーシングすることが必要になってくると予想される。短期的にはコンベンションビューローの窓口機能を強化させユニークベニューの開催を誘致し、企画を運営する事業者にノウハウを蓄積させ、その中から仲介役を育成することがユニークベニューの利活用推進ににつながると考える。

2－3 採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

また、支援案件の中では演出についての課題も抽出された。特別感の高いイベントでもその内容の説明が不十分であると満足度が低くなることがわかった。一方で、予算的な原因で会場設営や照明など十分な演出ができなかったイベントもあった。

ユニークベニューの活用を促進するためには多くの好事例を出現させ、運営のノウハウを（施設管理者ではなく）地域の運営事業者に蓄積させる必要がある。日本は欧州などの先進国と比較して依然としてユニークベニュー活用の経験値が低い。ユニークベニューを活用した事例を増やすためには行政の支援が必要な段階にあり、さらにMICE誘致の決め手になるような好事例を生み出すためには、一案件に対して費用負担や演出方法等を含め多角的に支援を行い、魅力的なイベントの創出を奨励する必要があると考える。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（３）採択案件の実施報告

6件の採択案件における実施報告は、以下の通りである。

■採択案件１　第4回マイクロ波/テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議

（ア）会議等の概要

主催者　：第4回マイクロ波テラヘルツ波科学と応用に関する国際会議組織委員会
開催期間：平成29年11月19日～23日（5日間）
開催目的：世界的に著名な研究者を招聘し、マイクロ波からテラヘルツ波にわたる電磁波の最新研究成果に関する情報交換。
参加者　：147名、内外国人参加者は57名（3.8割以上）
参加国　：韓国、中国、アメリカ、オーストラリア、チェコ、ハンガリー、オランダ、デンマーク，フランス，アイルランド，ポーランド，スペイン，マレーシア，イタリア、カナダ、ドイツ、インド、オーストリア

（イ）利用したユニークベニュー

施設名　：護國山　曹源寺（池泉回遊式庭園）
場所　　：岡山県
利用目的：国際会議における参加者の交流を目的としたバンケット。
本会議では、世界的に著名な第一線の研究者を招聘し、マイクロ波からテラヘルツ波にわたる電磁波の最新の研究成果に関する情報交換を行うことによって、東アジア・欧米を巻き込んで全世界的な国際協力関係を強固なものにすることを目指しており、参加者数としては160名、参加国数は20カ国を予定している。議題とする周波数領域利用可能性は、超高速通信、非破壊・非接触・非侵襲のイメージング診断、医薬・バイオ応用など多岐に渡り、人類の発展へ大きく貢献できる。特に、テラヘルツ光科学は現在最も進展が著しく、高強度光源、半導体カスケードレーザー等の先端的な光源による非線形光学、半導体物理学、光物性などの基礎研究が盛んに行われるとともに、未来を担う高速通信技術や超高速演算の基盤技術としても注目されている。このような急速な発展から一流の科学者が一同に会する機会を設け、人間にとって最適な科学技術とすることは非常に重要である。

（ウ）当日のスケジュール

17:30　副住職による禅の説明・体験開場（曹源寺本堂内）
18:10　岡山市長挨拶
18:20　X.C.Zhangロチェスター大学教授挨（曹源寺内池泉回遊式庭園）
18:30　Chenivier博士（岡山大学URA）拶乾杯の挨拶（曹源寺内池泉回遊式庭園）
18:40　岡山地酒提供
19:00　学生優秀発表者授賞式（曹源寺内池泉回遊式庭園）
19:45　田中耕一郎京都大学教授閉会挨

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（エ）申請書に記載した課題に対する改善策の結果について

【課題】

飲食提供は、車で10分離れた岡山国際ホテルからのケイタリングを依頼済みである。境内では、火気が使用できない。
テントを設置するため、雨天でも実施可能であるが、大雨に備えて、近くの会場を予約している。禅体験、庭の鑑賞、国際交流を実施後、食事のみ場所を移す。

【改善策の結果】

岡山国際ホテルでは、火気を使わない保温方法を用いた食料提供の経験があり，ランプなどによる加熱保温とした。

立食であるが、庭に面する部屋を開放し、参加者が休憩できる場所を確保している。また、寺では、ユニークベニュー利用を念頭に置き、庭に面した場所に洋式トイレを増設済みである。

また、当日は小雨となったため、野外であるが決行した。その代わり、人数分の雨合羽提供、テントの増設を行い対応した。また、副住職のご厚意により，寺の中の部屋の開放を行った。

（オ）その他特記事項

希望者（40名）には、提供した岡山地酒の酒蔵に、次の日に連れて行った。醸造工程見学，試飲などを行い、好評であった。見学後、2、3本とまとめて購入して帰る参加者も多数であり、岡山の地酒の良さを知ってもらうことが出来た。
禅体験では、あぐらをかくことができない海外参加者に対して，椅子を準備した。
アンケートの回収率を上げるために、チケットの裏側にアンケートを印刷するとともに、使い捨ての鉛筆を提供した。

（カ）当日の様子

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■採択案件２　IEEE音声認識理解交際会議2017

（ア）会議等の概要

主催者：IEEE音声認識理解国際会議2017組織委員会
開催期間：平成29年12月16日～20日（5日間）
開催目的：自動音声認識・理解中心とした音声言語処理に関する学問分野における世界のリーダ研究者を一堂に集め、同分野の現状と将来方向を展望し、21世紀の学術応用を論ずる。
参加者　：276名、内外国人参加者は228名（8割以上）
参加国　：アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、オランダ、チェコ、スウェーデン、フィンランド、中国、韓国、台湾、シンガポール、インド、ロシア、カタール、日本

（イ）利用したユニークベニュー

施設名　：ガンガラーの谷　ケイブカフェ
場所　　：沖縄県
利用目的：国際会議における参加者間での議論と人脈作りの提供を目的としたバンケット。
　自動音声認識・理解を中心とした音声言語処理に関する学問分野における世界のリーダー研究者を一堂に集め、同分野の現状と将来方向を展望し、21世紀の学術と応用を論ずることを目的とする。

（ウ）当日のスケジュール

17:15 ガンガラーの谷（鍾乳洞が崩壊してできた亜熱帯の森）散策
17:30 開場（ケイブカフェ）
18:00 沖縄の伝統楽器（三線、琉球笛）を用いた民謡の演奏
18:30 空手演舞
19:30 沖縄の伝統楽器（三線、琉球笛）を用いた民謡の演奏
20:30 閉会

(エ) 有識者によるフィードバック内容への改善策・方針について

【フィードバック内容】
　空手演舞は地域の特性が出ており、良い演出であるが、洞窟ならではの特別感については、演出との関係性が希薄である。当該施設を利用することによって、どのようにその地域の歴史や文化を伝えられるか、演出方法に関して更に検討する必要がある。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

【改善策・方針】

洞窟ならではの特別感を体験していただく目的で、新たに以下の（1）の演出を行った。また、空手演武については、沖縄ならではの特別感を体験していただく目的で、以下の（2）の演出を行った。

（1）洞窟でのパーティ開始に先立って、洞窟の裏側に広がる天然の亜熱帯林を散策する小ツアーを企画し、洞窟周辺のエリアの自然の雄大さや歴史の深さを体験していただけるようにした。この亜熱帯林は、鍾乳洞が数十万年前に崩れて生成されたものである。さらに、小ツアーの最後に、亜熱帯林から洞窟の裏口へ直接入場するようにすることで、自然の奥の特別な場所でパーティを開いているかのような感覚が得られる演出にした。

また、パーティの開始時に、①本洞窟は太古から存在する自然の鍾乳洞であること、②様々な歴史的発見（世界最古の釣り針等）がなされている考古学的価値の高い場所であること、も参加者に伝えた。

（2）空手演舞の際には、空手の発祥地が沖縄であることを伝え、沖縄は世界的文化の発信地であることも伝えた。

（オ）申請書に記載した課題に対する改善策の結果について

【課題】

（1）ユニークベニューの全面貸切の可否　⇒　施設管理者を通し、全面貸切の手配済み。

（2）演者、演目の選定　⇒　沖縄コンベンションビューローと施設管理者の協力のもと、演目は空手の演武に決定し、現在、演者選定中。

（3）雨天時の対策　⇒　鍾乳洞の外の会場にパワーテントを準備予定（施設管理者も設営に可に関して了承済み）

（4）本会場とユニークベニューが距離的に離れている　⇒　参加者を輸送するためのバスを手配予定。

【改善策の結果】

（1）予定通り、ユニークベニューを全面貸切の上、イベントを行った。

（2）コンベンションビューローと施設管理者の協力のもと、演舞者と演目の選定を行った。

（3）パワーテントを3機設置することで、雨天であったにも関わらず、問題なくパーティを行うことができた。

（4）大型バスを手配し、参加者を輸送した。また沖縄で慢性的に発生している夕方の渋滞をバスが避けられるよう、会議プログラム終了時間を調整した。結果、迅速に参加者を輸送することができた。

（カ）当日の様子

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■採択案件３　第10回アジア環太平洋音声言語聴覚会学術大会

（ア）会議等の概要

主催者　：第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学会
開催期間：平成29年9月17日～19日（3日間）
開催目的：アジア環太平洋地域における音声・言語・聴覚障害および摂食・嚥下障害に対する臨床ならびに基礎研究のさらなる発展に貢献するため。
参加者　：104名、内外国人参加者は55名（5割以上）
参加国　：アメリカ、インド、オーストラリア、韓国、カンボジア、シンガポール、スイス、タイ、台湾、中国、日本、香港、ベトナム、マレーシア

（イ）利用したユニークベニュー

施設名　：成田山書道美術館
場所　　：千葉県
利用目的：アジア環太平洋地域における音声・言語・聴覚障害および摂食・嚥下障害に対する臨床ならびに基礎研究のさらなる発展に貢献するため。

（ウ）当日のスケジュール

当日は、成田山書道美術館の2F にある「研修室」と「会議室」を使用し、Congress Dinner を開催した。美術館周辺の道路状況を考慮して、会議会場である国際医療福祉大学・成田キャンパスからは大型バスのみならずマイクロバスも手配し、全参加者がディナー開始30 分前までに到着できるよう輸送計画を立てた。ディナー会場は一般公開終了後の短時間での準備ではあったが、Welcome Drink までの待機時間を有意義に過ごしていただけるよう、美術館内および成田山公園をお楽しみいただく他下記2 点のアトラクションを実施した。

(1)茶道体験…成田市観光プロモーション部に募集していただいた市民団体にご協力いただき、海外参加者を中心に、ディナー前後に4 回のグループに分けて茶道体験を楽しんでいただいた。

(2) エントランスでの四重奏…ちば国際コンベンションビューローと（公財）千葉県文化振興財団にご協力いただき、千葉交響楽団による四重奏で参加者をお出迎えした。天井が吹き抜けで音響効果抜群のエントランスでの演奏は大変好評で、最後はアンコール演奏を待つ参加者のためにバスの出発時間を遅らせるほどの人気だった。

（※当日のタイムテーブルは次項参照。）

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

<table>
<tr><th>時間</th><th>Congress Dinner 会場</th><th>茶室</th><th>アトラクション（千葉交響楽団）</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td rowspan="3">16:45～17:15　演奏①</td></tr>
<tr><td>17:00</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td rowspan="4">17:20～17:50　お茶体験①
Group A（10名）</td><td></td></tr>
<tr><td>17:30</td><td>17:30　会場 OPEN</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="2">Welcome Drink</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>18:00</td><td>Congress Dinner 開始</td><td></td><td>18:00　演奏終了</td></tr>
<tr><td></td><td>主催挨拶・来賓挨拶 等</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>乾杯</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>18:30</td><td></td><td rowspan="3">18:30～19:00　お茶体験②
Group B（10名）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td rowspan="3">18:50～19:20　演奏②</td></tr>
<tr><td>19:00</td><td></td><td rowspan="3">19:00～19:30　お茶体験③
Group C（10名）</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>19:30</td><td></td><td rowspan="3">19:30～20:00　お茶体験④
Group D（10名）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>中締め</td><td rowspan="3">19:40～20:10　演奏③</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>20:00</td><td>Congress Dinner 終了</td><td></td></tr>
</table>

（エ）有識者によるフィードバック内容への改善策・方針について

【フィードバック内容】

(1) 施設の特殊性が高く、継続性が不透明である。今後、ユニークベニューとして活用していくために、飲食等の課題への対策を講じなければならない。

(2) ユニークベニューの活用方法が一通りの印象であり、更に参加者に訴求する内容を検討するべきである。

（演出においても、書のデモンストレーションを行う等の特別な演出や工夫があれば良い）

【改善策・方針】

(1) スタッフによる定点誘導を設け、飲食の可否エリアの案内を徹底することで、展示品および建物の保護に力を入れた。また、季節柄ケータリングの受入れが困難な時期ではあったが、過去に実績のある周辺ホテル以外にもベジタリアン・フレンドリーハラル等の食事制限にも対応できる新業者を提案することで、年間を通じてユニークベニューとして利用いただける環境を整えた。

(2) 事前登録者だけでなく、未登録者でも会期中に興味を抱いて当日登録が増えるよう、関連する制作物（バスチケット・茶道体験チケット・プログラム抄録集に掲載する案内状や会場配布のチラシ等）の書体を書道体で作成し、統一感を出した。また、美術館ではスペースがなく実施困難だった書道体験は、学会場で開催した学生ボランティアのサポートによる日本文化体験プログラム内で実施し、多くの海外参加者が参加し、Congress Dinner 会場の期待値を高めることができた。なお、美術館内は通常日本語のみの解説となっているため、学芸員・大学教員の方々にもご協力いただき、海外参加者からのお問い合わせにも英語で対応できるよう適宜語学スタッフを配置するなど、全参加者に作品をお楽しみいただけるよう工夫した。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（オ）申請書に記載した課題に対する改善策の結果について

【課題】

(1) 時間外利用：施設管理者に了承を得ている。
(2) 会場へのアクセス：大会側からバスを手配予定。
(3) 飲食提供：ケータリングをビュッフェ形式で手配する。
(4) 施設保護：定点誘導を設け、作品のそばで飲食を行わないようにする。
(5) 道路占有許可：駐車予定箇所を事前予約。

【改善策】

(1) 各関係機関協力のもと、21 時完全撤収を厳守した。
(2) 輸送距離・時間・美術館周辺の道路状況等を考慮して、大型バスだけでなくマイクロバスも手配し、最寄りの駐車場にアクセスできる輸送環境を整え、参加者の徒歩による移動距離を最大限に短縮した。また、招聘者と一般参加者の出発時間に時差をつけたことで、美術館到着時も限られた駐車スペースで混雑することなく、各自がスムーズにそれぞれのアトラクションをお楽しみいただけた。
(3) 事前に搬入出スケジュールを共有し、必要に応じて養生を行い裏導線から準備を行った。会場保護の観点から、テーブルクロスの設置の徹底や、食事のサーブ人員・サポートスタッフを十分に配置することで、たとえ会場が混み合っても参加者に対するおもてなしが徹底でき、あらゆるリクエストに応えられる体制を整えた。また、上記2(1)にもあるように、宗教上の理由等による食事制限にも対応し、日本ならではのメニューも交えることで、参加者にお楽しみいただけた。
(4) 上記2(1)にあるように、スタッフによる定点誘導を設け、飲食の可否エリアの案内を徹底することで展示品および建物の保護に力を入れ、結果的に会場を汚すことなく無事に終了した。
(5) 予め駐車場利用スケジュールを共有し、関係車輌情報を美術館側に申請することで、当日はスムーズに関係車両の出し入れを行うことができた。なお、使い分けとしては、VIP 用に美術館脇の無料駐車スペースを提供し、参加者用のバスは隣接した一般有料駐車場を使用した。Congress Dinner 終了時は夜20:00 過ぎで外が暗いため、駐車場までの動線は照明器具や車のヘッドランプで照らす等、参加者が暗闇でつまずくことがないよう、誘導スタッフの声がけと共に安全に努めた。

（カ）その他特記事項

国内外の参加者より、素敵な美術館・公園であるとのお声が多く、大変好評だった。ある国内参加者からは「成田空港付近にこのような日本文化を感じられる場所があることを知らなかったが、今後は海外の友人などに紹介したい」といった声や、「成田駅から乗ったタクシードライバーも知らなかったが、近くにこのような素敵な施設があるのに勿体ない」というご意見が寄せられた。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（キ）当日の様子

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■採択案件４　登別国際コンベンション協会設立記念インセンティブ旅行招致

（ア）会議等の概要

主催者　：一般社団法人　登別観光協会
開催期間：平成29年9月30日～10月1日（2日間）
開催目的：登別国際観光コンベンション協会の設立に合わせ、市内のユニークベニューを利用したインセンティブ旅行を招致し、MICE誘致の実績づくりと登別観光のブランド力向上を図る。
参加者　：113名、内外国人参加者は96名（台湾）

（イ）利用したユニークベニュー

施設名　：登別マリンパークニクス
場所　　：北海道
利用目的：インセンティブ旅行におけるイベント開催。
登別国際観光コンベンション協会の設立に合わせ、市内のテーマパークを活用したインセンティブ旅行を招致し、MICE誘致の実績づくりと登別観光のブランド力強化を目的とする。

（ウ）当日のスケジュール

17：00　登別マリンパークニクス　着
17：20　ペンギンパレード
17：35　イルカショー
17：50　館内見学
18：20　ハッピーアワー（クルーズキッチンによるライトミールの提供）
【ハッピーアワー進行】
①主催者挨拶　（一社）登別観光協会　会長　唐神　昌子
②市長歓迎挨拶　登別市長　小笠原　春一
③台中市輸出入協会挨拶　理事長　王　連　應
④乾　杯　台中市政府顧問　廖　豊　民
19：00　地獄の谷の鬼花火（ニクス城正面階段）６体の湯鬼神（赤鬼・青鬼）による手筒打上花火
19：30　マリンパーク出発
19：50　ホテルまほろば着

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（エ）有識者によるフィードバック内容への改善策・方針について

【フィードバック内容】

(1) 「実績作り」を目的とした試験的イベントのようであることから、今後も継続して活用予定と考えるが、「コンベンション協会設立記念プログラム」とあるため、今回だけの特別メニューと捉えると、アシカの餌付け体験や花火等に関して今後他のインセンティブ旅行から要望があった際に対応できるのか。一般活用に向けて、対策を講じる必要がある。

(2) 開催日が日曜日であるため、貸切ることで生じる一般利用者への不都合も考慮すべき。事前周知等の措置を行う必要がある。

(3) 時間外の開放に対する施設の人員配置や保険、対象者のみに限定した入場制、限広大な施設での参加者の導線案内等に関する対策を講じる必要がある。

(4) 良いモデルケースになるために、観光協会に工夫を行っていただきたい。台湾のお客様にも特別感を味わってもらえる演出を考える必要がある。

【改善策・方針】

(1) 登別マリンパークニクスでは、17時の閉館後の施設の貸切りについて、申し込みがあれば施設ニューの一つとして開放することとしているため、今後のインセンティブ旅行の受け入れは可能であり、ペンギンパレードやアシカの餌付けなどの特別体験メニューを提供することとしている。

(2) 施設は17時までの営業であり、その後の解放となるため一般客に影響はない。

(3) 開放は時間外となるが施設としては通常営業と変わらないため、人員配置、保険、参加者の導線確保等に支障はない。

(4) 登別市には歴史的、文化的な建造物がないことから、既存の地域資源や観光施設を活用せざるを得ない状況であるが、その中で既存施設の活用、イベントの組み合わせなどにより特別感を創出していきたいと考えている。今回は、施設の貸切メニューのほか地獄谷において期間限定で開催している「鬼花火」の特別開催やキッチンクルーズを活用したライトメニューの提供など、これまでにない特別なイベントを企画したことから参加者にも十分満足いただいたと考えている。今後についても「鬼花火」以外にも伝統芸能の「熊舞」や「湯鬼神の舞」など組み合わせるなど様々な工夫をしながら特別感を出していきたい。

（オ）申請書に記載した課題に対する改善策について

【課題】

申請段階では「なし」としたが、会場の候補となるテーマパーク等の屋外施設の利用にあたっては天候に左右されることがある。このため、企画段階ではできるだけ雨や風等に左右されない事業を検討するなどの工夫が必要となる。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（カ）当日の様子

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■採択案件５　第23回世界神経学会議

（ア）会議等の概要

主催者　：第23回世界神経学会議
開催期間：平成29年9月16日～21日（6日間）
開催目的：神経内科学の研究、診療、教育における諸課題を検討し、神経内科学の向上を目指すとともに、国民の健康増進のため、神経疾患の治療と予防についても討議を行い、またこれを実践する神経内科専門医を育成することを目的とする。
参加者　：436名、内外国人参加者は360名（8割以上）
参加国　：61カ国

（イ）利用したユニークベニュー

施設名　：醍醐寺
場所　　：京都府
利用目的：国際会議参加者の交流を図るために行うレセプション。
　レセプションの前には重要文化財に指定されている「三宝院」の自由拝観そして会場となる霊宝館の平成館では、国宝「薬師三尊像」や重要文化財「木造五大明王像」が展示された空間でレセプションを開催することで、日本の文化を海外の方に体感いただき、日本の古き良き伝統文化を各国から参加された方にアピールし、今までにないSocial Networking Eventを実施する。

（ウ）当日のスケジュール

17:30　開場　三宝院　自由拝観
18:00 霊宝館 ドリンクサービス
19:00 平成館　会場オープン　ウエルカムドリンク
19:30 醍醐寺 総長　ご挨拶
19:35 声明
19:35 開式の辞：第23回世界神経学会議大会長 水澤　英洋
19:40 母体団体代表挨拶：世界神経学会連合会長　ラード シャキール
19:45 乾杯の挨拶　社交プログラム委員会 委員長　吉良潤一
　歓談
20:20　琴と尺八の演奏
20:40 歓談
21:25 中締め：一般社団法人日本神経学会 代表理事髙橋良輔
21:30　閉会

（エ）有識者によるフィードバック内容に対する改善策・方針について

【フィードバック内容】
　10台でのバス移動については、移動時間が更に短縮できるように、電車での移動も検討する等、今後は対策を取っていく必要がある。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

【改善策・方針】
　バス移動については、参加者に事前にホームページおよびメールで案内したこともあり、ほとんどの方がバスを利用され、また、バス手配のJTBとも連携をとり、スムーズに行うことができた。 また、移動時間は50分と時間を要するが、予めその時間を想定して、バスの運行を行ったため、参加者からの不満もなかった。もしろ、会場の決定の際は、移動時間が長いことが気になったが、世界遺産の醍醐寺をSocial Networking Eventの会場にして本当によかった。海外の参加者はもちろん日本の先生方からも大絶賛だった。

（オ）申請書に記載した課題に対する改善策結果について
【課題】
　レセプションを行う三宝院に近い駐車場の京都市の公衆トイレが、男性用女性用ともに全て和式で、外国人参加者が使用するには極めて使用しづらい。
→醍醐寺との調整で、もとも使用する予定のなかった、三宝院の奥にある、観光シーズン中に臨時トイレとして使用している場所（洋式便器5×2棟）を特別に開放いただけることとなった。オフ期で清掃が必要だが、催事に間に合わせて専門業者による清掃をいただけることとなった。

【改善策結果】
醍醐寺の方にご協力をいただき、当日もスムーズに運営できた。

（カ）その他特記事項
　醍醐寺の寺宝・伝承文化財は、国宝69,419点、重要文化財6,522点、その他未指定を含めると仏像、絵画をはじめとする寺宝・伝承文化財は約15万点におよび、古代、中世以来の貴重な宝物が静かに安置されており、今まで京都の国内・国際学会の時にいろいろな会場を使用したが、今回本当にスケール感があり、ユニークベニューの会場として、とてもよかった。また、会場指定業者の京都コネクトのご担当の方の対応も良かった。

（キ）当日の様子

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

■採択案件６　国際イノベーション会議Hack Osaka 2018 前夜祭

（ア）会議等の概要

主催者　：国際イノベーション会議Hack Osaka 2018
開催期間：平成30年2月26日
開催目的：大阪に世界中の人材・情報・資金を誘引し、グローバルにイノベーション創出を目指す取組の一環として国際イノベーション会議を開催。
参加者　：105名、内外国人参加者は36名（3割以上）
参加国　：アメリカ、中国、モンゴル、オランダ、イスラエル、ロシア、フィリピン、インドネシア、フランス、韓国、ドイツ、スイス、カナダ

（イ）利用したユニークベニュー

施設名　：大阪市立美術館
場所　　：大阪府
利用目的：国際イノベーション会議Hack Osaka 2018の前夜祭として、ウェルカムパーティーを開催し、会議当日に向けて参加者・関係者間の交流・親睦を深めることを目的とする。

（ウ）当日のスケジュール

15：30	受付オープン・お出迎え
15:30-17:00	展示観覧
17：00～	交流会開始・乾杯 （歓談）
18:15～	バイオリン演奏
19：00～	閉会挨拶 集合写真撮影
19：30	閉会

（エ）有識者によるフィードバック内容に対する改善策・方針について

【フィードバック内容】

弦楽四重奏だけではなく、庭園等を活かして、外国人参加者が日本文化を体感できるようなアトラクションを取り入れ、演出方法に工夫があれば更に良い。

【対策・方針】

・交流会開始までの間、日展と庭園を楽しんでいただいた。
・バイオリン演奏では、クラシック音楽に加えて日本の唱歌や震災復興ソングを演奏してもらい、英語で曲の紹介を行った。
・ほか、女性スタッフが和服を着てお迎えするなどの工夫をした。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（オ）申請書に記載した課題に対する改善策結果について

【課題】

・休館日に利用⇒監視員の臨時配置を依頼予定
・施設保護⇒床にパンチカーペットを敷き詰める予定
・駐車場所の確保⇒公園事務局と調整予定

【改善策結果】

・休館日に利用⇒監視員を臨時配置した
・施設保護⇒床にパンチカーペットを敷き詰め、床を保護した
・駐車場所の確保⇒業者の搬出入以外で駐車場は不要だった

（カ）当日の様子

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（4）コンベンションビューローへのアンケート調査

本事業では、採択案件へのヒアリング・アンケート調査に加え、MICE誘致やユニークベニューの開発・利活用において重要な役割を担っている全国のコンベンションビューローへアンケート調査を実施した。

【各案件調査対象】

ICCA（国際会議都市）の2016年調査に基づき、日本国内において国際会議開催件数上位23のコンベンションビューロー

1	東京観光財団	東京都
2	京都文化交流コンベンションビューロー	京都府
3	大阪観光局（大阪コンベンション協会）	大阪府
4	福岡観光コンベンションビューロー	福岡県
5	神戸国際観光コンベンション協会	兵庫県
6	横浜観光コンベンションビューロー	神奈川県
7	札幌コンベンションビューロー	北海道
8	名古屋観光コンベンションビューロー	愛知県
9	奈良県ビジターズビューロー	奈良県
10	仙台観光国際協会	宮城県
11	広島観光コンベンションビューロー	広島県
12	金沢コンベンションビューロー	石川県
13	北九州観光コンベンション協会	福岡県
14	つくば観光コンベンション協会	茨城県
15	ちば国際コンベンションビューロー	千葉県
16	くにびきメッセ（島根県立産業交流館）	島根県
17	新潟観光コンベンション協会	新潟県
18	富山コンベンションビューロー	富山県
19	沖縄観光コンベンションビューロー	沖縄県
21	岐阜観光コンベンション協会	岐阜県
23	長崎国際観光コンベンション協会	長崎県
24	おかやま観光コンベンション協会	岡山県

※20位および22位は、沖縄県に該当する地域であるため省略。

【調査方法】

メールによるアンケートの送付・回収

【調査実施時期】

平成29年8月～9月

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

【調査項目】

（ア）コンベンションビューローとして、ユニークベニューの新規開放・利活用に向けて、
取り組んでいることがあるか。
□ある　　□ない

（イ）（ア）で「ない」と答えた方のみ）取り組んでいない理由は何か。（複数回答）
□特に必要と感じていない　　□地域に魅力的なユニークベニュー施設がない
□ユニークベニューの開発方法、利用促進のノウハウを持っていない
□会議主催者等からの利用の要望がない　　□その他

（ウ）（ア）で「ある」と答えた方のみ、具体的にどのような取組を行っているか。
(複数回答)
□新規開放に向けて、施設管理者に対する普及啓発活動等を行っている
□施設管理者や会議主催者等の関係者間の調整を行っている
□地域のユニークベニューを紹介するツールを作成している
□施設利用にあたってのガイドラインや料金表の作成支援を行っている
□ユニークベニューの利活用のために資金援助を行う支援制度を設けている
□その他

（エ）ユニークベニューの新規開放・利活用にあたって、具体的な課題となっていることは何か。（自由回答）
例）施設との調整が困難、施設の利用制限（飲食、時間外使用）、ノウハウ不足、文化財保護、人材不足、アクセスが悪い　等

（オ）（エ）で挙げられた課題を解決するために、工夫している点は何か。（自由回答）
例）施設に対するユニークベニュー普及啓発、開催ノウハウの共有、２次交通の整備、活用に対する理解促進　等

（カ）（エ）で挙げられた課題の解決のために、自治体や国に対して求めることは何か。

（キ）現在、ユニークベニューとして開放・利活用している施設はどういったものか。
下記よりお選び下さい。（複数回答）
□博物館　□美術館　□劇場　□国技施設（相撲等）　□寺社仏閣　□城郭
□庭園・日本庭園　□日本家屋や古民家　□都市公園　□自然公園　□公道等
□商業・複合施設　□アミューズメント施設　□水族館　□公的施設

（ク）（キ）の中で、最も利用頻度の高い施設はどれか。（単一回答）
□博物館　□美術館　□劇場　□国技施設（相撲等）　□寺社仏閣　□城郭
□庭園・日本庭園　□日本家屋や古民家　□都市公園　□自然公園　□公道等
□商業・複合施設　□アミューズメント施設　□水族館　□その他

（ケ）今後、開放・利活用を促進したいユニークベニューはどういった施設ですか。
（複数回答）また、その理由は何ですか。
【開放・利活用したいユニークベニュー施設】
□博物館　□美術館　□劇場　□国技施設（相撲等）　□寺社仏閣　□城郭
□庭園・日本庭園　□日本家屋や古民家　□都市公園　□自然公園　□公道等
□商業・複合施設　□アミューズメント施設　□水族館　□その他（

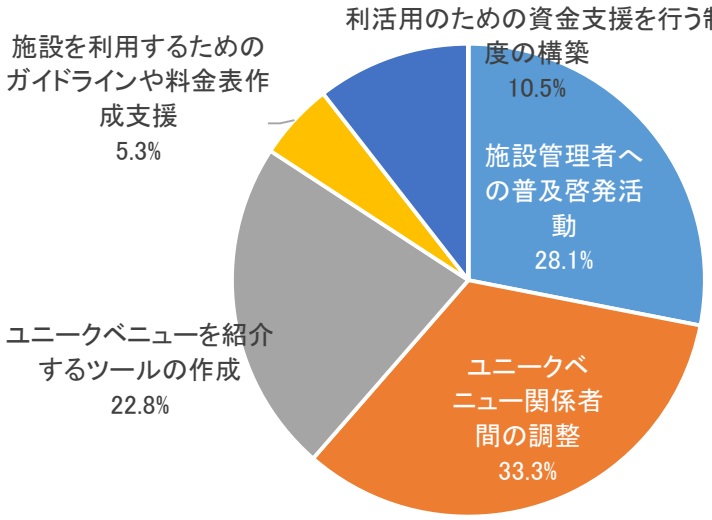
2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

【アンケート集計結果】

（ア）コンベンションビューローとして、ユニークベニューとして、ユニークベニューの新規開放・利活用に向けて取組んでいることはあるか。

全てのアンケート回答者が「ある」と回答したため、（イ）は省略。

（ウ）ユニークベニューの新規開放・利活用に向けて、具体的にどのような取組を行っているか。



【具体的なツール（冊子等）】
・プランナーズガイド
・パンフレット
・HP

【その他】
・Meeting Planners Guideに掲載するほか、個別施設の情報をPDFで視覚化
・ユニークベニューを紹介するツールを作成中
・平成28年度事業で観光庁に採択された
・主催者が都内の施設をユニークベニューとして利用する場合の会場設営を支援
・主催者（利用者）へ文化財を使用することに対する理解を促進すること

施設管理者への普及啓発活動	16
ユニークベニュー関係者間の調整	19
ユニークベニューを紹介するツールの作成	13
施設を利用するためのガイドラインや料金表作成支援	3
利活用のための資金支援を行う制度の構築	6
その他	0

ほとんどのコンベンションビューローで、ユニークベニューの新規開放・利活用に向けて、施設管理者等の関係者の調整を行っている。一方、イベント主催者や運営側が必要とする会場利用おける料金表等の規約作成の支援はあまりされていない。ユニークベニューを新規で開放した場合、多くの施設がユニークベニューとして貸出を行う際の料金や使用規定の策定のノウハウがないため、専門のアドバイザーを派遣する等の支援をコンベンションビューロが積極的に行う必要がある。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（エ）ユニークベニューの新規開放・利活用にあたって、具体的な課題となっていることは何か。

◆施設管理者の意識（ユニークベニューの活用のメリットが明確でない。）

・施設側のユニークベニューに対する理解（意義やメリット等を見出せていない）。
・神社仏閣や施設管理者へMICE活用に対するメリットをご理解いただくこと。
・施設指定管理者は、現状維持の管理に重点を置いており新たな事業を実施するにあたり、積極的な行動を実施しない傾向にある。
・ユニークベニューの概要や、施設側のメリットに係る認知不足。
・ユニークベニューについて、受入（ベニュー）側にまだ理解されていない。
・施設との調整が困難。行政が管理している施設はユニークベニュー使用時に入館料程度しか徴収できないため、管理者のメリットが一切ない。この根本的問題を解決しないと、行政が管理している施設の利活用は見込めない。
・施設との調整（施設利用を理解してもらう）

◆施設利用の制限（利用条件）と設備の機能、立地

・開放可能時間（事前設営や撤収時間の確保、夜間利用等）
・飲食の提供、英語対応、雨天対策、周辺住民の理解、必要な設備や備品不足、行政官庁等への申請手続等が煩雑等。
・休館日や開館時間等の条例による規則等があり、希望する日時での開催が出来ないケースがある。
・公的施設を利用する際には制限項目が多く、日程、人員、時間、施設側のマンパワー等、各諸条件が整わないと対応が出来ない。
・特に欧米の国際会議では、終了が深夜に及ぶ場合があり、閉館の対応が難しい場合がある。
・明確な利用時間や料金の設定がない。
・公共施設の利用制限 （文化財保護、時間、飲食等の制限）やアクセスの悪さ。
・もともと飲食が不可の施設の場合、水回りの設備が整っておらず、飲食を伴うケースに対し構造上不向きな場合がある。
・会議は出来てもパーティー等の飲食が不可の場合が多い・市外の施設の場合、アクセスの問題（宿泊施設や懇親会場所への移動に、バスなどの手配が必要になり経費がかかる）。
・（施設の目的外使用（飲食）、時間外使用のため、人員配置が困難、市民の理解を得るための理由付け、貸し施設でないため使用料の設定が必要、設計者や建築家の承諾が必要など）
・施設の利用制限（開館時間を変更して占用できない）
・施設の利用制限（文化財保護、数年先の予約をする制度や前例がない）
・主催者が求める収容能力（500人以上）を持つ施設が少ない。
・パーティー等の活用時の主催事会場からのアクセス。
昨年度、ある大型学術学会で「ピアBandai」を利用した懇親会を実施した。400名で市場を貸し切る懇親会。しかしながら今年度の利用は「0」であった。次年度、１件の国際会議が予定、2019年も1件が　内定している。予想以上にユニークベニューでの利用件数は少ない。学術会議の会場付近で懇親会をするケースが多く、会場から会場までの移動、徒歩17分を嫌う。バス輸送も時間とコストがかかるため、高い障壁となる 。野外開催のリスク。天候によって、会場の雰囲気がかわるため、リスクが低い室内開催を大会長は好む。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

◆施設利用の制限（利用条件）と設備の機能(前頁より続く)
・施設との調整が困難、施設の利用制限（飲食、時間外使用）
・長良川うかいミュージアムの開放はされているが、施設の規模・設備等が充分でなく利用し難い。

◆運営側（PCO、旅行会社）の認識不足
・（イベント会社、主催者）が、神社仏閣（宗教施設）、文化財という普段パーティー（会議）会場ではない場所を使用するということの理解。（養生やステージ造成などに費用が掛かることや神聖な場所であることの理解、通常の貸会場よりも少し手間がかかる点など）

◆ノウハウの不足
・当局も含めて、ノウハウが不足している。公的施設の開放を目指す場合に、目的外使用時の料金設定や展示物の保護などの調整に多大な時間と労力が必要である。
・ユニークベニューに対する理解とノウハウの不足。

◆条例による規制等
・公的施設の新規開放にあたって、関係者（行政など）との意識統一や調整に時間がかかる。
・条例などにより施設側が利益をあげることができない仕組みになってしまっており、 新規解放が必ずしも施設側にとってメリットがあると言えない場合がある。
・行政の壁（施設側）が高く、理解が得られない。
・首里城：開放されたらキラーコンテンツになり得ると言われる首里城だが、
①国と県の二重管理により施設との調整 が難航すること
②観光需要への対応に追われ、MICEコンテンツ化に割ける余裕がないこと
③地元自治会が古くからの住民で構成されるため発言力が強く、象徴的存在である　首里城のパーティ活用を「威厳が損なわれる」として快く思わないこと
等が挙げられる。
・公共施設との調整：　ユニークベニュー活用に限らず、公共施設はまだまだ「市民のための施設」という意識が強く、
①市民利用を制限してしまう予約を受けない
②事前予約が半年前からしかできない
③MICEの担当部署がないため、この件に係る回答をたらい回しにする
等が挙げられる。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

◆コスト
- 市関連の施設については、一時的な施設の利用として対応をしているケースが多くあり利用するたびに設営費用が発生するケースが見受けられる。
- 会議開催等に必要な備品（スクリーンやポスターパネル）等は全て外注手配となるため経費がかかる。
- ホテルで行うより手間もかかるし割高になる。
- パーティー等の活用時の装飾や設備にかかる費用負担（催事向きに作られているわけではないので、外注し対応する必要がある）
- その他会場：沖縄らしさを備えた会場とは、自然環境の恩恵を受けた場所＝屋外が主となり、開催の可否や成功の度合いが天候に左右される。雨天時の代替案を用意する必要があり、コスト高となる。

◆その他
- 需要がそれほど多くないため、施設側が解放の必要性を強く感じたり、利活用に関するノウハウを蓄積することが困難な状況である。
- 需要の発生から実施までの期間が短いため、積極的に紹介することが難しいことがある。
- 料金も含めて商品としてパッケージ化するなどが必要。前例がないため、主催者が躊躇し実現出来なかった事例がある。
- 市内にユニークベニュー施設になりそうな施設がない。
- 周辺市町村や県内など広域で検討が必要か。
- 施設、行政関係（警察含む）との調整に関わるスタッフが不足している。
- 人員不足、人材不足や使用料等の設定。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（オ）（エ）で挙げられた課題を解決するために、工夫している点は何か。

◆施設管理者の意識
・関係箇所との協議を実施して、ユニークベニューの活用促進に協力を求めている。
・ご協力いただく施設側のメリットと行政サイドの目的ベクトルを合せ互いに利点があるような手法を探る。
・ユニークベニューの成功事例をお伝えするなどして、理解促進を進める。
・施設関係者との意見交換、啓発活動。
・施設と活用の理解に向けた調整。
・ユニークベニューを紹介する印刷物への掲載をベニュー側に働きかけている。
・工夫している点はなく、気長にユニークベニュー開発の理解を求めていくしかない。
・市内の美術館・博物館の開放に向けて、各施設のみならず博物館協会や行政管轄部署に対し啓発活動を継続している。

◆施設利用の制限と設備の機能、立地
・地元自治体へのユニークベニュー開拓に対する協力要請・ユニークなイベント利用をケーススタディーとして、ステークホルダーに共有し、施設保有者に対しての理解促進と協力体制構築の促進。
・施設に対して無理なお願いができるキーパーソンを仲介しての相談を行っている。
・小規模会議に絞ったPRをしている。施設、市町村に対するMICEの有用性説明、県民理解の促進に係る啓発活動、産学官連携のネットワークを組織し、受入体制を強化。
・ユニークベニュー開発の知見者などに実際に施設を見ていただき、具体的な提言をいただいている。

◆運営側の認識不足
・施設への訪問説明の実施・財団にて海外からの問い合わせ対応実施。
・神社仏閣においては、MICE利用に向けて検討いただける場合は、コーディネーターやビューローが仲介役となり、ある程度事前に案件を精査したうえで、繋ぐ方法を採択していること。
・ビューローが入って、その都度施設側、主催者側との調整を行う。
・MICE 分野に関心の高い事業者と連携した「MICE ワーキング」の運営。

◆ノウハウの不足
・需要が発生した際に対応できるよう、ビューローの主催事業で新規解放を行い、施設側との調整やノウハウの蓄積を行っている。
・実績をつくるために、主催者様にユニークベニューの利用を提案するようにしている。

◆条例による規制用等
・活用に対する理解促進。観光行政部局への取組み依頼。
・当協会の所管である、市のスタッフ等と協働で行っている。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（エ）では、各コンベンションビューローから様々な課題が挙げられたが、以下の2点が各コンベンションビューローから特に多く挙がった。

①新規開放にあたって、施設管理者の理解を得ることが難しい。

②ユニークベニューとして施設開放を行った後、どのように実際の利用まで準備（利用料金、飲食や利用時間等の規定づくり）していけばよいのかノウハウが不足している。

これらの課題に対して、現状で各コンベンションビューローは以下の工夫を行っている。

①の課題に対して、ユニークベニューとして実際に開放・利活用を行った施設を紹介し、開放時の利点を伝える。

②の課題に対して、ユニークベニュー開放の知見者のアドバイスを受ける。

①については、ユニークベニューとしての施設開放が成功した例の多くが、施設側とコンベンションビューローをはじめとした利用側のニーズや目的が一致したということが言える。例えば、橿原神宮では、日本に観光で訪れる外国人旅行者に日本のはじまりの地である橿原神宮に訪れてほしいという考えがあり、この考えが外国人を日本に誘致するMICE開催と一致した。このことから、ユニークベニューとして橿原神宮を開放するきっかけとなった。したがって、今後新規にユニークベニュー開放する際は、その施設にどのようなニーズや目的があるのかをヒアリングし、ユニークベニューとして施設開放することがその目的等を達成する手段となることを伝えることも重要である。

②においては、ユニークベニューの開放に関して知見のある専門家からアドバイスを受けることは勿論、過去にユニークベニューを利用した経験が充分にある事業者（PCO、イベント会社、旅行会社等）に対しても意見をヒアリングすることも重視する必要がある。利用の規定を作る際は、基本的には施設側の目線になるが、利用側の意見を事前に取ヒアリングすることによって、利用者がどのように施設を利用したいと考えているのか分かり、施設側があらかじめ利用者目線の回答を準備することができる。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（カ）課題解決のために、自治体や行政に対して求めることは何か。

◆条例等の規制緩和
・施設に対する同行説明の実施・法令や条例等の規制緩和。
・弾力的な条例の運用を求める
・施設側が収益を上げられるような仕組み作り。

◆利活用におけるアドバイスや成功事例の共有
・ノウハウ不足や文化財保護など各地で抱える問題点を相談できるアドバイス機能。
・各地の取組み経緯や活用実績などの情報共有の拡大。
・誘致案件実績数がさらに増加すると協力を要請するサプライヤーの理解も得やすい。東京・大阪・京都などのメジャー都市ではなく地方都市にスポットを当てたプロモーションを世界に対して展開して頂きたい。
・ユニークベニューの成功事例の紹介（講演など）の開催。

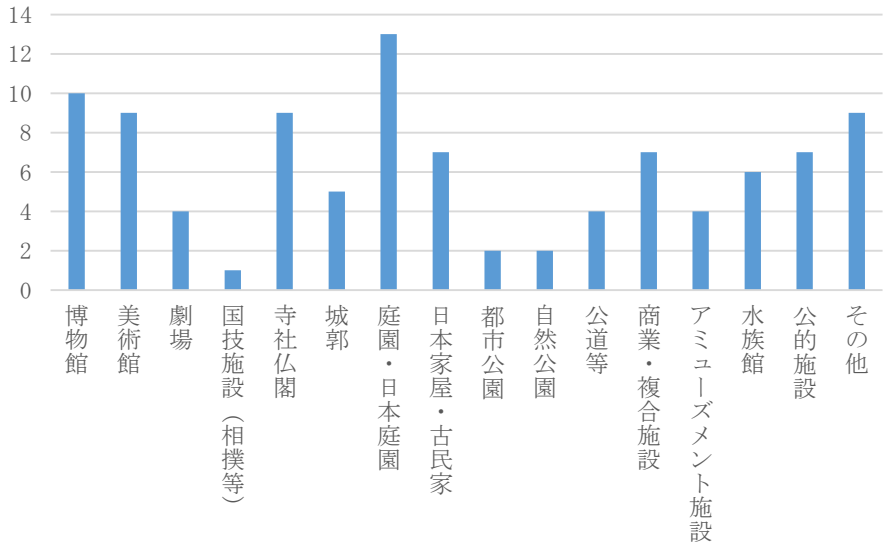
◆費用支援
・ 運営に際して、国の助成金の支給を求める。
・施設をユニークベニューとして開発する際の費用の補助。
・ユニークベニューを利用する際、受入施設側と主催者側への財政支援　（受入施設側への財政支援があれば、会議に必要な備品の購入等に利用いただき、より受入やすい体制を作ってもらえるし、利用者側の利便性も高まる）
・臨時シャトルバスの運行などの補助。
・資金援助。
・一回だけの支援でなく、継続的に支援を続ける対策をとってほしい。
・ユニークベニュー活用時の財政支援。

◆ユニークベニューの啓蒙活動
・施設を対象にした説明会の実施 。
・博物館、美術館は以前より理解が得られつつあるが、神社仏閣などはまだ難しいので、啓蒙活動を積極的にしていただきたい。
・プロモーション（ユニークベニューとは何か？MICEの経済的波及効果など）
・各自治体に対してユニークベニューの開発・利活用の必要性や協力について要請して欲しい。
・自治体に対しては、ユニークベニューの開発等に対し理解を深めるとともに、施設側に対し、協力要請して欲しい。
・公的施設に対するユニークベニューに対する理解およびそれが地域にもたらす経済効果の啓蒙。
・施設所管部局の理解促進。
・ユニークベニューに参画しやすい環境づくり（普及啓発等）

◆人員増員
・MICE振興に携わる人員不足に対する人員の補充(人件費補助)
・コンベンション事業スタッフの増員。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（キ）現在、ユニークベニューとして開放・利活用している施設はどのようなものか。
（複数回答）



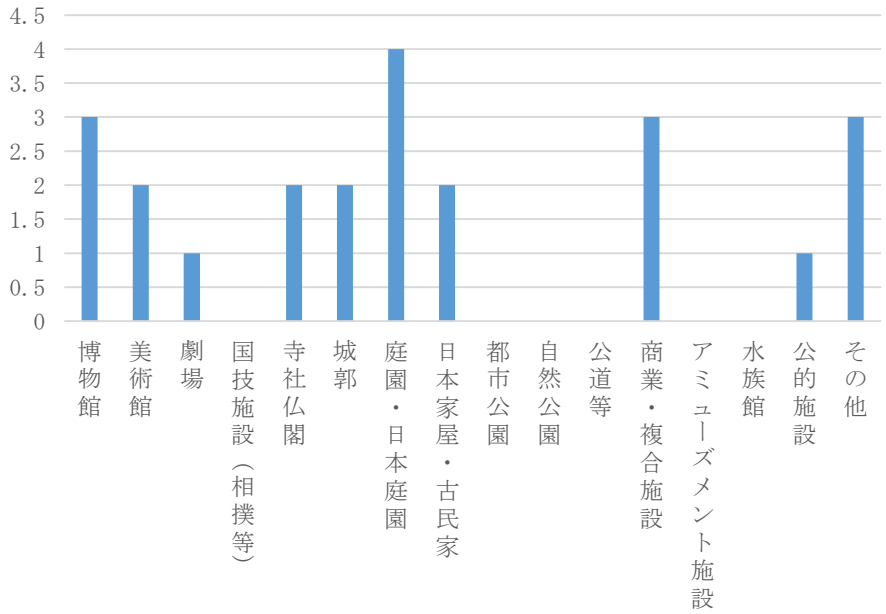
博物館	10
美術館	9
劇場	4
国技施設（相撲等）	1
寺社仏閣	9
城郭	5
庭園・日本庭園	13
日本家屋・古民家	7
都市公園	2
自然公園	2
公道等	4
商業・複合施設	7
アミューズメント施設	4
水族館	6
公的施設	7
その他	9

【その他】

・クルーズフェリー（広島）
・旬菜市場「ピアbandai」（新潟）
・ジャンプ競技場（札幌）
・旧松本家住宅（北九州）
・国際会議場のエントランスホール（つくば）
・松江フォーゲルパーク（島根）
・松江イングリッシュガーデン（島根）
・興雲閣（島根）
・カラコロ工房（島根）
・千葉都市モノレール（千葉）
・とやまライトレール（富山）

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（ク）（キ）の中で、最も利用頻度の高い施設はどれか。（単一回答）



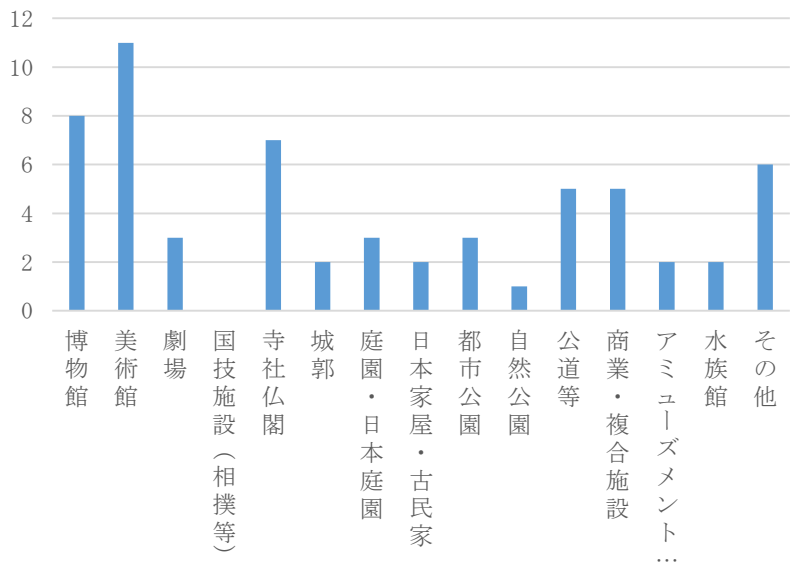
博物館	3
美術館	2
劇場	1
国技施設（相撲等）	0
寺社仏閣	2
城郭	2
庭園・日本庭園	4
日本家屋・古民家	2
都市公園	0
自然公園	0
公道等	0
商業・複合施設	3
アミューズメント施設	0
水族館	0
公的施設	1
その他	3

【その他】
・ジャンプ競技場（札幌）
・旧松本住宅（北九州）
・旬菜市場「ピアBandai」（新潟）

（キ）では、どのジャンルの施設も様々な地域でユニークベニューとして開放されているにも関わらず、（ク）では5項目のジャンルで無投票となった。
また、無投票が5項目ある一方で、その他のジャンルには比較的均等に分かれている。一見して、多様なジャンルの施設が利用されているが、日本またはその地域ならではの文化等を体感できる施設（城郭、寺社仏閣、庭園等）に票が集まっていることが分かる。

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（ケ）今後、開放・利活用を促進したいユニークベニューはどのような施設か。
（複数回答）



博物館	8
美術館	11
劇場	3
国技施設（相撲等）	0
寺社仏閣	7
城郭	2
庭園・日本庭園	3
日本家屋・古民家	2
都市公園	3
自然公園	1
公道等	5
商業・複合施設	5
アミューズメント施設	2
水族館	2
その他	6

【理由】
・昨年世界文化遺産に登録され、国内外から注目されている東京を代表する施設。近代建築の三大巨匠であるル・コルビュジエが設計した国内唯一の建造物で大変価値があり、ピロティーや2階の回廊等ユニークベニューとして活用できそうなスペースがあるため。
・公共施設については、利用していただくことで地元への収入につながる。神社仏閣については、維持管理費用として充当することができるため。
・当局を介することで利用できる本当の意味での「ユニークベニュー」を開発し、当局および大阪府市が目指す国際会議の誘致拡大につなげたい。
・九州国立博物館：施設の有する文化的な魅力が会議やイベントの価値を更に高める。鴻臚館：古代において海外からの交流を実施していた施設を利用して、現在へのストーリー性を高める。
・希少性が高くプレミアム感あり、MICE主催者側にとって神戸で開放するベネフィットとなるため。
・市内の商店街で、MICE開催時の経済効果に着眼する機運が高まっており、MICE参加者（特に外国人）を積極的に受け入れて行きたい、というご意見をいただくことがあるため。
・100人以上のパーティーを行える屋内施設を所有しているため。
・市の施設であり、時間外利用など特別感の創出が可能と思われるため。
・奈良ならではの開場としてのPR効果。
・仙台には、ユニークベニューとなる大きな屋内施設がなく、アーケード商店街や公園ならある程度のスペースが取れるので。
・広島県立美術館：庭園が隣接しており、眺めが良いことに加え、ロビーに一定の広さがあり、催を行うは適した場所であるめ。
・　マリホ水族館：　結婚披露宴を行うこと想定して新設された施であり、かつ、MICE施設からも距離が近いため。
・主催者側からバンケット会場でどこか金沢らしいところがないかとの要望がある。（ホテルでのバンケットに飽きがきているようだ。）

2－3　採択事業に関するアンケート・ヒアリング調査等

（コ）今後、開放・利活用を促進したいユニークベニューはどのような施設か。（複数回答）

・千葉でしか提案できないベニュー開発し、誘致に役立て、国内外の参加者に満足してもらうことを目指している。
・ユニークベニューとして利用できる施設を増やし、主催者の選択肢を増やす。
・具体的に主催者からリクエストを受けているため。
・戦国時代に築かれた山城の石垣は、全国でも希少でほとんど知られていない史跡であり歴史的にも、観光誘客にも有効な史跡を利用したメニューが出来ると思う。（個人的意見）
・希望が多い、象徴的存在で宣伝効果が高い。
・屋根付きのため雨の心配がない
・にぎわいの中心であり長崎らしさが感じられる。
・岡山市のユニークベニューは、現在、参加者50名～200名程度までの小規模施設が多い。よって、参加者が200名を超えるような、中・大型コンベンションに対応できるユニークベニュー開発が急務である。商店街なら、雨天でも対応することができ、また、地元経済界（商店主）と参加者（外国人含む）との直接的な交流が行え、経済波及はもとよりコンベンション誘致並びに開催支援の重要性の理解を深めてもらえる機会となると考える。

（ク）で利用頻度が高い施設が日本文化を体感できる施設が多いことから、（ケ）においても今後開放していきたい施設としてその他の項目も含め寺社仏閣等が挙げられている。また、会場のキャパシティーや雨天決行の観点から、美術館・博物館も多数の票が集まっている。また、施設の開放理由として「その施設の利用ニーズが高まっている」「経済波及効果が見込める」が複数のコンベンションビューローから挙がっている。

２－４　先進事例調査

当事業においては、日本におけるユニークベニューの活用促進を目指し、日本よりユニークベニューの利用が活発的な国内および海外事例を取り上げ、それぞれではユニークベニューをどのように利用・開発しているのか、ユニークベニューとして施設を提供している施設管理者がどのような点にメリットを考えているのか等について調査を実施した。

（１）「海外先進事例」ドイツ・ベルリン

①選定基準

海外における先進事例の国・都市を決定するにあたり、以下の基準に基づき選定を行った。

・コンベンションビューロー等と連携が取れている
・すでにユニークベニューとして開放経験が充分にある
・その国/地域ならではの魅力があるユニークベニューであること（歴史建造物等）

加えて、ICCA（国際会議協会）による2016年の調査を踏まえ、国際会議開催の経験が充分にある国・都市を選定することとした。国別における国際会議開催件数は以下の結果になっている。

１位	米国	934件
２位	ドイツ	689件
３位	英国	582件
４位	フランス	545件
５位	スペイン	533件
６位	イタリア	468件
７位	日本	410件

また、都市別での開催件数は、以下の通りである。

１位	パリ	196件
２位	ウィーン	186件
３位	バルセロナ	181件
４位	ベルリン	176件
５位	ロンドン	153件
：		
21位	東京	95件

2－4　先進事例調査

②選定理由

選定基準を踏まえ、本事業では、海外先進事例の調査先として最も基準を満たしているドイツ・ベルリンを選定した。選定理由は、以下の通りである。

・国別での開催件数を見るとドイツは米国に次いで2位であるが、都市別での件数に焦点を当てると、ドイツ・ベルリンは世界第4位である。一方で、米国の都市別順位はニューヨークの41位が最高位である。この結果を鑑みると、ドイツ・ベルリンは国別および都市別を踏まえると総体的に国際会議の開催権指数が非常に多い。
・ドイツは、日本と同様、第2次世界大戦の敗戦国であるという歴史的背景の共通点がある。また、両国とも経済大国であり、自動車産業を中心に科学や医学において先進的である点も共通点として挙げられ、ドイツも日本と同様に学会の開催が多い国である。
・ベルリンには、コンベンションビューローの役割を担っている「Visit Berlin Convention Office」がある。
・アメリカには歴史的建造物が多くはなく、文化財活用の観点から、米国より歴史の長いドイツの方が文化財の活用例を抽出できる可能性が高いと判断した。

③調査内容詳細

【調査方法】関係者訪問並びにヒアリング。

【調査時期】平成29年12月4日（月）～12月7日（木）　4日間

【調査のポイント】

日本との相違点を抽出するために、下記の点に焦点を置き、調査を行った。
ア）MICE開催のプロセス
イ）関係事業者・組織の役割、取組
ウ）ユニークベニュー開放・利用の利点
エ）都市の特徴（アクセス、物価等）

【調査項目】

（ア）ユニークベニュー

■取組

・年間どのくらいユニークベニューとして施設の貸出をおこなっているのか。
・利用目的は、何が一番多いのか（国際会議・パーティー等）、また国内・海外のどちらでの利用が多いのか。
・いつからユニークベニューとして貸出を行っているのか。また、貸出を行ったきっかけは何か。
・一般に貸出を行うにあたり、どのような点にメリットがあるのか。また、一方で題はあるか。
・歴史的建造物である場合、修繕・維持費が必要であるが、その費用負担はどこが行っているのか。
・過去に貸出を行った際の写真提供。

2－4　先進事例調査

■ルール
・一般に貸出を行うにあたり、制限や条件はあるのか。
・一般に貸出を行うにあたり、料金設定はどのようにきめているのか。また収益構造はどのようになっているのか。
・貸出において、メニューはあるのか。また、どのような経由で貸出が可能なのか。
・ケータリングや演出を行うために、施設で契約を行っている会社があるのか。

（イ）イベント会社・DMC
■運営
・今までにどのようなユニークベニューを利用したことがあるか。実例の紹介。可能であれば写真提供。またそれにかかる費用について。
・ユニークベニューの利用を好む主催者はどの層が一番多いか（学会、企業インセンティブ等）
・イベント開催時は、どのような役割を担っているのか（会場提案・管理等）
・海外の参加者を満足させる工夫（演出）等は行っているか。
・通常のホテルのバンケットで開催するのと異なり、施設の保護に気を付けないといけないと思うが、どのような工夫をしているのか。
・ユニークベニューを利用する上での課題は何かあるか。
・イベント主催者は、イベント開催に当たり、どのような点を重視するのか。

（ウ）コンベンションビューロー
■取組
・ユニークベニューの開放・利活用において、Visit Berlin Conventionではどのような役割をおこなっているのか。日本と同様に、施設と主催者またはイベント会社を結ぶ役割を担っているのか。
・海外からのMICE誘致やユニークベニューの開放・利活用について、どのくらい力をいれているのか。
・ユニークベニューを利用したレセプションやパーティー事例の紹介。可能であれば写真の提供。
・イベント会社や主催者に紹介できるような、ユニークベニューのリストやメニューを作成しているのか。

（エ）テクニカルサプライヤー
■取組
・ユニークベニューを利用したイベントを手掛けることは、どのくらいの頻度であるのか。
・イベントを特別なものに魅せるために、どのような演出・工夫を行うか。（照明、音響、装飾、デジタル等）
・このビジネスに参入したきっかけ、ビジネスとしてのうまみ（収益性は高いか等）はなにか。
■運営
・ユニークベニューを利用したイベントを実施する際に、どのようなフローでTechnical Partnerへイベント演出・装飾の依頼が来るのか。（イベント運営・企画会社との連携、直接等）
・ユニークベニューでイベント装飾等を行う際に、気を付けている点はあるか。（ベニューの養生、雨天対策等）

2－4　先進事例調査

【調査結果】

（ア）ユニークベニュー

ドイツ・ベルリンに点在しているユニークベニューの中で４つの施設を対象とし、調査を実施した。

■対象施設

	施設名	概要
1	AXICA	ブランデンブルグ門のすぐ近くに位置するAXICA は、アメリカの有名建築家Frank O. Gehry氏によってデザインされた建造物。ガラス張りの特徴的な建造物は、魚の優雅な動きをイメージしてデザインされた。元々は、銀行の本社として建てられた。
2	ベルリン王立磁器製陶所 KPM Königliche Porzellan-Manufaktur	ベルリン王立製陶所は、1763 年9 月19 日にフリードリヒ2 世によって創立された。製品マークである選帝侯ブランデンブルグの紋章からできているコバルトブルーの王の笏が、すべての製品に付けられている。現在でも、次世代へと受け継がれ続けた伝統的な手法によって、製品が製造されている。文化的・歴史的に重要な施設であり、ベルリンでもとても古い産業遺産の１つである。
3	バーニッケ城 Schloss Boernicke	バーニッケ城は、およそ300 年前に建てられ、1911年にベルリンの銀行家メンデルスゾーンの邸宅として利用された。1945年以降は様々な人の手に渡り、2003 年に現在の所有者によって購入された文化遺産として保護されてる。長い間人が立ち入っておらず、傷んでいた建物を少しずつ修繕している。国の重要文化財であるため、修繕等に関しての国からの許可が必要だったが、数年に渡るやり取りの結果、ようやく修繕が許可された。
4	アルテス・シュタットハウス Altes Stadthaus	アルテス・シュタットハウスは、ベルリンの旧市庁舎であり、現在もいくつかの行政機関がオフィスとして利用している。当初は、一般的に公開されていな施設だったが、1911年10月29日に一般開放された。その中でも、「The Bärensaal(Bear all)」は、ベルリン市のマスコットでもある熊の銅像が設置されており、歴史的なベルリンの集会所でもある。

2－4　先進事例調査

■取組				
1－1	ユニークベニューとして施設の貸出を年間でどのくらい行っているのか。			
	AXICA	ベルリン王立磁器製陶所	バーニッケ城	アルテス シュタットハウス
	約190件	約50～60件（メイン会場）	約5～10件（ただし、映画等の撮影での貸出が多いため4週間以上の長期貸出になる）	約60件
1－2	施設の利用目的は、どのシーンが一番多いのか（国際会議・パーティー等）。また、国内・海外どちらの顧客の利用が多いか。			
	AXICA	ベルリン王立磁器製陶所	バーニッケ城	アルテス シュタットハウス
	ガラディナーとミーティングが中心である。顧客については、国内・海外どちらからの利用もある。（海外であれば、YAMAHAも利用したことがある） また、利用時間については日中と夜も同じ割合で利用がある。	ガラディナー、パーティーでの利用が中心である。顧客についても、同じ割合で利用がある。	ほとんどの利用が、映画等の撮影地としてである。その他には、個人的な誕生会や結婚式コンサートで利用されることもある。また、利用者は全てドイツ国内である。※施設自体が、ユニークベニューとし積極的にオープンにしていないため、貸出できるベニューとしてあまり知られていない。	ガラディナーの会場として使用されることが多い。映画のロケ地としても非常に人気がある。利用者は、国内・海外の双方である。
1－3	いつからユニークベニューとして貸出を行っているのか。また、貸出を行ったきっかけは何か。			
	AXICA	ベルリン王立磁器製陶所	バーニッケ城	アルテス シュタットハウス
	◇1999年 銀行の本社をベルリン（AXICA)にする予定であったが、急遽フランクフルト（に変更されたため、空いた施設の利活用のために一般開放をはじめた。	◇1963年 1963年に陶器の製造が終了したため、使用しなくなった磁器製陶所をベニューとして、一般開放をはじめた。	◇2003年 施設管理者が、利用・整備されていなかった施設を発見し、空間活用を行うために施設を購入。一般開放をはじめる。	◇2002年頃 BIMが管理者となってからは3年であるが、ベニューとしての貸出は15年前くらいから行っている。開放のきっかけは、ベニューが歴史的建造物ということもあり、ベルリン市民のために開放するべきであると市が考えたため。※当時、一般市民は当施設に入ることができなかったため、ベニューをパーティー等のイベントの利用によって一般開放することによって。イベント開催の際に一般市民が施設に入れるように配慮した。

2－4　先進事例調査

1－4	一般に貸出を行うにあたり、どのような点にメリット（広報ＰＲ、収入源の確保等）があるか。また、一方でどのような課題（施設の保護、利用制限の緩和、収益配分等）があるか。			
	AXICA	ベルリン王立磁器製陶所	バーニッケ城	アルテス シュタットハウス
	利点：収益。 課題：貸出のために施設の設備等を新たに変更していたったため、現状で抱える課題はない。	利点：収益。ベルリン王立磁器製陶所（会社名）のプロモーション 課題：－	利点：収益。ただし、そのほとんどの費用が施設の修繕費に充てられる。 課題：－	利点：収益および、ベルリン市のプロモーション。 課題：－
1－5	歴史的建造物である場合、修繕・維持費が必要であるが、その費用負担はどこが行っているのか。			
	AXICA	ベルリン王立磁器製陶所	バーニッケ城	アルテス シュタットハウス
	民間の施設であるため、修繕費は施設で支払う。	民間の施設であるため、修繕費は施設が支払う。建物は250年前の施設（一部）であるため、繰り返しリノベーションを行っている。	施設が修繕費を支払う。一方で、この施設は国の重要文化財もあるため、一部行政からの支援を受けている。	テナントとそのサービス提供者は、ホールのレンタル中に定められた条件を遵守する必要がある。（資料提供） イベントスペースの引き渡しと返却が行われた際に、施設に欠陥・破損等が生じた場合、施設利用者が修繕費を弁償する。

■ルール				
2－1	一般貸出を行うにあたり、どのような貸出条件等（利用料金、利用方法の決め方等を含む）があるか。			
	AXICA	ベルリン王立磁器製陶所	バーニッケ城	アルテス シュタットハウス
	料金等は施設管理者が決定。提出資料に記載。 ※部屋毎の貸出有	利用料金等は施設が決定。提供資料に記載。 貸出条件例：赤ワインの提供は禁止。 ※部屋毎の貸出有	料金等は施設管理者が決定。 貸出条件例：施設においてある装飾品等や置物等は一切いじらないこと。 ※部屋毎の貸出有	料金等は施設管理者が決定。提供資料に詳細が記載。 ※部屋毎の貸出有
2－2	一般に貸出を行うにあたり、料金設定はどのように決定しているのか。また、収益構造はどのようになっているのか。			
	AXICA	ベルリン王立磁器製陶所	バーニッケ城	アルテス シュタットハウス
	民間運営のため、無回答。 ※備品等の貸出有料	民間運営のため、無回答。 料金については、提供資料に記載。	貸出の料金は、フレキシブルに対応している。利用者が、開催イベントでどのようなことを行いたいのか等の内容を踏まえたうえで、料金を設定している。	料金については提供資料に記載。 ※備品等の貸出有料。 利用施設のクリーニングの専用業者利用の料金等

2－4　先進事例調査

2－3	貸出において、メニュー（料金表、利用書等の各申請書）はあるのか。また、貸出に関する問い合わせ先は、施設に直接であるか。※申請書がある場合、テンプレートを共有。			
	AXICA	ベルリン王立磁器製陶所	バーニッケ城	アルテス シュタットハウス
	メニューあり。（資料提供済み） 問い合わせは、指定されたイベント会社等がないため、施設でも良い。ただ、テクニカルパートナーに関しては、AXICAの利用におけるノウハウがあるAMBIONと提供しているため、AMBIONとの連携がスムーズ。	メニューあり。（資料提供済み） 問い合わせは、直接可能。	メニューはない。 問い合わせは、直接可能。	メニューあり。（資料提供済み） 問い合わせは、イベント会社を通すのも可能であるが、施設へ直接でも良い。（おおよそ各50%） ※この施設は、市の保有している株行会社である。
2－4	施設を利用してイベントを実施する際に、各関係者（ケータリングや装飾会社等）とどのように連携しているのか。全体を統括する業者・団体はどこであるか。また、施設で契約を行ている会社があるか。			
	AXICA	ベルリン王立磁器製陶所	バーニッケ城	アルテス シュタットハウス
	もともとは銀行の施設であったため、社食を提供するキッチンがあり、そこと連携してイベント時の食事を提供している。（料理の内容は、イベントのコンセプトに応じて変更できる）また、テクニカルパートナーについてもAMBIONと連携しているが、希望によって連携。※強制ではない。	決まった業者がある。 ※現在、業者との契約段階であるため、詳細は未公開。	決まった業者はない。運営側が必要に応じて、各業者を手配する。	決まった業者はない。主催者・運営側と調整し、連携するサービス業者とは事前打合せから立ちあってもらう。

2－4　先進事例調査

■その他

バーニッケ城

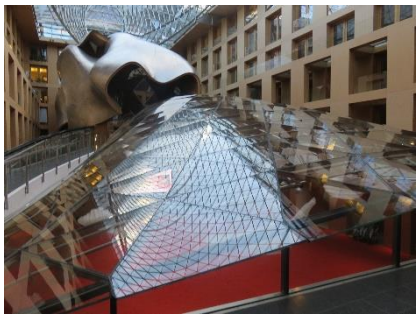
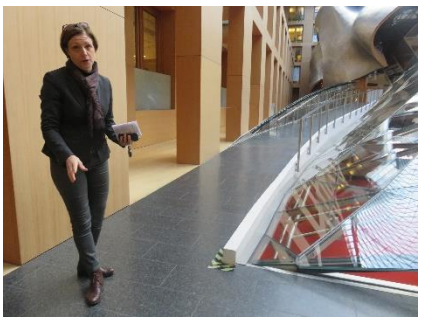
300年前に建てられた建物。人が立ち入っておらず、ボロボロだった建物を少しずつ修繕している。国の重要文化財であったため、修繕等に関しての許可が必要であった。数年に渡るやり取りの結果、ようやく許可がおりた。基本的には施設を積極的にPRしていかないが、唯一政府が運営しているロケーションサイト「BBFC」には、施設として掲載されている。また、このサイトは政府の運営であるため、利益をあまり見込まないようになっている。

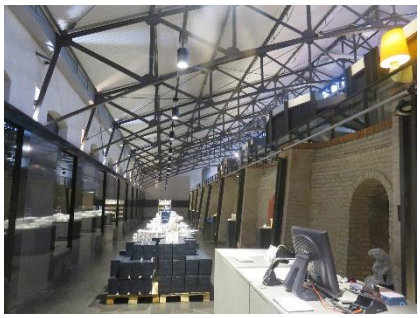
アルテス シュタットハウス

ベルリン市の持ち会社（子会社）。開催にあたっては、クリスマスパーティーの様な騒ぐイベントと政治的なイベントは禁止されている。また、このベニューはスポーツ等の行政機関のオフィスであるため、音量に気をつける必要がある。日中も開催が難しい。イベント開催にあたっては、全てのテナントからの許可をもらわなければならない。ベニュー貸出により創出された利益は、「利益」とするのではなく、「修繕費」「謝礼金」等として、その施設の保護等のために使用される。この施設は民間ではなく市の持ち物のため。火気厳禁。

２－４　先進事例調査

■調査の様子



2－4　先進事例調査

（イ）イベント会社・ＤＭＣ

ドイツにおけるイベント会社・DMCへの調査実施を行うにあたって、以下の2社を対象とした。

■対象会社

	施設名	概要
1	Conference&Touring	ベルリンで1989年に設立されたConference＆Touringは、ベルリンミュンヘン、ハンブルグ、フランクフルト、ケルン、ウィーン、チューリッヒにオフィスを構えるドイツ初のDMCの1つとして確立している。会場管理やケータリング、エンターテイメント等、イベントの全体管理を行う。 URL:http://www.dmcgermany.de/
2	teamtravel international	会議やインセンティブ旅行等のMICEイベントを中心に企画・運営を行うイベント会社。ドイツ・ケルンを中心に様々なディスティネーションをイベント開催地として企画立案している。また、MICEのディスティネーションとして、ドイツ国内だけではなく、日本等の海外も取り扱う。 URL:http://www.team-travel.com/

■調査結果

■取組		
1-1	今までにどのようなユニークベニューを利用したことがあるか。	
	Conference&Touring	teamtravel international
	工場、トンネル、発電所等	CurryWurst Museum(施設利用料金が安い。銀行のソーシャルイベントで利用）等 ※美術館は利用料金が高いことから、あまり利用に至らない。
1-2	ユニークベニューを利用したイベントでは、どのくらいの費用が平均的にかかるのか。	
	Conference&Touring	teamtravel international
	ベニューやクライアントの要望によるが、発電所でイベントを開催した際は、一日の利用料金で€2,200、セットアップ6日間で€6,600程度。	ベニューやクライアントの予算・要望によって異なる。施設がパッケージ（ギブアウェイ、入館費、飲食費等）で価格を提供している場合もあり、施設の貸出料金のみがいくらか分からない。

2－4　先進事例調査

1－3	ユニークベニューの活用は、運営側（イベント会社・DMC)にどのようなメリットがあるのか。（主に収益の点について）	
	Conference&Touring	teamtravel international
	ユニークベニューを使うことに対するリスク(施設側からの急なキャンセル等）はあるが、ユニークベニューを利用することがイベントのインパクトに繋がる要素になることから、運営側のメリットにつながる。イベント会社は、依頼のあったイベントごとに毎回異なった演出を創出する必要があるため、ユニークベニューの利用は、イベント会社としてのクリエイティブなアイディアとしてクライアントの満足感を向上させる。 　ユニークベニューを利用することのよって得る収益ではなく、顧客のニーズにマッチした施設を利用することが重要。	ユニークベニューの利用は一般的なベニュー（ホテル等）より収益があるという観点からの利用は行っていない。あくまで、クライアントのニーズに合わせて会場を選定する。 また、珍しい会場は、クライアントの関心を集め喜ばれることが多い。オリジナリティの高い提案は、クライアントとの関係構築に結び付き、その後の取引にもつながる。
1－4	ユニークベニューを会場として提案する際に、どのように会場を探すのか。	
	Conference&Touring	teamtravel international
	新しいベニューも含め、基本的には自分たちで探す。必要に応じで、市にベニューに関する情報をヒアリングする。	ドイツ国内のベニューに関しては、自分たちで探す。海外のベニュー案に関しては、現地DMC(旅行会社、Destination Asia等）にヒアリングする。

■運営		
2－1	ユニークベニューの利用は、ドイツ国内で一般的であるか。	
	Conference&Touring	teamtravel international
	非常に一般的である。 また、「ユニークベニュー」という呼称は使わない。ホテルのバンケット以外の会場は「オフサイトベニュー」と呼ばれている。 ※MICEという言葉もヨーロッパで良く使われる。アメリカではMICEは使われていない。	非常に一般的である。
2－2	ユニークベニューを好む主催者はどの層が一番多いか（学会、企業インセンティブ等）。または、どのようなシーンでユニークベニューが利用さるか。	
	Conference&Touring	teamtravel international
	企業ミーティング	クライアントの担当者次第でユニークベニューを利用するかが決定される。（担当者の好み等による）

2－4　先進事例調査

2-3	ユニークベニューの提案は、常に企画・運営側（イベント会社等）から行われているのか。また、行う場合、実績のないユニークベニューも提案することはあるのか。	
	Conference&Touring	teamtravel international
	クライアントのニーズ次第である。事前に利用したい施設があれば、クライアントからの提案もある。また、運営側からの提案もある。	左記と同様。
2-4	イベント開催時は、どのような役割を担っているのか。（会場提案・管理等）	
	Conference&Touring	teamtravel international
	Project Manager / Total coordinate イベントのコンセプトをはじめ、全てを統括。	Meeting Planner イベントのコンセプトをはじめ、演出・宿泊先手配等イベント全体を統括
2-5	海外の参加者を満足させる工夫（演出）等は行っているか。	
	Conference&Touring	teamtravel international
	インバウンドに焦点を当てていない。毎回のイベントで異なる演出を行うため、決まったテンプレートはない。クライアントのニーズ次第。	左記と同様。
2-6	一般的なホテルのバンケットで開催するのと異なり、施設の保護に気を付けなければならない場合があるが、その際はどのような工夫を行っているか。	
	Conference&Touring	teamtravel international
	赤ワインの可否、音の許容範囲。	万が一、施設の破損が生じた場合、クライアントが責任を取ることを示した契約書の締結を行う。
2-7	ユニークベニューを利用する際の条件や利用金額は、施設側が決定するのか。また、運営会社等を含めて決定するのか。	
	Conference&Touring	teamtravel international
	施設側が決定する。ただし、条件設定に関してノウハウがない施設に関しては、マーケティング・イベント会社等に協力を依頼するケースもある。	基本的には施設側が決定する。主催者に会場費を提示する際は、純粋な会場費を提示する。そこでは利益を創出しない。
2-8	ユニークベニューを利用する上での課題は何かあるか。（利用制限、料金・時間の交渉、飲食可否、電力等）	
	Conference&Touring	teamtravel international
	トイレが設置されていない場合。ユニークベニューでは、その施設にないものがある場合、全て外からの持ち込みになってしまうため、費用が掛かる。また、セキュリティーの管理も難しい。	ドイツでは、課題に対してフレキシブルに対応している。そのため、例えば早朝利用したいという要望があれば、施設側は前例がなくとも対応できるように検討・取組を行う。基本的には、ベニューが柔軟に対応してくれるため要望について必ず検討される。

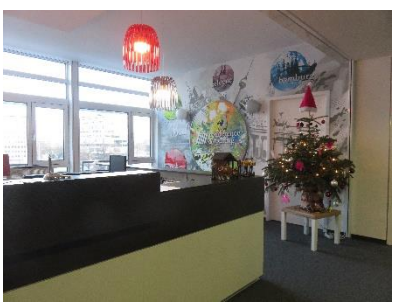
2－4　先進事例調査

2－9	イベント主催者は、イベント開催に当たり、どのような点を重視するかのか。（施設の収容規模、豪華さ等）	
	Conference&Touring	teamtravel international
	クライアントのニーズによって異なる。	コンセプトおよびクライアントのニーズによって異なる。

■その他
・ヨーロッパではインセンティブという言葉は使わない。
　利益等のポリシー・コンプライアンスに反してしまう。招待されてしまうと考えられてしまう。
・€35以上の贈り物は、課税対象になってしまう。

ベルリンは、他の主要都市（パリ、ロンドン、ローマ等）に比べて、ホテルが安い上にレベルも高い。また、アクセスも各地域から良いため、コンベンションを開催する条件が良い。したがって、ベルリンが開催都市として選ばれることが多い。

■調査の様子



2－4　先進事例調査

（ウ）コンベンションビューロー
　ベルリンには、「visit Berlin」という組織がある。これは、日本における「コンベンションビューロー」に相当し、地域の観光振興はもちろんコンベンション等における取組も行われている。

【取組】	
1－1	海外のMICE誘致を促進させるために、施策や政策等が採られているのか。どのくらい重視されているのか。
	国内のマーケットが強いため、海外からの誘致については特別焦点を置いていない。特にベルリン市は、MICE開催都市としての総合力が非常に高く、多くの主催者がベルリンでの開催を考える。
1－2	「ユニークベニュー」という概念または定義について、ドイツでどのように考えられているのか。
	ドイツでは「ユニークベニュー」という言葉は使用しない。「Offsite Venue」「Extra Venue」という言葉を使用している。特別感のある施設の利用は、開催イベントのストーリーを構成する演出の一つであるという考えがある。
1－3	ユニークベニューに対して、施設開放促進等の取組を行っているか。
	行っていない。 施設のPRを行っている。施設は、€1,200～1,300をVisit　Berlinに支払えば、ホームページ上にイベントロケーション・ベニューといて掲載される。（VBの会員は無料で掲載　※ただし、会員費は有料） Visit Berlinは、①協会（学会系や○○協会）、②ミーティングプランナー、③企業に対してベルリンをイベント開催のディスティネーションとしてPRしている。（①がファーストプライオリティ） コンベンションビューローが単体で、ベルリンをディスティネーションとして売っているのではなく、地域のホテル・市・銀行・空港等と連携してPRを行っている。
1－4	歴史的建造物等の保護・活用において、どのような法律があるのか。
	専門ではないため、回答できない。
1－5	ユニークベニューとして施設を開放した場合、国営の移設のメリットをどのように示しているのか。（日本の場合、国営施設は過剰に利益を収受できないように法律を定めている等）
	収益。 ドイツでは、施設とマーケティング会社が連携していることが多い。施設利用の際は、主催者またはイベント会社がマーケティング会社に連絡し、施設に関する相談や利用料金の支払を行う。施設側は、支払金の一部を「謝礼金」という形で収受する。マーケティング会社のような株式会社を設立して、リスクを回避している。

２－４　先進事例調査

1 - 6	なぜ、ドイツ・ベルリンはMICE開催地として選定されるのか。選定されるために、どのような取組がされているのか。
	・他国・都市からのアクセスが良い。 ・ヨーロッパの主要都市（パリ、ロンドン、ローマ等）に比べて、ベルリンの宿泊費用は非常に安い。 ・ベルリンは、歴史的背景からもわかるように、多くの建築物が最近建てられており、新しい建物が多い。 ・大学や研究所、製薬関係の団体・組織が多く点在している。（それらの関係のコンベンション等が多く開催される。） ※ベルリンで開催されるMICEは参加者の満足度が高く、ベルリン開催のMICEの参加率は高い。
【運営】	
2 - 1	ユニークベニューの開放・利活用またはベルリン市へのMICE誘致いおいて、Visit Berlin ではどのような役割を担っているのか。（施設の開放、ユニークベニューの普及、MICEの誘致広報活動等）
	・保有しているWebの構築 ・Meeting Planner/Agencyの専門雑誌の制作・編集 ・ネットワーキングの構築（VBが中心となって、イベント企画・運営会社と施設、テクニカルパートナー等の関係者を紹介） ※中国、アメリカ、イギリス、ブラジルに支店がある。
2 - 2	施設と主催者またはイベント会社を結ぶ役割を担っているのか。
	各関係者の窓口の役割を担っている。 ※VBは中立・平等の立場にあるため、多岐にわたって公平にそれぞれの関係者を紹介することができる。
2 - 3	海外からのMICE誘致やユニークベニューの開放・利活用について、どのくらいの力を入れているのか。
	1-1に記載されているのように、インバウンド誘客を意識した取組は特に行っていない。
2 - 4	1-3において、力を入れている場合、イベント主催者にユニークベニューを利用してもらう為に、どのような取組を行っているか。
	ユニークベニューを意識した活用促進の取組は行っていない。
2 - 5	イベント会社や主催者にユニークベニューを紹介できるような、リストやメニューを作成しているのか。
	作成している。Web上から確認・ダウンロードができる。

2－4　先進事例調査

■調査の様子

(エ) テクニカル サプライヤー

イベント開催時において演出に必要な音響・照明・映像等を取扱うテクニカルサプライヤー（AV会社）では、以下の2社を対象に、どのような考えを持ちユニークベニューの利用を行っているのか調査を実施した。

■対象会社

	施設名	概要
1	AMBION	複数のユニークベニューと契約し、各施設でのイベントが開催される際に、照明や映像等の演出を行っている。 URL:https://www.ambion.de/
2	KFP Five Star Conference Service	イベント企画や建設、音響、照明、IT等の技術面について特化したサービスを提供。バーチャルリアリティ等の最新テクノロジーを駆使して、イベント演出をサポートしている。 URL:https://kfp.de/

■調査結果

■取組		
1－1	ユニークベニューを利用したイベントを手掛けることは、どのくらいの頻度であるのか。	
	AMBION	KFP
	年間190件のイベントが開催される中で演出が必要な110件のイベント演出を手掛けた。	年間5000件のイベント演出を手掛けた。うち、ユニークベニュー案件は20%。残りの80%がホテルのバンケットで行われる。
1－2	イベントを特別なものに魅せるために、どのような演出・工夫を行うか。（照明、音響、装飾、デジタル等）	
	AMBION	KFP
	Twitter Wall Red Carpet（AXICAの場合）照明、音響装飾、デジタルの他、ホログラム、プロジェクションマッピング等をクライアントのニーズに合わせて行っている。	照明、音響、装飾、デジタルの他、ホログラム、プロジェクションマッピング等をクライアントのニーズに合わせて行っている。

2－4　先進事例調査

1－3	このビジネスに参入したきっかけ、ビジネスとしてのうまみ（収益性は高いか等）はなにか。	
	AMBION	KFP
	収益。	収益。ホテルのバンケットだけを活用したMICEは、アイディアのマンネリ化を引き起こすため、その産業の成長が滞ってしまう。そのため、このビジネスを更に発展させるために、「Extra Venue（＝Unique Venue）」の利活用を行っている。
【運営】		
2－1	ユニークベニューを利用したイベントを実施する際に、どのようなフローでTechnical Partnerへイベント演出・装飾の依頼が来るのか。（イベント運営・企画会社との連携、直接等）	
	AMBION	KFP
	特定の施設と連携しているため、施設から依頼が来る。	①イベント運営・企画会社（PCO,旅行会社含む）のミーティングプランナー ②主催者のイベントプランナー　の二方向から依頼がくる。また、KFPではイベント演出・装飾だけでなく、そのアイディアに関してもクライアントに提案する。照明等の専門的な部分については、専門会社と連携する。
2－2	ユニークベニューでイベント装飾等を行う際に、気を付けている点はあるか。（ベニューの養生、雨天対策等）	
	AMBION	KFP
	現代建築であるため、基本的には改めて養生する必要はない。屋内施設のため、雨天の心配なし。	ハンギングポイント。ベニューによっては、照明・飾り等を天井から吊るすために、重さの上限・吊るす場所について気を付けなければならない。また、電力・電圧についてもあらかじめ確認する必要がある。 ※利用するベニューに必要なものの用意がなければ、外から持ち込みをする。

2－4　先進事例調査

■その他

KFP

・ハイアットやインターコンチネンタル,Rezidor Hotel Group 等のベルリン市内のホテル100以上とパートナシップを結んでおり、Technical Partnerがホテルに駐在している。
・10件/月のユニークベニューに関するリクエストがある。
・VRでお客さんに、事前にその施設がどのような場所であるのかを体感してもらうアプリを作成。
・会社のカテゴリーは、AV company/full event service supplier
・KFPは、PSAVの傘下に入っているため。世界各国の案件に取り組んでいる。アメリカのホテルパートナシェア50%
・「ユニークベニュー」ではなく、「extra venue/lo c ation」と呼ばれている。日本でのユニークベニューにあたる施設は、ホテルのバンケット以外に相当するため。

■調査の様子

2－4　先進事例調査

【連携先】
　ドイツ・ベルリンでの調査にあたって、現地の知見等を有するミーティングプランナーとの連携を行った。

Yuji Andreas Wendler氏
teamtravel international GmbH 代表

　ドイツ・ケルンを拠点に活動しているミーティングプランナー。ドイツ国内だけでなく、日本で開催するMICEの運営も行っている。また、JNTO主催「JAPAN Incentive Travel Awards 2016」において企画賞受賞した経験がある。

④調査結果まとめ

<u>国際会議都市ベルリンについて</u>
　ドイツの首都であるベルリンは、国際会議協会（ICCA）による2004年の調査以来、国際会議開催都市のトップ5に数えられており、2016年度は176件の国際的なコンベンションやミーティングが開催され、パリ、ウィーン、バルセロナに次いで世界第4位にランクインしている。
　ベルリンが、国際会議等のイベントの開催地として上位に位置する理由として以下の要因が考えられる。

- ✔ ヨーロッパの中心に位置しており、国内外の主要都市から、車、鉄道、飛行機でのアクセスが可能な交通の要衝である。
- ✔ インフラ・公共交通機関の充実している。
- ✔ ヨーロッパ内で最もモダンなホテルが集まっており（約14万室）、高品位のサービスを維持しつつ、他の国際会議都市よりも比較的宿泊コストを抑えられる。
- ✔ 様々な歴史があり、国際的な都市(cosmopolitan atmosphere)である。
- ✔ 市内に大学や研究機関、製薬関係の団体・組織をはじめ、主要な協会や組織団体の本部が多数あるため、薬学・科学・IT・電子工学・コミュニケーション等の先進的な分野に関連する国際会議が多く開催される。
- ✔ 都市の魅力として、観光・文化・メディアが盛んである。

<u>ベルリンのMICE市場規模について</u>
　日本のコンベンションビューローにあたる「The Berlin Convention Office of visitBerlin」のデータによると、ベルリン全体では、約13.7万件のイベントが開催されており、ベルリンへ訪れる参加者は約1,160万人に上る。（内、約2,400,000人が外国人参加者である）
うちコンベンションセンターでは、2016年におよそ2,250件（前年比9.2%増）のイベントが開催され、約112万人（前年比4.6%増）を動員し、前年を上回る力強い伸びを示している。既存会場の収容力は限界に達しており、新しい巨大なスペースが必要なことは明らかである。新たにドイツの首都ベルリンに大規模な国際会議を誘致するためには、収容能力の増強が喫緊の課題と考えられる。

２－４　先進事例調査

ミーティングスペース市場について

2002年にベルリンのMICE市場についてのデータ収集が始まって以来、会議ビジネスは大きく成長している。初年度に245社だった会場のプロバイダーは、2016年には45％増の355社を数え、各社合計の所有ミーティングスペースの延床面積は約50万㎡に達している。うち4つのコンベンションセンターのスペースが約5万㎡(構成比10％)、次いで196社のホテルが14万㎡(構成比28％)、残り155社はそれ以外の特別な会場やロケーションが31万㎡(構成比62%)を占めている。
ホテル以外の特別な会場やロケーションには、工業地帯の使われなくなった倉庫、工場跡地、冷戦時の核シェルター、郊外の空き家となった邸宅などが含まれる。スペースを積極的に利活用してビジネスにしようとするプロバイダー側のニーズと、印象に残るイベントづくりを目指して、目的に応じた会場を探すミーティングプランナーや、そのクライアントの需要側のニーズとが合致することで、ミーティングスペースの市場はさらに成長を続けると考えられる。

これらの需要と供給のニーズを満たす支援の１つとして、「visitBerlin」のネットワーキングが挙げられる。会場のほかテクニカルプロバイダーやロジ関係、ケータリング、PCO、MICEイベント会社等の地元イベント関連組織・団体のネットワーキングを約100程度構築している。各関係機関が構築されているネットワークを活用し、イベント主催者のニーズを満たしたプロバイダーやミーティングプランナーとのマッチングが可能である。

Extra Venueという考え方

ベルリンが国際会議都市に数えられる前から、ドイツではイベント会場として特別な会場やロケーションが利活用される歴史が長かったため、「ユニークベニュー」という単語は一般的ではなく、Extra Venue、Off-site venueまたはOff-site locationなどと呼ばれている。

ホテルのバンケット・スペースにはない特別感を演出できるExtra Venueの価値は、会場自体の持つ魅力よりも、色々な演出や仕掛けを施せる「箱」としての使い勝手と、契約条件および使用に関するガイドラインなどの用意が重要視されている。会場の運営管理については、会場の持ち主とは別に、マネジメントを担う会社が存在しており、音響、照明、映像会社を兼業している場合が多い。

一方、ミーティングプランナーは、イベント主催者（クライアント）の意向に沿ってコンセプトを作成するとともに、Extra Venueを含む数々のミーティングスペースから適切な会場を選定し、目的に応じた演出を施して利用するというフローが一般的である。したがって、Extra Venueそのもののユニークさよりも、コンセプトのユニークさを重視しており、色々な演出が可能でかつ使い勝手の良いVenueほど利用度が高まりビジネスとして成立する。Extra Venueが行政の施設である場合、その利益は修繕費等の名目で処理される。

２－４　先進事例調査

（２）「国内先進事例」　岡山市

①選定基準

国内における先進事例の地域を決定するにあたり、以下の基準に基づき選定を行った。

・コンベンションビューロー等と連携が取れている。
・ユニークベニューの新規開放の経験がある。
・その地域ならではのユニークベニューが複数あること。

②選定理由

選定基準を踏まえ、本事業では、国内先進事例の調査先として基準を満たしている岡山県岡山市を選定した。選定理由は、以下の通りである。

岡山市は産学官が連携し、情報を共有しながらMICE誘致を推進している。その大きな特徴は「コンベンション コンシェルジュ」機能を持っていることである。 ユニークベニューの活用において、日本ではイベントや レセプションを開催するためのコンソーシアム（施工・音響・照明などの事業者）が構築されていないケースが多くあるが、 岡山ではその体制が整備されている。 各種ベニューの立地条件から岡山市のMICE誘致におけるキャッチコピーは、「コンパクトシティ」。「会議施設」「宿泊施設」「文化施設」を一つのパッケージに落とし込み、魅力が密集する街を「コンパクトシティ」とブランディングしてプロモーションを展開している例が他では見られないため岡山市を選定した。

加えて、岡山市にある岡山後楽園は、日本を代表する美しい景観を持つ庭として、国の特別名勝に指定された文化財庭園であり、ユニークベニューとして施設貸出を行っている。同窓会・お茶会・作品展示会から国際会議のガラディナーの会場として貸出を行った実績がある。

また、岡山後楽園と連携しているおかやま観光コンベンション協会は、イベント開催時の運営サポートや広報協力、観光パンフレットの提供等を行っている。

③調査内容詳細

【調査方法】関係者訪問並びにヒアリング。
　　岡山城イベントについては、当日の現場視察。

【調査実施期間】平成29年　　9月　関係者ヒアリング
　　平成29年　　10月　岡山城イベント視察

【調査のポイント】

岡山市が掲げる「コンパクトシティ」というブランディングにおいて、行政とコンベンションビューローが果たす役割はどのようになっているか。実際にどの様な連携が図られているか。

2－4　先進事例調査

【調査項目】
（ア）おかやま観光コンベンション協会
・MICE誘致における、おかやま観光コンベンション協会の役割について。
・ユニークベニューの新規開放に向けて、どのような取組を行っているのか。
・ユニークベニュー活用促進に向けて、どのような取組を行っているのか。

（イ）岡山後楽園（施設管理者）
・現時点で決定している使用ルール等は何があるのか。
・過去にユニークベニューとして、どのような演出を行った経験があるか。
・イベントを開催する上での課題およびそれに対する取組は何か。

【調査結果】
（ア）おかやま観光コンベンション協会

おかやま観光コンベンション協会では、岡山市で開催するMICE誘致やイベントの成功に向けて、イベント主催者や参加者への支援を行っている。イベントの開催にあたっては、会場や宿泊施設の提案・確保から、懇親会の企画・提案、当日の運営サポート（関係業者紹介、備品の手配等）を行いる。また、コンベンション開催に対して補助金を交付している。

ユニークベニューの新規開放・利活用についても、岡山市をMICEのディスティネーションとしてPRしていく手段の一つとして取組んでいる。

新規開放に向けて、施設管理者に対する普及啓発活動を行っており、後楽園の夜間開放についてもおかやま観光コンベンション協会が運営業者と利用に関する実現性を鑑みた上で、施設側との検討・調整を重ね実現した。また、ユニークベニューを新規開放する際に重要な事項として、施設管理者側と利用側間での「考え方」が一致することが挙げられた。例えば、外国人僧侶が在籍していることで知られている曹源寺では、日本を国際発信および訪日外国人旅行者の増加を目的としたMICE誘致と、「禅」を世界に広めたいという曹源寺の目的・考えが一致したことから、施設の貸出に至った。

ユニークベニューの利活用については、施設管理者や会議主催者等の関係者間の調整、地域のユニークベニューを紹介するツールをWeb上に掲載している。ユニークベニュー等の施設利用を促すために、PCO等の運営側ではなく主催者に直接提案することが多い。また、その際はユニークベニュー単体を主催者に紹介するのではなく、地域全体の魅力をPRするための手段の一つとして、ユニークベニューを活用する。地域に点在する魅力的な素材（岡山後楽園、岡山城、コンベンションン施設、アクセス等）を組み合わせて、地域をPRする「ストーリー性」が重要である。

岡山市の今後も課題は、参加者50名～200名程度までの小規模施設がほとんどであり、参加者200名を超える中型・大型のコンベンションに対応できる施設が充分にないということである。今後は、雨天でも対応が可能であり、地元経済界（商店主）と参加者（外国人含む）との直接的な交流が行える地元の商店街の開放を検討している。

2－4　先進事例調査

（イ）岡山後楽園（施設管理者）

岡山後楽園は、今から約300年前に岡山藩主によって、安らぎの場として作られた日本三大名園に数えられている日本庭園である。ユニークベニューとしての施設貸出を積極的に行っている施設の一つである。ユニークベニューとしての貸出にあたり、おかやま観光コンベンション協会との連携を図っている。また、施設貸出について以下の事項が定められている。

■利用可能時間　　閉園後から午後8時30分まで
閉園時間：3月20日～月30日：午後6時
10月 1日～3月19日：午後5時

■利用料金　　鶴鳴館と鶴鳴館前庭のセットで、3時間90,780円～

■申込可能期間　　使用希望日の1年前の同月15日の午前9時から2ヶ月前まで。

■受付時間　　土・日・祝日・年末年始を除く、午前9時～午後4時

■飲食　　特に制限はないが、床等の養生を行う必要がある。飲食を行う前庭の利用が多い。また、食事を温める程度あれば炊事場の利用が可能である。

国際会議や学会等の懇親会での利用が多く、過去には京都から12名の舞妓さんを呼んだ演出やｆ、お寿司屋さんによる実演を実施したこともある。施設内にある能舞台を利用して、郷土芸能・備中神楽を行うこともあった。さらにイベントを特別なものにする演出として、前庭のライトアップが利用可能である。

そして、岡山後楽園では、外国人の参加者を想定し、男女別で様式のトイレ工事やWi-Fiの整備、英語表記の看板設置等の受入環境整備に取り組んでいる。こういった施設の改善は、実際の施設利用者の意見を反映させたものである。また、現在では養生に手間がかかる点や、電圧・電気の容量、冷蔵庫の大きさ等の課題があり、これらを改善するために取組んでいる。

ユニークベニューとしての施設貸出は、外国人参加者に岡山後楽園の魅力を伝える機会であるため、ただ単に夜間の利用をしていただくのではなく、昼間の時間帯にも岡山後楽園の美しさを楽しんでもらえるようなプランをおかやま観光コンベンション協会から提案している。

■調査の様子

２－４　先進事例調査

【参照資料】利用に関する注意事項等（岡山後楽園）

後楽園の夜間使用申し込みにあたっての注意事項

岡山県土木部都市局都市計画課
岡山県後楽園事務所

夜間の後楽園の一部を催し物の会場としてお使いいただけることといたしました。

夜間使用に当たっての注意事項は概ね本紙のとおりですが、詳細は、後楽園事務所にお越しの上、実施計画書等（催しの内容、人数（概ね 300 人以内）、実質の利用者名、入園方法等）をお示しの上、ご相談ください。

なお、夜間特別開園期間中及びその他管理運営上支障があると認められるときは使用できません。

1　許可しない場合

次の場合は、施設使用を許可できません。

1　公の秩序又は善良な風俗を害する恐れがあるとき
2　施設等を汚損・損傷し、又は滅失するおそれがあるとき
3　その他施設の管理上支障があると認められるとき
4　都市公園法に基づく使用許可条件に違反したとき
5　虚偽申請その他不正の手段により使用許可を受けたとき
6　使用許可後、前記１から３に該当することとなったとき
7　施設を使用する権利を他人に譲渡したり、転貸することはできません。
8　物品販売その他これに類する催し

2　申請手続き

催し実施日が属する月の１年前の月の 15 日から２ヶ月前までに使用目的を記載した申請書と「岡山県の事務事業から暴力団等を排除する措置のための指針」に基づき、申請者及び実質の利用者が、排除対象者でないことの誓約書を提出してください。

岡山県が共催又は後援する全国的若しくは国際的な規模の催し物若しくは各種アフターコンベンションについては、催し実施日の２ヶ月前までに申請することができます。

3　使用可能な場所等

使用できる場所及び使用料金は別紙のとおりです。

沢の池前園路、鶴鳴館本館は鶴鳴館をご利用の場合にのみ使用できます。飲食は、原則として鶴鳴館及び鶴鳴館前庭でしていただき、その他の園内区域はご休憩、庭園鑑賞の場としてご使用ください。また、定められた場所以外には立ち入らないようにお願いします。

- 1 -

２－４　先進事例調査

【参照資料】利用に関する注意事項等（岡山後楽園）

4　開催時間
催しの開催時間は、原則として閉園後から午後８時３０分までとします。
昼間の一般開園時間中に準備される場合は、できるだけ一般入園者の支障にならないようにお願いします。
夜間使用に係る参加者の入園は原則として一般入園者の退園後とします。

5　主催者で準備する物
会場の照明その他必要な設備は主催者でご準備ください。
楽器、音響設備又は発電機の持込については、設置場所も含め後楽園事務所と協議をしてください。なお、ご希望がありましたら、既設の照明灯により園内をライトアップします。

6　火気の使用禁止
火気の使用は、岡山市火災予防条例により禁止されております。
園内は禁煙とさせていただいております。

7　安全管理
参加者の安全管理は、主催者が責任をもって行ってください。
バリケードの設置、係員の配置等の対応をお願いします。

8　駐車場
駐車場をご利用になる場合は、あらかじめお申し出ください。
（通常、開園時間外はご利用できません。）

9　片付け等
終了後、速やかに片付け、清掃終了後、後楽園事務所職員にお知らせください。ゴミはお持ち帰りください。
施設内の備品、襖、畳等を損傷したり、紛失したりしたときは、弁償していただきます。また、建具等を外さないようにお願いします。

10　使用料の納付
後日、使用料をお知らせしますので、支払期日までに、現金持参又は金融機関にお振り込みください（手数料振込者負担）。
使用料納付後のキャンセルはできません。

11　使用許可証
使用料の納付確認後、使用許可証をお渡しします。使用当日は必ず使用許可証を入園券売り場までご持参ください。
使用許可証が発行された後にやむを得ず使用を取りやめるときは、速やかにご連絡ください。

- 2 -

２－４　先進事例調査

【参照資料】利用に関する注意事項等（岡山後楽園）

12　使用時間
　許可された時間には、搬入、準備、片付け、搬出の時間も含みますので、許可時間内に全てが完了するよう厳守してください。

13　看板等の設置
　施設内外の壁・柱・ガラス等に張り紙をしたり、釘等を打たないでください。
　看板の設置、ポスターの掲示は、あらかじめ後楽園事務所職員の指示を受けてください。指定の場所以外の設置はできません。

15　準備資材等の搬入搬出
　搬入搬出のため車両を乗り入れる方は、後楽園事務所職員と協議をし、「禁止区域搬出入車両届出書」を１週間前までに提出してください。
　作業完了後は、速やかに一般車両駐車場（東側外園）へ移動してください。
　西門より搬入搬出をされる方は、事前に申し出てください。

16　その他
　使用責任者は、後楽園事務所職員といつでも連絡がとれるように所在を明らかにしてください。
　電話の取り次ぎはできません。催し物の問い合わせがあった場合のご案内できる携帯電話番号等がありましたら、事前にお知らせください。

- 3 -

2－4　先進事例調査

④調査結果まとめ

MICE開催の中核的な施設であるおかやま観光コンベンション協会は、新幹線「岡山駅」から徒歩3分の場所に立地し、その周辺に宿泊施設が点在している。　岡山市は人口70万人の地方政令都市で、藩庁・岡山藩として古くから栄えた城下町である。日本三名園の一つである岡山後楽園と、黒い外観から「烏城（うじょう）」とも呼ばれる岡山城へは、岡山駅から徒歩約15分の距離に位置し、後楽園周辺には岡山県立博物館や岡山県立美術館など文化施設も林立している。また、訪日外国人旅行者に人気の刀剣（備前刀）や陶芸（備前焼）の他、桃太郎伝説等地域を彩る伝統的な文化・芸能も多彩に揃っている。

岡山市はこのような「会議施設」「宿泊施設」「文化施設」を一つのパッケージに落とし込み、魅力が密集する街を「コンパクトシティ」とブランディングしてプロモーションを展開している。産学官が連携し、情報を共有しながらMICE誘致を推進していますが、その大きな特徴は「コンベンション コンシェルジュ」機能を持っている点である。岡山コンベンションセンターのHPでは「我々は『旅行業』を取得しており、コンベンション開催の会場使用計画から会議終了後の観光エクスカーションに至るまでトータル的なサポートが可能です。」と、掲示されている。ユニークベニューの活用において、日本ではイベントや レセプションを開催するためのコンソーシアム（施工・音響・照明等の事業者）が構築されていないケースが多くある。MICE誘致の初期段階（誘致～計画立案）では、ユニークベニューの活用における計画立案をコンベンションビューローが主導する機会が多くあるが、加えて岡山ではその体制が整備されている。岡山後楽園や岡山城等のユニークベニュー活用のノウハウが蓄積されつつあり、MICE誘致の大きな武器となっている。

また、岡山市にある岡山後楽園や岡山城天守閣では、設備等に関する施設側の調整が必要な箇所について、積極的に課題の検討・解決策の実行を行っている。こういった取組が、イベントの参加者の満足度向上およびユニークベニューの利活用促進につながる。

2－5　ユニークベニュー利活用に向けた実践的ガイドラインの作成

当事業支援採択案件への調査並びに、海外・国内各先進事例調査の結果を基にユニークベニュー利活用のための実践的ガイドラインを以下の要領で作成した。

【目的】
・当書を手にした当該ビジネスにおけるプレイヤーの領域拡大
・他の先進事例への理解により、日本国内での転用
・各地域におけるワンストップサービスを目指したコンソーシアム構築への期待

【編集方針】
これまでの事業を通じ作成された「ユニークベニューHANDBOOK　博物館・美術館編」（平成25年度事業）「ユニークベニューベストプラクティス集」（平成26年度事業）は、主に施設管理者やコンベンションビューローに対する施設開放に向けた導入編であった。
今回は広告代理店、旅行会社、PCOなどMICEをプランニングする立場であるプレイヤーが、今後MICEビジネスを拡大していくにあたり参考になる様、国内・海外のそれぞれユニークベニュー活用の実例を挙げ、演出やコンセプトを設定する際のガイドラインとして編集し、発行した。

【活用の方法】
ガイドライン（印刷物）
希望者より問い合わせに対し送付をする。
ユニークベニュービジネスセミナー参加の広告代理店・設営施工業者・旅行会社・PCO等の当該ビジネスにおけるプレイヤーが、MICEにおいてユニークベニューを活用してそのビジネス領域拡大のために活用を促す。

Webでの展開
観光庁およびJNTOあるいは趣旨に賛同頂ける各都道府県コンベンションビューローのホームページに掲載を頂き、上記のMICEビジネスにおける主要なプレイヤーのみならず、施設管理者や主催者、各自治体のMICE推進担当までリーチするよう活用を促す。

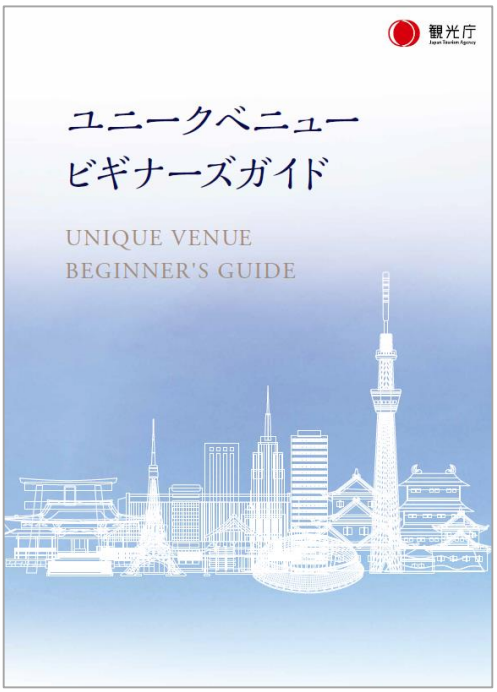
2－5　ユニークベニュー利活用に向けた実践的ガイドラインの作成

【「ユニークベニュー利活用に向けた実践的ガイドライン」構成】

項　　目	内　　容
はじめに	ユニークベニューとは
国内先進事例～岡山市の取組	岡山市の概要 岡山市のMICE誘致に対する考え方 産官学連携とビューローの機能
岡山後楽園（岡山県）	施設概要 ユニークベニュー貸出の取組 活用のポイントと課題 イベント事例
岡山城（岡山県）	施設概要 ユニークベニュー貸出の取組 活用のポイントと課題 イベント事例
醍醐寺（京都府）	施設概要 ユニークベニュー貸出の取組 活用のポイントと課題 イベント事例
橿原神宮（奈良県）	施設概要 ユニークベニュー貸出の取組 活用のポイントと課題 イベント事例
海外の事例～ドイツ・ベルリン	国際会議都市ベルリンの概要 同市のMICE市場の現状 ベルリンがMICE都市に選ばれる理由 ドイツでのイベント開催・運営体制 MICEのイベント会場の需要について ドイツでのユニークベニューの考え方
KPM	施設概要 施設貸出のはじまりと年間件数 施設利用について 施設の利用目的 演出例
アルテス・シュタットハウス	施設概要 施設貸出のはじまりと年間件数 施設利用について 施設の利用目的 演出例
AXICA	施設概要 施設貸出のはじまりと年間件数 施設利用について 施設の利用目的 演出例
ミーティングプランナーの視点	YUJI ANDREAS WENDLER氏へのインタビュー ドイツにおけるミーティングプランナーの担う役割 クライアントのニーズ把握とそれを満たすストーリー構築について
テクニカルパートナーの視点	TOBIAS KAMRADT氏へのインタビュー ミーティングプランナーの依頼を受けてテクニカルパートナーが行うイベントの演出について
Q&A	会場選びや準備、当日運営における 注意点についてのQ&A

2－5　ユニークベニュー利活用に向けた実践的ガイドラインの作成

【表紙および目次】



Content

はじめに …… p.2
Content …… p.3
ユニークベニューとは …… p.4
国内先進事例展 …… p.5
岡山市の取組 …… p.7
岡山城 岡山市 …… p.9
岡山後楽園 岡山市 …… p.11
醍醐寺 京都府 …… p.13
橿原神宮 奈良県 …… p.15
海外事例展 …… p.18
ドイツ・ベルリンの取組 …… p.19
ベルリン王立磁器製陶所 …… p.21
アルテス・シュタットハウス …… p.23
AXICA …… p.25
ユニークベニューの利用に向けて …… p.30
ミーティングプランナーの視点 …… p.31
テクニカルパートナーの視点 …… p.33
Q＆A …… p.35

■仕様
A4サイズ・マットコート紙・180K（仮）・40ページ・150部印刷

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

今後のユニークベニュー利活用の促進のために以下の要領でセミナーを開催した。

（１）開催目的

国際会議や企業のインセンティブ旅行等MICEの誘致・開催にあたって、歴史的建造物や博物館や水族館等、参加者に特別感を与える会場においてレセプションやイベントを行う「ユニークベニュー」が国際的なトレンドとなっており、海外先進都市の施設を管理する事業者やイベント関連事業者はユニークベニューを収益事業として捉え、その利活用に向けて積極的に取組んでいる。

本セミナーでは、成熟したドイツMICEマーケットの現状やユニークベニューを活用したイベントの提案方法、海外でのイベント演出手法等について、ベルリンで活躍するミーティングプランナー・Yuji Andreas Wendler氏とイベント演出を手掛けるテクニカルサプライヤー・Tobias Kamradt氏等に講演いただき、MICEマーケットにおけるユニークベニュー利活用の有用性を参加者に伝え、今後の日本におけるユニークベニューを活用したMICE誘致がビジネスとしてより一層発展していくことを目的とした。

（２） 開催日時・場所

①東京会場：平成30年2月14日　14:00～17:05　清澄庭園（大正記念館、涼亭）

泉水、築山、枯山水を主体にした「回遊式林泉庭園」。この地の一部は江戸の豪商・紀伊國屋文左衛門の屋敷跡と言い伝えられている。明治11年、岩崎弥太郎が、荒廃していたこの邸地を買い取り、社員の慰安や貴賓を招待する場所として庭園造成を計画、明治13年に「深川親睦園」として一応の竣工をみた。弥太郎の亡きあとも造園工事は進められ、隅田川の水を引いた大泉水を造り、周囲には全国から取り寄せた名石を配して、明治の庭園を 代表する「回遊式林泉庭園」が完成した。

②奈良会場：平成30年2月16日　14:00～17:10　橿原神宮（橿原神宮会館、文華殿）

日本最古の正史ともされる『日本書紀』において、日本建国の地と記された橿原。天照大神（あまてらすおおかみ）の血を引く神倭伊波禮毘古命（かむやまといわれびこのみこと）（後の神武天皇）が、豊かで平和な国づくりをめざして、九州高千穂の宮から東に向かい、想像を絶する苦難を乗り越え、畝傍山の東南の麓に橿原宮を創建された。第一代天皇として即位されたのが紀元元年、今からおよそ2,600余年前。日本の歴史と文化の発祥の地でもある橿原は、日本の始まりである。

（３）.参加者

①東京会場：90名　②奈良会場：77名

※参加者内訳：イベント業界、旅行業界、広告業界、施設管理者、自治体等

募集告知チラシ

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（４）プログラム

①東京会場

時　間	内　容
14:00	開会
14:02~14:10	主催者挨拶：瓦林 康人氏 （観光庁審議官）
14:10~14:55	基調講演：ベルリン先進事例発表 Yuji Andreas Wendler氏（teamtravel international GmbH代表）
14:55~15:35	《特別講演Ⅰ》国内先進事例紹介 講演者：池田 伸之氏（株式会社JTB 観光戦略部長） 藤村 博信氏 （東京観光財団 コンベンション事業部 国際渉外担当課長）
15:35~15:40	清澄庭園からのご案内
15:40~16:25	ネットワーキングイベントおよび休憩
16:25~17:05	《特別講演Ⅱ》 ドイツ・ベルリンにおけるユニークベニュー活用の事例紹介 講演者：Tobias Kamradt氏 (KFP Five Star Conference Service GmbH　セールスマネージャー)
17:05	閉会

②奈良会場

時　間	内　容
14:00	開会
14:02~14:08	主催者挨拶：井上 学氏 （観光庁国際観光課　MICE推進室　参事官）
14:08~14:15	挨拶　　：森田　康文氏（奈良県 観光局長）
14:15~15:00	基調講演：ベルリン先進事例発表 Yuji Andreas Wendler氏（teamtravel international GmbH代表）
15:00~15:40	《特別講演Ⅰ》国内先進事例紹介 講演者：池田 伸之氏（株式会社JTB 観光戦略部長） 曽根 豊太氏 （東京観光財団 コンベンション事業部　誘致事業課主任）
15:40~15:45	橿原神宮からのご案内
15:45~16:30	ネットワーキングイベントおよび休憩
16:30~17:15	《特別講演Ⅱ》 ドイツ・ベルリンにおけるユニークベニュー活用の事例紹介 講演者：Tobias Kamradt氏 (KFP Five Star Conference Service GmbH　セールスマネージャー)
17:15	閉会

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（5）講師プロフィール

基調講演

teamtravel international GmbH
代表　Yuji Andreas Wendler　氏

teamtravel international GmbH 代表。
ドイツを拠点にMICE企画運営会社を経営するミーティングプランナー。
ヨーロッパ、日本をはじめ、世界各国で数々のMICEを企画し、2016年度JNTO主催 「JAPAN Incentive Travel Awards」でも企画賞を受賞。

特別講演Ⅰ

【東京会場】　公益財団法人　東京観光財団　コンベンション事業部
国際渉外担当課長　藤村　博信　氏

1994年近畿日本ツーリスト㈱入社。虎ノ門海外旅行支店にて官公庁および外郭団体の外国人招聘案件等の訪日旅行営業を担当後、2005年よりグローバルビジネス支店にて在外の旅行代理店や企業等が実施する各種インバウンド案件を取り扱う。2014年4月から現職。（公財）東京観光財団コンベンション事業部にて主に企業系会議および報奨旅行等誘致に係る各種支援事業を推進。ユニークベニューの利用促進については特に力を入れて取り組んでいる。

【奈良会場】　公益財団法人　東京観光財団　コンベンション事業部
誘致事業課主任　曽根　豊太　氏

旅行会社でのインバウンド業務を経て、2010年に公益財団法人東京観光財団に入社。2015年4月より現職。都内のユニークベニューとして利用できる施設の開発や、ユニークベニューの利用促進に日々取り組んでいる。

特別講演Ⅰ

株式会社JTB　国内事業本部法人事業部観光戦略チーム
観光戦略部長　池田　伸之氏

1988年4月株式会社ジェイティービー　入社。株式会社ジェイコム(現JTBｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽﾞ)　マーケティング部　営業プロデューサー、株式会社JTBコミュニケーションズ東京本社　イベントコミュニケーション１局　局長、株式会社ジェイティービー　旅行事業本部　地域交流ビジネス担当部長、**一般社団法人日本旅行業協会　事務局次長**（ツーリズムEXPOジャパン推進室長兼務）等を経て、2017年2月より現職。

特別講演Ⅱ

KFP Five Star Conference GmbH
セールスマネージャー　Tobias Kamradt　氏

イベント・テクノロジー、ステージ設営、音響、照明、ITサービスに関して企画・コンサル等のサービスを提供しているKFP Five Star Conference GmbHに2016年入社。販売およびマーケティング戦略を担当し、舞台設営、照明、音響、映像技術、IT技術、メディア制作等の包括的な技術を活用したソリューションを総括し、特別な体験と価値を顧客に提案している。KFPに入社する前は、世界的なホテルチェーンである「Hyatt」「Park Plaza Europe」等で、販売促進を担当しており、MICEや事業開発等の販売部長を経験した。

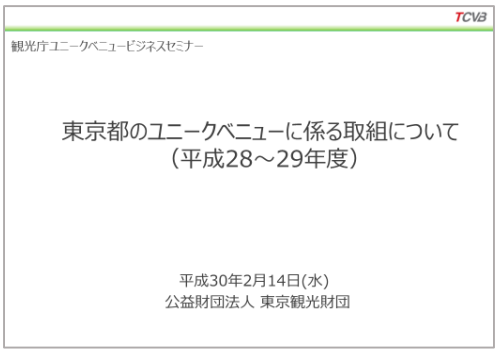
2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（６）講演要旨（2月14日東京／2月16日奈良）

■Yuji Andreas Wendler　氏

・ドイツでは、マーケティングを行う会社と連携しているユニークベニューもあり、ウェブ上に利用条件、利用料金、装飾やデジタルを利用した演出、アクセスマップ、ケータリング、施設の写真、近くのホテル等を掲載することで、ミーティングプランナーが会場を提案するにあたって役立つ情報を提供している。
・日本においても、施設が専門会社によるマーケティング、利用規約の構築とその英語訳、各関係機関（ケータリング会社、設営会社等）のネットワーキング構築を積極的に行うことによって、ユニークベニュー利活用が進むのではないか。

■藤村　博信　氏／曽根　豊太　氏



・東京観光財団ではユニークベニューの利用促進のために、①会場設営支援②開発および受入環境調査③ＰＲパンフレットの作成という３つの支援を行っている。会場設営支援に関しては、イベント主催者に対し、平成29年度から公募を開始した。ノウハウが乏しくても東京であれば、魅力的なユニークベニューでの開催が可能であり、MICE開催都市東京の魅力が世界中へ伝播していくことで、東京でのMICE開催が増加することを狙いとしている。

■池田　伸之　氏

・ユニークベニューを活用したテストマーケティングや東京の新たな魅力発掘等を目指し、平成29年10月に浜離宮恩賜庭園で「Tokyo Premium Night」を開催した。ナイトタイムエコノミーの促進も踏まえ、多様な方法でライトアップ演出を実施。まさに、浜離宮の歴史と近代的なビルの融合が、エレガントなストーリーを生み出した。
・今回での経験を踏まえ、申請のプロセス、準備期間、占用面積・占用料、設置物の移動等について、課題があると感じた。
・ユニークベニューを利活用していくにあたって、こういった点は官民連携して積極的に改善を図る必要がある。

■Tobias Kamradt　氏

・イベント市場において、映像や音響、照明による演出は、既にスタンダードになっているため、クライアントの高い満足を得るためには、それを超えたサービスを提供する必要があり、そこでユニークベニューの存在が重要となる。
・ユニークベニューは、「ユニーク」であるからこそ、予測がつかないことが起きる。特にテクニカルな面では、専門業者が事前にユニークベニューを下見し、その会場では何ができるのか、何が必要なのか確認することがイベントを成功させる上で必要。ユニークベニューだからこそ出来ること（例えば、会場に隣接している庭園の活用、水辺の活用等）を引き出せれば、ユニークベニューを最大限活かすことが可能となる。

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（７）参加者アンケート

当セミナーにおいて参加者を対象にアンケート調査を実施した。

【調査対象】　東京・奈良各会場へのセミナー参加者

【調査方法】　参加者への配布・回収

【調査項目】

記入者情報

（ア）業種

□交通業　□旅行業　□宿泊業　□広告業　□イベント業　□映像・音響・照明施工関係　□行政関係　□施設　□メディア　□その他

（イ）当セミナーをどのように知ったかお答えください。

□関係者からの紹介　□MPI会員メルマガ　□JATA会員メルマガ
□Event Bizメルマガ　□日本コンベンション協会からの案内
□日本イベント産業振興協会からの案内　□JCCBからの案内　□その他

（ウ）当セミナーに参加された理由をお答えください。（複数回答可）

□ユニークベニュー（または自施設）でのMICE開催を予定しているため
□具体的な予定はないが、ユニークベニュー（または自施設）でのMICE開催を検討しているため
□今後、ユニークベニュー（または自施設）でのMICE開催を検討したいため
□会場に興味があったため　□その他

ユニークベニュービジネスセミナーについて

（エ）セミナーに参加することで、先進的な海外・国内のユニークベニューの利活用について参考になりましたか？

①《基調講演》ドイツ・ベルリン先進事例紹介について
□大変参考になった　□参考になった　□どちらでもない　□参考にならなかった
②《特別講演Ⅰ》国内先進事例紹介について
□大変参考になった　□参考になった　□どちらでもない　□参考にならなかった
③《特別講演Ⅱ》ドイツ・ベルリンにおけるユニークベニュー活用の実例紹介について
□大変参考になった　□参考になった　□どちらでもない　□参考にならなかった

（オ）セミナーに参加した後の、ユニークベニュー（今回の会場に限らず）利活用に対する意向をお聞かせください。

□是非ユニークベニューを利用したい（してもらいたい）
□案件があればユニークベニューを利用したい（してもらいたい）
□どちらでもない　□利用したくない（してほしくない）

（カ）その他、当セミナーに関して、ご意見・ご要望ありましたらご記載ください。

【回答数】

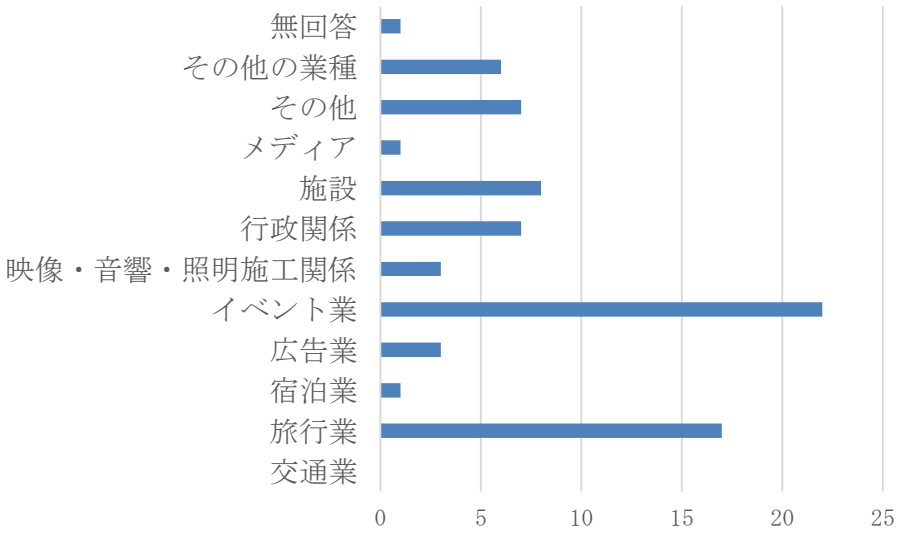
東京会場
参加者90名／回答者数66名
奈良会場
参加者77名／回答者数60名

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

【アンケート結果】

東京会場　　記入者情報　　参加者90名／回答者数66名

（ア）業種

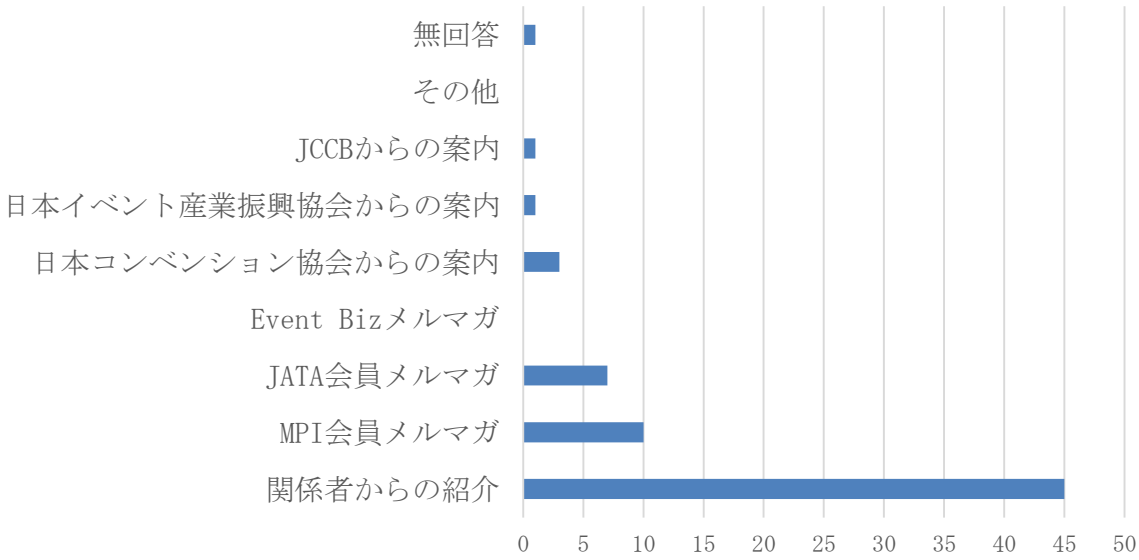


交通業	0
旅行業	17
宿泊業	1
広告業	3
イベント業	22
映像・音響・照明施工関係	3
行政関係	7
施設	8
メディア	1
その他	7
その他の業種	6
無回答	1

【その他の業種】
・IT、ITサービス
・DMO
・コンベンションビューロー

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

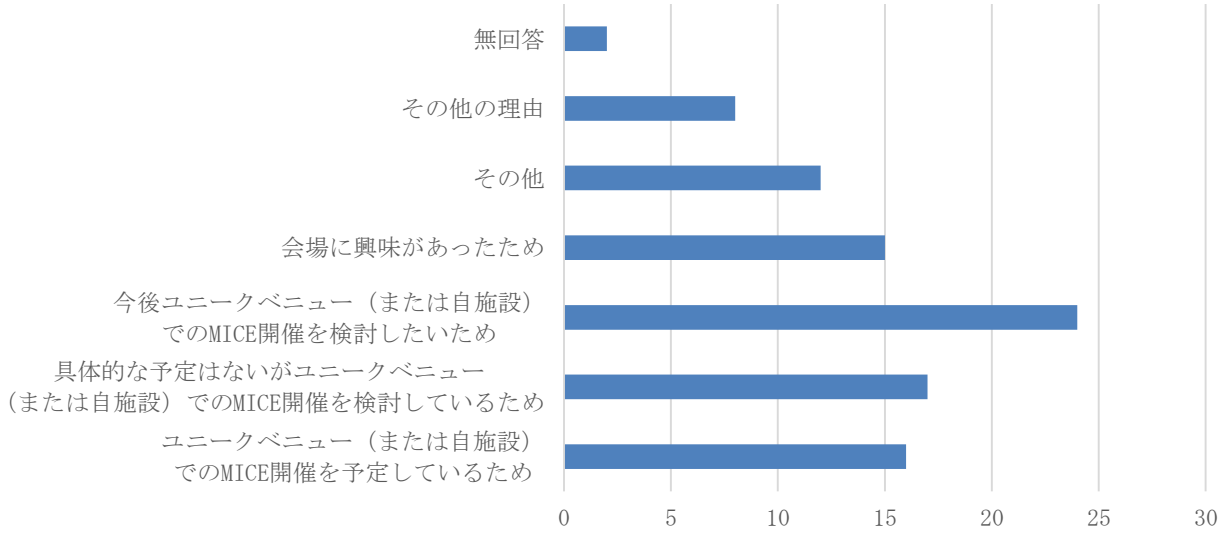
（イ）どのように知ったか



関係者からの紹介	45
MPI会員メルマガ	10
JATA会員メルマガ	7
Event Bizメルマガ	0
日本コンベンション協会からの案内	3
日本イベント産業振興協会からの案内	1
JCCBからの案内	1
その他	0
無回答	1

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（ウ）参加の理由

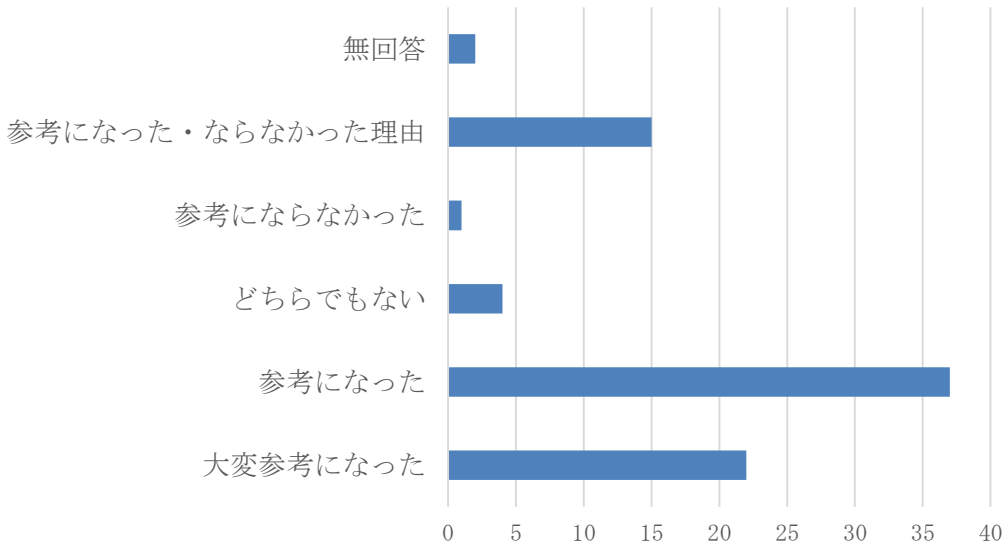


ユニークベニュー（または自施設）でのMICE開催を予定しているため	16
具体的な予定はないがユニークベニュー（または自施設）でのMICE開催を検討しているため	17
今後ユニークベニュー（または自施設）でのMICE開催を検討したいため	24
会場に興味があったため	15
その他	12
その他の理由	8
無回答	2

【その他の理由】
・ユニークベニューを活用した新規市場の開拓の為。
・ユニークベニューを活用したイベント企画。
・ユニークベニューを運営している立場から。
・ユニークベニューの色々なケースを聞ければと思う。
・ユニークベニューの活用、日本での取組みについて学ぶため。
・事業に関連していたので。
・ユニークベニューを開発したい。

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（エ）①《基調講演》ドイツ・ベルリン先進事例紹介について

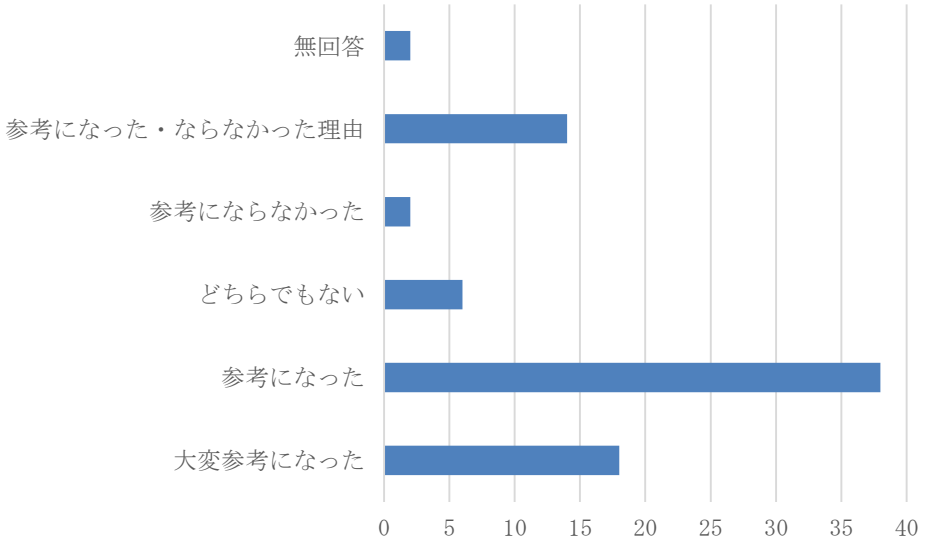


大変参考になった	22
参考になった	37
どちらでもない	4
参考にならなかった	1
参考になった・ならなかった理由	15
無回答	2

【参考になった理由】
・ユニークベニュー活用の体制が整備されている。
・ユニークベニューを使ったイベントを企画する際のポイントが参考になった。
・教会ベニュー、ストーリー作り事例。
・開催場の特色に合わせたPRと、参加者に満足頂けるイベント作りができることが、日本でも活用できると思った。
・歴史的建造物含め、様々なものがユニークベニューに活用できる事を改めて感じた。
・海外のニーズを知ることができた。
・日本に求められていること、考え方。
・イベントの考え方を改めて知ることができた。
・具体的な会場名が挙がった点が参考になった。
・移動手段のエンタメ利用。
・ユニークベニューの具体的な運営側の提示等。

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（エ）②《特別講演Ⅰ》国内先進事例紹介について

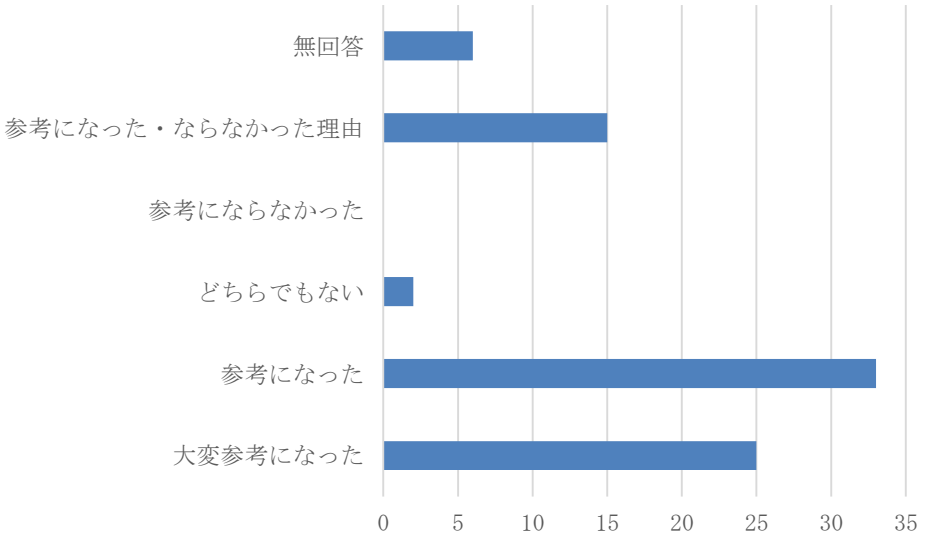


大変参考になった	18
参考になった	38
どちらでもない	6
参考にならなかった	2
参考になった・ならなかった理由	14
無回答	2

【参考になった・ならなかった理由】
・福岡の例の様に一体となって動ける体制が発展するためには重要だという点。
・MICE周辺情報がわかりやすく説明されていた。
・Tコンベンションビューローのサポートについて知らなかったので今後活用したい。
・東京都にも多くの施設があり、支援もあることを知った。
・データ的な事はもちろん、今後のユニークベニュー企画検討に大いに参考になった。
・国内事例を自施設に置き換えて考え、参考になった。
・世界での日本の立ち位置。
・同業（旅行業）としての取組、進め方。
・国のMICE施策を改めて知ることができた。

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（エ）③《特別講演Ⅱ》ドイツ・ベルリンにおけるユニークベニュー活用の実例紹介について

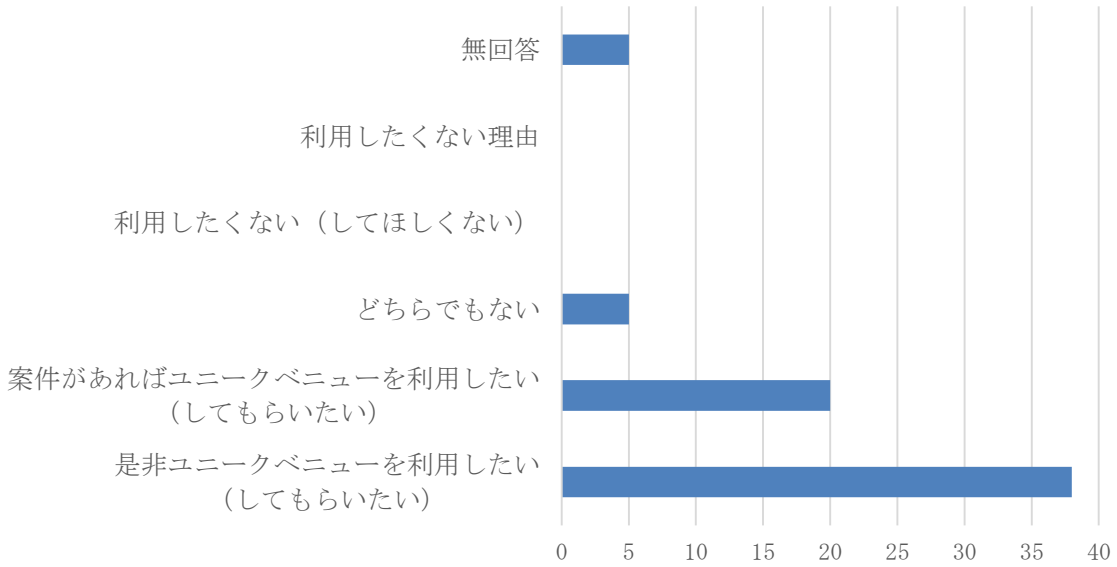


大変参考になった	25
参考になった	33
どちらでもない	2
参考にならなかった	0
参考になった・ならなかった理由	15
無回答	6

【参考になった・ならなかった理由】
・ユニークベニュー＋コンテンツが重要で、その為には良いAVパートナーとの提携も重要とのこと。
・テクノロジー、アイデア事例が豊富であった。
・どんな会場、イベントでも活用できる技術が沢山ある事が分かった。
・AVパートナーを持つというところがすごく印象的であった。
・具体例を取り入れた内容でイベントを構成する様々なツール、どれも初めて見るケースで大変勉強になった。
・最新技術と工夫のバリエーション。
・大規模な事例に感じたが、構成要素は参考になった。
・プレゼンテーションのクオリティの違い。
・アイデアや取組について。
・AVに特化していたので広範囲の情報を今後期待。
・動画等の事例紹介があったため。
・AVパートナーについての視点は自分の中になかったので発見になった。

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（オ）セミナー参加後のユニークベニュー（今回の会場に限らず）利活用に対する意向



是非ユニークベニューを利用したい（してもらいたい）	38
案件があればユニークベニューを利用したい（してもらいたい）	20
どちらでもない	5
利用したくない（してほしくない）	0
利用したくない理由	0
無回答	5

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

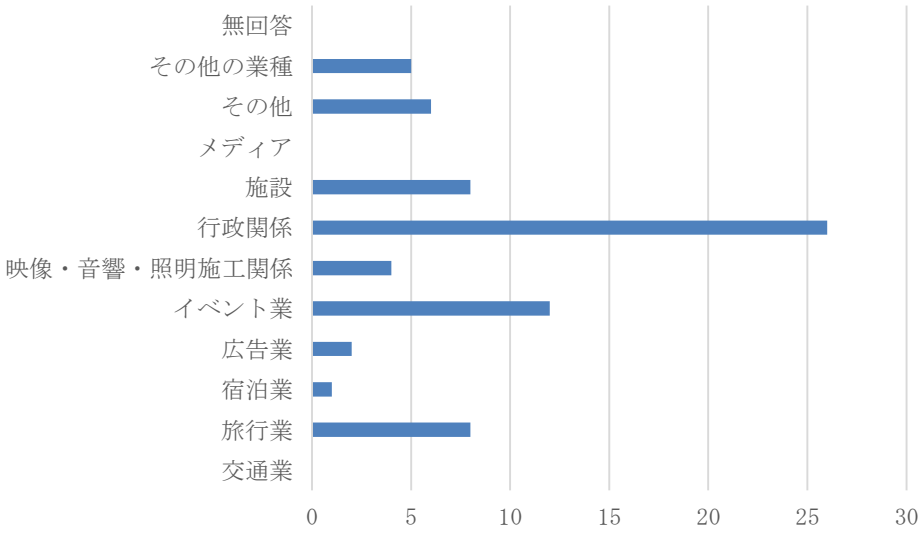
（カ）その他ご意見・ご要望

・ストーリーのあるベニュー企画には大変興味がある。メモを取りやすい会場設定であればスクール形式、荷物置きのスペースやコートをかけるハンガースペースがある等の工夫は必要であることがわかった。
・海外のユニークベニュー活用について、（日本では規制されている）展示物付近での飲食について、どういうプロセス、予防法等をとって可能となるようになったか事例等を聞きたい。
・今後は行政とユニークベニューとの関連をより推進する為のセミナ等あればまた参加したい。
・セミナーでノートを取る時にシアター形式ではなくスクール形式が良かった。
・休憩と交流会がスムーズだった。
・従来の会館をホールでの形式でない「空間」での会議は新たな事業展開を生むと思う。
今後も参考になる事業系のセミナーを期待している。
・ユニークベニューという言葉の定義が変わってきた気がする。「通常では使用許可が下りにくいもの」「貸切にできるもの」というイメージが強かったが、「貸し会場もユニークベニューとして考えていい」「公共施設、公園等は貸切占有にする事が必須ではないこと」等現実的な実例を学ばせて頂いた。
・良い会場があれば積極的に見に行きたい。具体例な事例紹介をさらに知りたいです。今回はドイツだったので他国の事例も知りたい。入場Passは名刺を入れる形式にしていただいた方が休憩時間中の交換がやりやすい。
・飲食の問題が大きいと思うので日本の現実にあった対応セミナーなど、より実態に合った対応セミナーなどがあれば良い。
・一般的なセミナーレイアウト幅、クロークの重要性、施行例でなく受け側になって分かる事があった。
・ユニークベニュービジネスセミナーということであれば、もっと具体的に制約事項およびその回選方法、窓口の提示等をして欲しい。

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

奈良会場　　記入者情報　参加者数77名／回答者数60名

（ア）業種

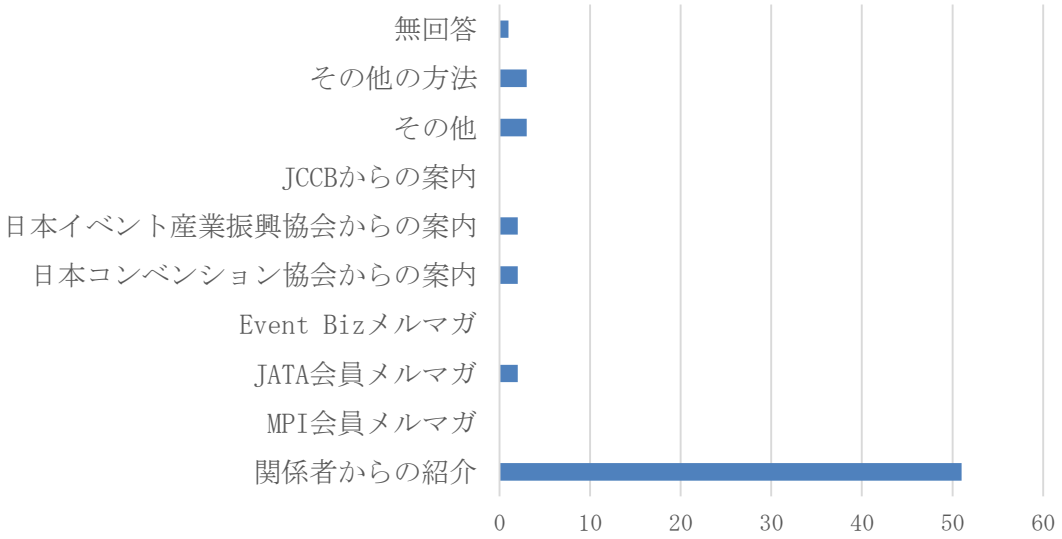


交通業	0
旅行業	8
宿泊業	1
広告業	2
イベント業	12
映像・音響・照明施工関係	4
行政関係	26
施設	8
メディア	0
その他	6
その他の業種	5
無回答	0

【その他の業種】
・大学教員
・大学観光教員
・コンベンションビューロー
・寺院

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（イ）どのように知ったか

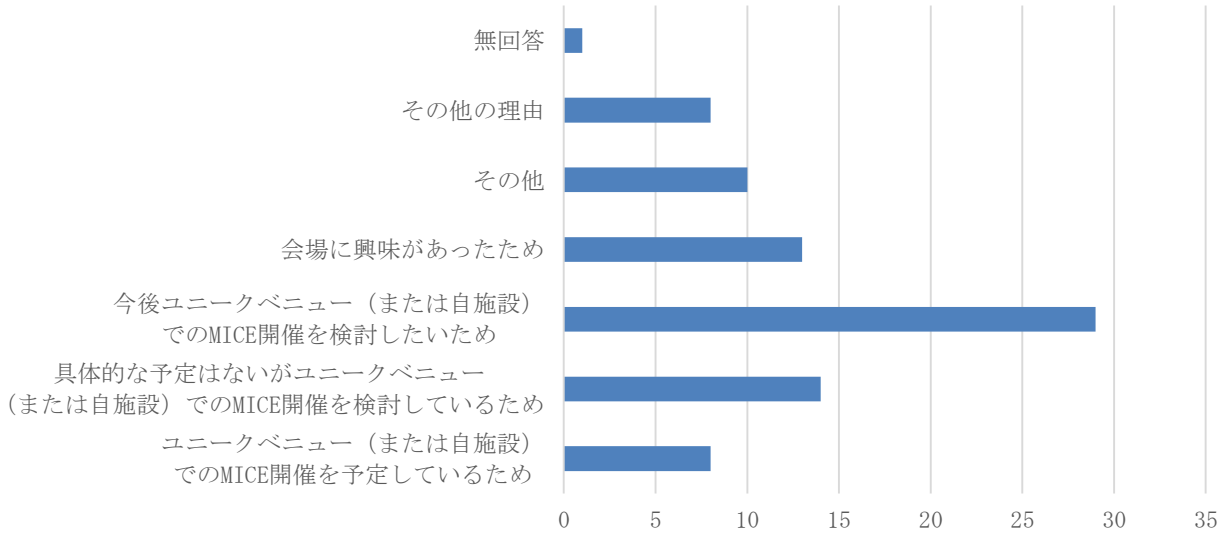


関係者からの紹介	51
MPI会員メルマガ	0
JATA会員メルマガ	2
Event Bizメルマガ	0
日本コンベンション協会からの案内	2
日本イベント産業振興協会からの案内	2
JCCBからの案内	0
その他	3
その他の方法	3
無回答	1

【その他の方法】
・関係者
・西国三十三所からの案内
・奈良県ビジターズビューローからの紹介

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（ウ）参加の理由

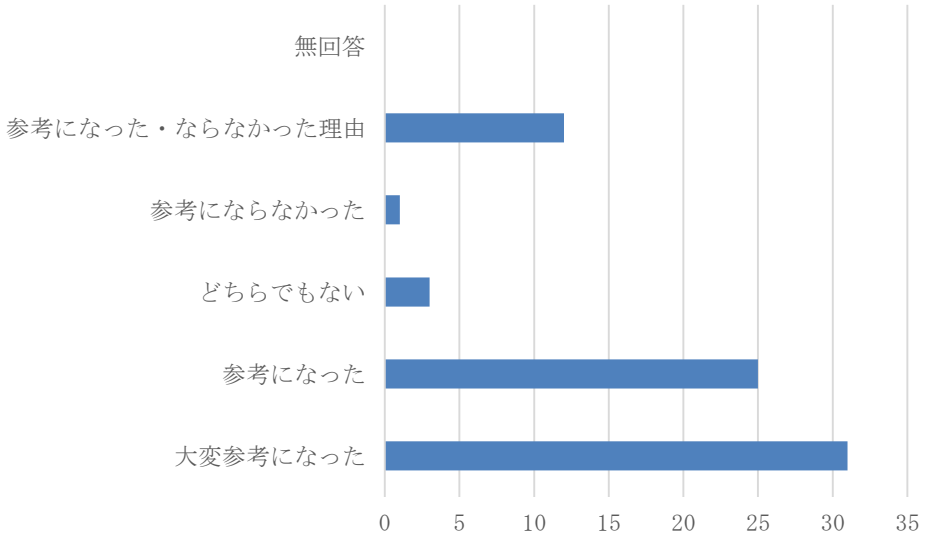


ユニークベニュー（または自施設）でのMICE開催を予定しているため	8
具体的な予定はないがユニークベニュー（または自施設）でのMICE開催を検討しているため	14
今後ユニークベニュー（または自施設）でのMICE開催を検討したいため	29
会場に興味があったため	13
その他	10
その他の理由	8
無回答	1

【その他の理由】
・ユニークベニューの勉強のため。
・MICEの意義を学生に伝えるため。
・ユニークベニュー誘致強化のため。
・ユニークベニュー開発のため。
・イベント設営の会社のため、今後の勉強のため。
・ユニークベニューの最新情報を得るため。

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（エ）①《基調講演》ドイツ・ベルリン先進事例紹介について

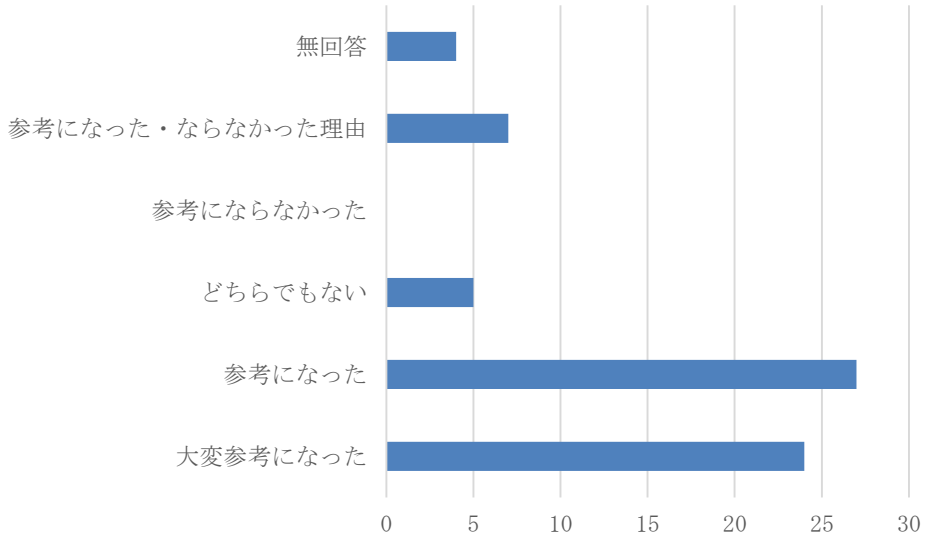


【参考になった・ならなかった理由】
・どう今の仕事とつなげられるかをこれから考えないといけない。
・事例が多くてわかりやすかった。アイデア、技術の重要性を痛感した。
・1965年に訪問して以来のことでベルリンの大きな変化に驚きました。日独が同じように頑張っているので安心した。
・JTBの人の話が上手。重文でのおもてなしは良かった。最後のドイツの人の話は良かった。
・なかなか日本ではできないユニークベニューの事例が見られて良かった。
・奈良県においてMICE×ユニークベニューの可能性があることを再認識できました。
・施設も重要だが、企画やクライアントを感動させるストーリー作りに感銘を受けた。
・先進事例を生で聞く事ができ、大変参考になった。
・何がユニークベニューになりえるかが良く分かった。
・JTBさん、KFPさんのお話が大変参考になった。行政をはじめ、色々な方々との協力関係のもとストーリーが大切との理解ができた。
・コンセプトがまず大切という点。

大変参考になった	31
参考になった	25
どちらでもない	3
参考にならなかった	1
参考になった・ならなかった理由	12
無回答	0

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（エ）②《特別講演Ⅰ》国内先進事例紹介について

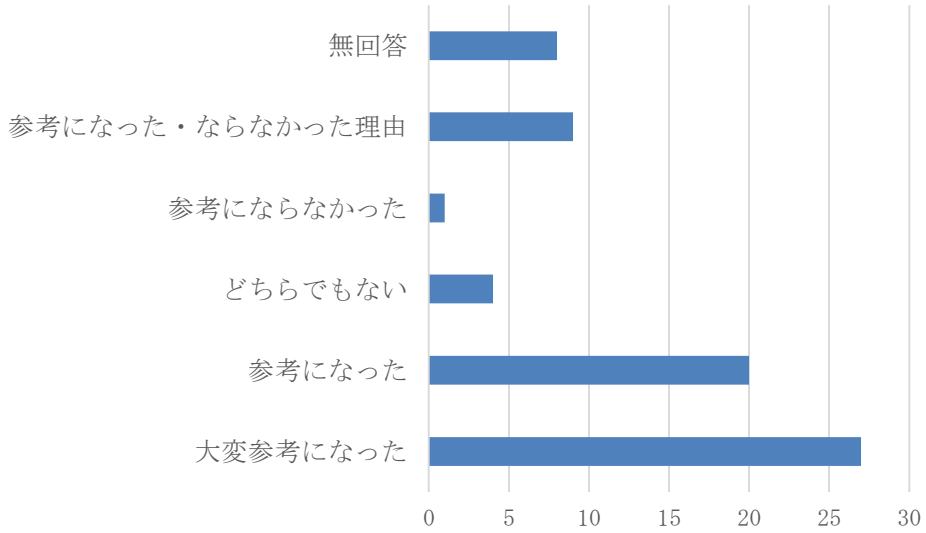


大変参考になった	24
参考になった	27
どちらでもない	5
参考にならなかった	0
参考になった・ならなかった理由	7
無回答	4

【参考になった・ならなかった理由】
・ユニークベニューは作れる。
・日本での動きがなかなか見えてこない部分もあるので今日はそれが見えて良かった。
・東京の事例を参考にしたい。
・何がユニークベニューになりえるかが良く分かった。
・JTBさんの事例と全体のお話、単にユニークベニューだけでなくその地域の情報も反映してプログラムを作り、ストーリーにしたてて作り上げていくことが大切だという言葉が印象に残った。
・世界における日本のMICE事情がよくわかった点。

2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（エ）③《特別講演Ⅱ》ドイツ・ベルリンにおけるユニークベニュー活用の実例紹介について

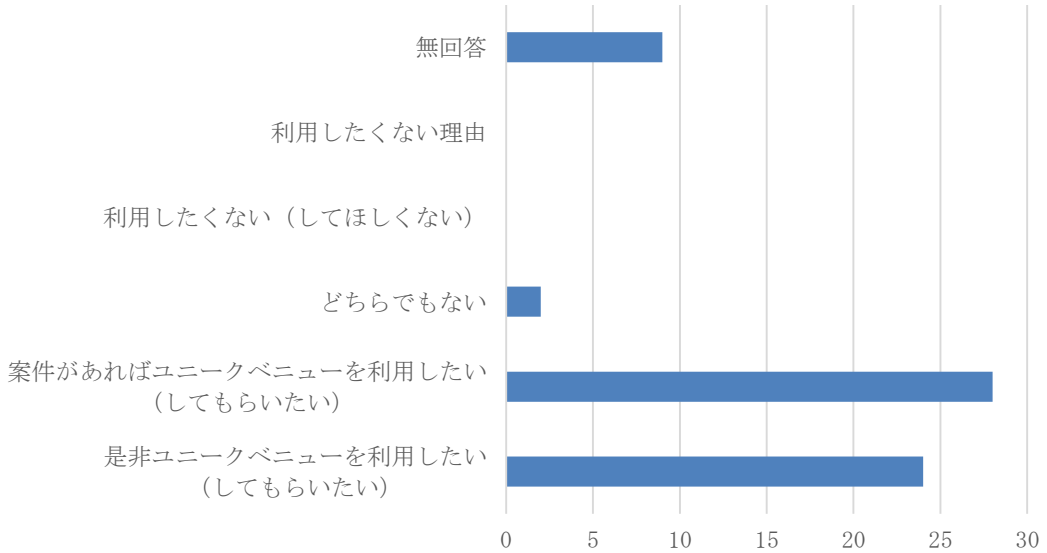


大変参考になった	27
参考になった	20
どちらでもない	4
参考にならなかった	1
参考になった・ならなかった理由	9
無回答	8

【参考になった・ならなかった理由】
・MICEの規模が大きすぎて実際の業務から見ると現実的ではなかったが、世界の潮流を学べた。
・ドイツらしい企業向けイベント、ユニークベニューであった。
・技術的なことや、演出の重要性が分かった。
・ユニークベニュー会場をイベントテクノロジーを活用してより特別感のある会場にする事が重要だと思った。
・施設以外でのユニークベニュー利用に重要なポイントを知ることができた。
・インスピレーションを得た。モチベーションが上がった。
・あくまでもクライアントの趣向のための手段であるという点。

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

（オ）セミナー参加後のユニークベニュー（今回の会場に限らず）利活用に対する意向



是非ユニークベニューを利用したい（してもらいたい）	24
案件があればユニークベニューを利用したい（してもらいたい）	28
どちらでもない	2
利用したくない（してほしくない）	0
利用したくない理由	0
無回答	9

（カ）その他ご意見・ご要望

・奈良においても数々のユニークベニューを開発して頂きたい。
・ドイツの例だけでなく、パリ等世界中の成功事例の実例紹介があればと思った。
・内容が濃くてためになったセミナーだった。
・フランスやスペインについても聞いてみたい。
・ユニークベニュー施設のHP上での紹介、検索が可能なサイト（自治体の枠を超えた）を希望する。
・ユニークベニュー実施具体例、ユニークベニュー情報（日本国内各地）をワンストップで見られるサイトが欲しい。
・海外のMICEの取組が聞けて大変参考になった。日本以上に細やかな点を考えている。
・既存施設をユニークベニューにするために、どのようなことが必要なのか先進事例を含め、話が聞きたかった。
・歓談の時間が多くあれば良かった。
・素晴らしいロケーションセミナーだった。実り多かった。また参加させて頂ければと思った。

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

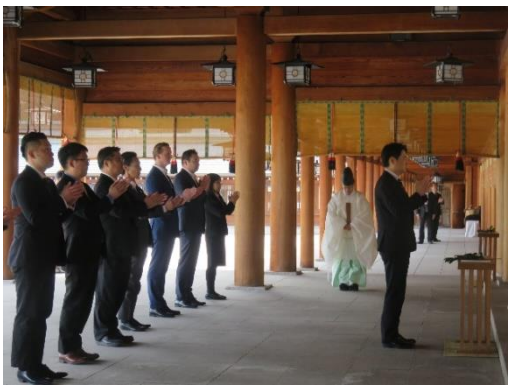
【「ユニークベニュービジネスセミナー」当日の様子】

■平成30年2月14日　東京会場　清澄庭園

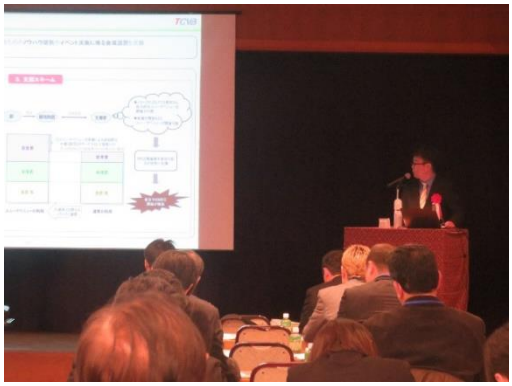
2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

2－6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

■平成30年2月16日　奈良会場　橿原神宮



2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催



2−6　ユニークベニュー利活用促進セミナーの開催

３．総　括

（１）採択事業に対するアンケート・ヒアリング調査に関して
（コンベンションビューローへのアンケート調査を含む）

主催者・施設管理者・運営・コンベンションビューローへの調査によって、それぞれの立場からの意見を整理した。主催者や運営側のコンベンションビューローへの期待は依然として大きい。日本においては、コンベンションビューローがユニークベニューを発掘し開放に向けて施設に対し働きかけをしてきた。施設側には様々なハードルがあり人員や維持管理、法制等の理由により開放に対して消極的な施設も少なくない。そういった施設側の障壁を一つ一つ丁寧に交渉し長時間かけてようやく解放に至った例も散見する。日本においては神社仏閣、美術館・博物館がユニークベニューの代表的な施設であるが、それぞれに固有の事情や制約がある。ユニークベニューの開放に至る経緯もあり、施設の事をよく知るコンベンションビューローが、運営事業者と施設管理者の仲介役として機能している場合が多い。
コンベンションビューローが開放に向けた取組の中で課題と感じていることは、時間制限や飲料制限等の規制であるが、同時に「施設が開放にメリットを感じていない」という声も多く挙がっている。
参加者からのアンケートではユニークベニューの評価は高く、採択案件の全てにおいて参加者の満足度は高いものであった。顧客満足度向上の面でもユニークベニューの活用は効果的であるという結果であったが、今後、ユニークベニューの活用を推進するには施設側のモチベーションの向上が必要であり、そのためにはメリットの明確化がポイントになると考える。

本事業で採択した6案件中5件が学会であった。コンベンションビューローの学会に対する関心度は高く誘致の段階から主催者（候補）と連携してセールスを展開している。
一方で企業系MICEの誘致活動は積極的な活動をしているところは少ない。主催者へ直接コンタクトが取りづらいことと、企画から実施までの期間が短いことが要因となっている。クイックレスポンスが求められる企業系MICEの問い合わせには対応できていない現状がアンケートからも読み取れる。今後、企業系の案件に備えるためには、問い合わせに対する対応力の強化が必要である。また、スペックや平面図、写真等基礎的な資料の準備も必要となっている。

（２）先進事例調査から明らかになった点

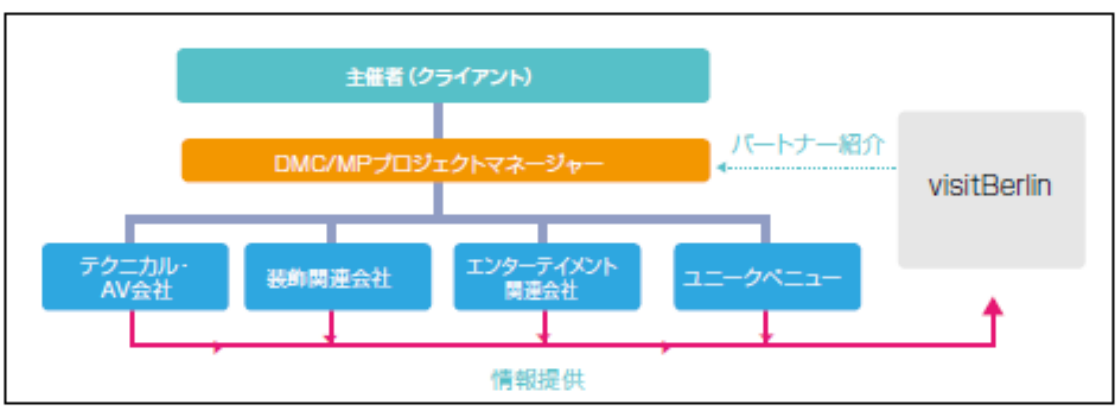
国内先進事例では岡山市を調査対象とした。岡山市の様に産官学が連携してMICE誘致に取り組んでいる都市はいくつかあるが、MICEの開催地決定から当日の実施までを一貫してサポートする機能を持つ例はあまり見られない。
日本においてはユニークベニューを取り巻くコンソーシアム（事業者連携）の構築が進んでいないが、岡山市においてはコンベンションビューローが運営の中核を担い事業者との連携を果たしている。
また、岡山市は各種ベニューが近隣に存在する位置関係からMICE誘致におけるキャッチコピーを「コンパクトシティ」としている。岡山コンベンションセンターと、その周辺に存在する宿泊施設や岡山後楽園、岡山城といったユニークベニューでも活用される文化施設を一つのパッケージの中に落とし込み、「魅力が密集する街コンパクトシティ」というブランディングでプロモーションを行っている。MICE誘致全般において予算措置は岡山市が行うが、戦略はコンベンションビューローが立案し、数々のイベントを経験することで、そこにナレッジが集約していくという好循環を生み出している。

3．総　括

この様に行政主導でMICEを誘致し、それに呼応し賛同する施設が増えていくというのも、一つのモデルとなるであろう。
もともとMICEの誘致活動は、都市としての競争力を向上させるためのシティプロモーションであり、魅力ある街づくりという行政の本道と合致するものである。

海外先進事例調査ではドイツ・ベルリンを調査対象とした。ドイツにおいてはユニークベニューという言葉は使われていない。日本のユニークベニューにあたる言葉は、オフサイトベニューまたはエクストラベニューである。MICEの運営におけるドイツと日本の最大の違いは、その仕組みと構図にある。
日本のコンベンションビューローは施設開放に向け様々な働きかけをし、主催者との間に立つが、ベルリンのコンベンションビューロー（VisitBerlin)はそれを行わず、サイトを構築してベニューの紹介業務に徹している。
また、企画時におけるストーリー（コンセプト）を重視する傾向が強いこともベルリンにおけるMICE運営の特徴であった。ミーティングプランナーはクライアントのニーズを把握し、単なる会場等のアレンジャーではなく、そのイベントに沿ったストーリーを作り上げ、その内容に合った演出を手配していく。その際に欠かせないのが「テクニカルパートナー」である。彼らはミーティングプランナーからの依頼により、会場の照明、音響、装飾、デジタル、ホログラムやプロジェクションマッピング等を行う。与えられたストーリーを咀嚼し、そのストーリーを具現化する、いわば「演出のプロフェッショナル」である。
主催者から施工会社までの各段階の事業者がMICEのコンセプト（ストーリー）に沿って、それぞれの立場でアイディアを出しあい、当初の計画がよりも良いものに出来上がっていく印象がある。
本事業で招請した2名のドイツのMICE関係者は次のように述べた。「ベニューとは箱である。肝心なのはそこに何を投じるかである。プロとは顧客のニーズ（予算も含めた）に合わせ最適なプランを計画するもので、そのプランの種類は顧客の数だけ存在する」。

施設への調査では、彼らがベニューを開放するメリットは収益であるという結果が出ている。それにより、修繕・維持にかかる費用も施設が負担している。
特筆すべきは多くの施設でイベントを開催する際に委託する専属事業者を定めていることである。施設は箱貸しに徹し、運営の一切を（契約している）事業者に委託している。



また、多くの施設では施設貸出に関する利用条件・規約が用意されている。
そして、利用時の様子をイメージしやすいよういに、実際のイベントの写真が様々なパターンで用意されている。さらに、施設における貸出中の損害については明確に利用者が負担するということが明文化・ルール化されており、この点も施設側のリスク軽減につながっている。

海外事例はベルリンに学び、国内事例は岡山の今を知ることで、その違いと、それぞれの良さや、強みを整理することが出来た。先進的なドイツと比較して、日本に足りないことは経験である。活用の歴史が浅い日本においては依然として国の支援がまだ必要な段階であり、まずは経験を積むことからはじめなくてはならない。関係事業者との連携方法やイベントを企画する際のストーリー構築等ベルリンの優れた点を取り込み、庭園やお城、寺社仏閣という日本ならではの魅力を存分に体感できる活用事例を数多く創出することが求められている。

（３）ユニークベニュー利活用セミナーの開催から明らかになった点

今回のセミナーは単なる事例報告の場ではなく、ユニークベニューを活用したモデル事例としての位置づけでもあった。橿原神宮の施設開放では奈良県ビジターズビューローと連携し、清澄庭園での開催では東京観光財団との連携で実施した。セミナー参加者の募集対象をMICEビジネスのプレイヤーにおいたことも特徴の一つであった。
イベント業界、広告代理店、旅行会社、PCO等に各業界団体等を通じてセミナー情報を発信し、両会場共大変多くの関係者が参加した。
講師は海外先進事例調査で関係を築いたミーティングプランナーとテクニカルパートナーを招請しドイツの生きた事例を紹介していただいた。メルセデスのバスの展示会事例ではブリュッセルのフラットな展示場に各種装飾や、映像、音響、照明の演出を行うことで、何でもない会場がいわば「ユニークベニュー」化した好事例で、参加者からの反応も高かった。
セミナーのアンケート調査においても、「技術的なことや、演出の重要性に気づかされた」、「これまでテクニカルパートナーという視点が全くなかった」、「ユニークベニューを基にさらにユニークさを創り上げていくことが重要」、「ストーリーその他の価値が大切である」など多くの反響を呼んだものであった。

（４）次年度以降の展望について

今年度の事業を通じて、ユニークベニューの利活用におけるコンベンションビューローの果たす役割が大変重要であることが改めて顕在化した。総じてコンベンションビューローはユニークベニューの重要性を認識しており、活用や開放に向けた取組を積極的に進めているところが多い。
ユニークベニュー利活用における障害や課題は依然として残っており、解決しなくてはならない点も多い。課題の代表的な「規約・規制の障害」、「施設側に対する継続的な普及・啓発活動の実施」について、以下整理するとともに解決に向けた方向性について検証した。

○規約・規制の障害
施設側の規制がユニークベニューの利活用における障害になっていることが今年度事業のヒアリングでも明らかとなっている。主なところでは、利用時間の制限、飲食の規制、硬直的な料金設定、周辺地域への影響等が挙げられる。

例えば、利用料金の設定が全体の貸切しか定められておらず、会議室一つ借りるだけでも数百万円が必要になる、あるいは、近隣住民への配慮のためにBGMを館内で流すことを禁じている施設もある。公立の施設では条例のため会場費を自由に設定できない場合も多く見受けられる。収入を得ることに制約があり、現場判断で対応ができないことがユニークベニュー促進における障壁の一つとなっている。

公立の施設（主に美術館・博物館）では市の条例（美術館条例）や施設側のルールに定められている記載事項、レピュテーションリスク等について固執する姿勢がみられ、主催者のニーズに対応できない状況が生じている。

美術館・博物館を管轄する文化庁では「ナイトミュージアムプロジェクト」等を推進し入場拝観以外での活用を促進しているが、国の方針による新しい取り組みが現場では負担に感じとられている現実も垣間見える。

公立の施設をユニークベニューとして活用しやすくするためには、現場への権限移譲を柱とする制度変更とともに実際の運営に立ち会う現場職員の意識変革も必要であることが浮き彫りとなった。

○施設側に対する継続的な普及・啓発活動の実施

日本では、施設管理者がユニークベニューにメリットを感じていないことがコンベンションビューローへのアンケート調査で数多く指摘されている。

海外先進事例調査（ベルリン）での施設管理者へのヒアリング調査では、収入が開放のメリットとして認識されていた。一方で日本における施設管理者へのヒアリングでは地域貢献や宗教活動に資することが開放の動機となっている場合が多く、施設自身のために開放するケースは少数派であった。

今後、ユニークベニュー利活用促進の上では、施設管理者の積極的な取組が不可欠であるが、それに至っていないのが現状である。

さらに、アンケート調査では施設側が開放によるデメリットを感じているという回答も散見した。休館日や営業時間外の施設貸出による労働力の確保や、不慣れで新たな業務が発生することに対するアレルギー、物損のリスクに対する過剰な意識がユニークベニュー解放における障害となっている。

「取組みたくない」という潜在的な意識が要因となり、規約・規制を楯に開放を拒むというような側面も推測できる。

公立の施設では収入がメリットになり難い環境にあるため、デメリットの解消にむけた対策が必要となってくる。施設に負担がかからない運営モデルの構築がユニークベニューへの開放に繋がると考える。

ベルリンでは施設管理者は会場を“箱貸し”するだけで、運営の一切を契約するイベント会社に委託している。MICEの開催では本番に至るまでの準備・計画が多岐にわたり、煩雑で膨大な業務が発生するが、そういった運営業務を地域の事業者にアウトソーシングできる体制がベルリンでは整っていた。

施設の負担が少ない運営環境を整備することは（ユニークベニュー活用の初期段階では）コンベンションビューローが担う役割だと考える。運営環境の整備とは地域の事業者（ケータリング、会場設営、音響証明）のコンソーシアムを構築することである。

ここで重要なのは、コンソーシアムを統括する民間事業者を地域内に置くことである。

３．総　括

通常、MICEを運営する事業者は主催者の近くに位置しており、首都圏に所在するのが一般的である。ユニークベニューを活用する際は、首都圏のMICE運営事業者が地域の事業者（ケータリング、会場設営、音響証明）を統括するため（図１）、運営の全体的なノウハウが地域の事業者に蓄積されないことが多い。主催者のニーズをONE STOP窓口で対応し、地域を取りまとめる地域内の運営会社の存在がユニークベニューの継続的な活用の上で大切であると考える。（図２）

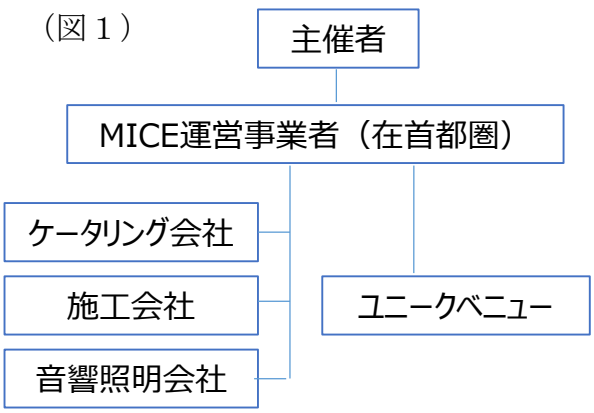
今年度事業で支援を受けた第23回世界神経学会議では醍醐寺の運営において京都コネクト株式会社が機能していた。京都コネクトは醍醐寺の指定業者である。学会の運営事業者である株式会社コングレは京都コネクトに醍醐寺でのレセプション運営を委託したが、スムーズな運営ができたことに対し高い評価を与えている。

通常のベニューでは普通にできていることが、ユニークベニューではできないという状況はよくある事である。施設固有の事情を理解し、一方でイベントにも精通している京都コネクトのような事業者は、施設管理者と運営事業者の双方にとって貴重な存在であるといえる。

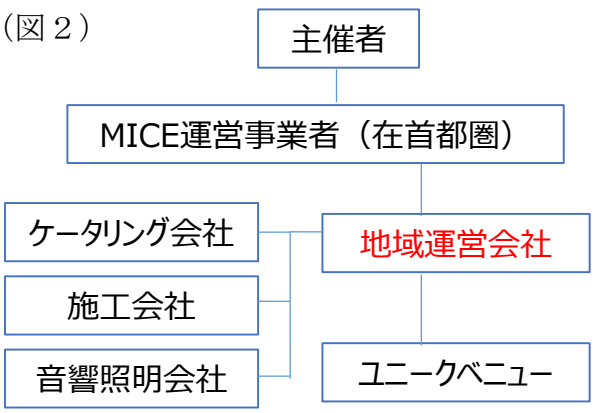
地域事業者のコンソーシアム構築とそれを統括する運営事業者を育成するためには、現場経験が必要である。実際の案件を運営してはじめてメリットや留意点が浮き彫りになるものである。しかし、実際の案件はそう簡単に発生するものではない。

国の支援によって実際の案件を創出することが、地域のコンソーシアムを構築するための一つの手段であると考える。

（図１）



（図２）



また、本事業における「ユニークベニュービジネスセミナー」でドイツから来日した講演者から、今後取り組むべき事項に関して以下の提言があった。

・イベント開催に向けた、ストーリー（コンセプト）作りを重要視すること

ドイツのミーティングプランナーは、オリジナルのプランにこだわった提案を目指している。既存のメニューを提供するのではなく、新しいアプローチ、新しいコンセプトを考えている。イベントはそれぞれ明確なコンセプトがあることが重要で、それがクライアントにとって忘れられない思い出・体験を生み出すことに繋がる。ミーティングプランナーにとって最も重要なことはクライアントの満足であるが、その為にどのようなストーリーを描くか真価が問われるところである。それはまさに脚本家が観衆を喜ばせるためにストーリーを作り上げるとの同じである。ストーリー構築はイベントに命の息吹を込むもので最も重要な作業である。

3．総　括

今までにないコンセプトをもとにイベントを創り上げたことによって、イベントがクライアントの記憶に残り、それが特別な体験となる。ユニークベニューは、まさにその印象的なストーリーを構築する上で重要な要素になる。

・ユニークベニューにおける演出効果を高める準備を行うこと

ユニークベニューでイベントを行う際は、設営担当者と共に、事前に会場を直接確認することが非常に重要である。ユニークであるからこそ、それぞれの会場によって電源、広さ、運搬の動線等設備や特徴等が異なるため、実際に目にしてその会場でイベントをするには何が必要であるかが明確になる。それを行い会場のスペックを把握することによって、革新的なコンセプトが生まれる。

そして、照明・音響・映像に関わらず、テクノロジーを活用した会場の演出は、イベント参加者に強い印象を与えるためにとても重要な役割を果たす。クライアントは強い印象を参加者に与えたいというニーズを持っており、それに加えてエンターテイメントやインスピレーションを与える様な演出を行うことは、非常に大切でありクライアントの記憶に留まる演出を提供できる。

今後、日本でのMICE誘致を拡大して行くためには、上記に挙げれられた点も踏まえて、ただ会場としてユニークベニューを利用するだけでなく、ユニークベニューの魅力を一層引き出すストーリーや演出を加えていく必要があると考える。